

WinCDR[®] 7.0

Windows[®]98/98SE/Me/NT4.0/2000/XP

ユーザーガイド



使用許諾契約書 - お使いになる前に必ずお読みください

株式会社アプリックス（「アプリックス」）は、お客様（この使用許諾契約書（「本契約書」）においては、個人か法人かに関わらず「お客様」と呼びます）に対して、お客様がアプリックスまたはアプリックスにより認められた第三者から、もしくは本契約書第1条第4項またはアプリックスの定めるこれと同等の契約条項に基づいて本ソフトウェアを入手し、かつ、本契約書に記載されたすべての条項を承諾することを条件に、添付のソフトウェアおよび文書類（「本ソフトウェア」）のライセンスを提供します。「本ソフトウェア」という言葉には、アプリックスが今後お客様に提供するすべてのアップグレード、パッチ、ボーナスコンポーネント、エラー訂正およびアドオンコンポーネントが含まれます（ただし、それらに別途で使用許諾契約書が添付されている場合はこの限りではありません）。本ソフトウェアにアクセスし、インストールし、あるいはご使用になる前に、本契約書の各条項をよくお読みください。本ソフトウェアにアクセスし、インストールし、あるいはご使用になると、お客様は本契約書に同意されたこととなります。もし、お客様が本契約書の内容に同意されない場合には、ご購入日から10日以内にお買い上げ店発行の領収証とともに未開封かつ未使用の状態でご購入店までご返送ください。もし、お客様が本ソフトウェアを、アプリックスのパッケージ製品としてお買い上げになり代金をお支払になっている場合には、お支払額を返金いたします。

本ソフトウェアは、知的財産権に関する諸法および諸条約により保護されています。また、本契約書に基づいて使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。

使用許諾条項

第1条（許諾される権利）

- お客様は、本契約書を遵守することを条件に、本ソフトウェアのコピー1本を1台のパーソナルコンピュータ上でインストールし使用する再許諾不能の非独占的な使用権を付与されるものとします。
- お客様がアプリックスから適正な許諾を取得し、かつ、必要な使用料をお支払になるとともに、各使用者が本契約書を遵守する場限り、お客様は、前項に定める使用方法に代わり、お客様の属する企業等の組織内の構成員に対し、ネットワークサーバー上に本ソフトウェアをインストールしその組織内のネットワークを通じて、または、本ソフトウェアが添付の媒体により個別にインストールされた他のパーソナルコンピュータ上で、本ソフトウェアを使用させることができます。
- 前項の場合を除き、お客様は第三者との間で本ソフトウェアを共同使用してはならず、また、再許諾し、貸出し、リースし、または商業的なホスティングサービスを提供することもできません。
- 本ソフトウェアの最初の使用者であるお客様は、本契約書と本ソフトウェアを第三者に対して直接譲渡することができます（当該第三者が個人的に本ソフトウェアを使用することを目的とする場限りに限ります）。譲渡の際には、お客様は、お買い上げになったときに同梱されていたすべてのソフトウェアおよびハードウェアとともに、本ソフトウェアのすべて（すべてのアップグレードと文書類を含む）を一緒に譲渡しなければなりません。なお、譲渡に先立ち、お客様が保有する本ソフトウェアのすべての複製物の使用が中止され、かつ、これらの複製物が消去されていることが必要です。また、この譲渡は、委託販売やその他の間接的な譲渡の方法によることはできません。譲受人は、使用の開始に先立ち、本契約書および本ソフトウェアの再譲渡禁止も含め、本契約書のすべての条項を遵守することに同意しなければなりません。なお、本条第2項の権利はいかなる場合も第三者に譲渡することはできません。
- 本ソフトウェアのうちの特定のコンポーネントは、ボーナスコンポーネントとして提供されることがあります（「ボーナスコンポーネント」）。本ソフトウェアの中にボーナスコンポーネントが含まれる場合、アプリックスの裁量により、当該コンポーネントについては本条第1項もしくは第4項で許諾された権利に加えて追加的な許諾権が付与されることがあります。かかる権利は、使用許諾契約書または本契約書の付属書に別途定められるものとし、これらの契約書または付属書は当該ボーナスコンポーネントのために本ソフトウェアに添付されるものとします。お客様はその契約書または付属書の内容に従ってのみ、ボーナスコンポーネントに関する追加的な許諾権を行使することができます。お客様がそれらの条項に同意されない場合、かかる追加的な許諾権を行使することはできません。
- 本契約書に従って本ソフトウェアをインストールした後は、バックアップまたはデータ保管の目的のため、アプリックスから提供されたオリジナルのメディアを保管願います。もし、本ソフトウェアを使用するためにオリジナルのメディアが必要となり、あるいは本ソフトウェアがアップグレードされた場合には、お客様は、本ソフトウェアをバックアップまたはデータ保管の目的のためにのみ1本の複製物を作成することができます。本項で明確に認められた場合を除いて、お客様は本ソフトウェアを複製することはできません。また、バックアップコピーやデータ保管コピーを本条第4項に基づいて譲渡することはできず、譲渡の際には直ちに消去しなければなりません。
- 本条で明確に許諾されていない権利は、すべてアプリックスが保有します。アプリックスとアプリックスに対して使用許諾をしている第三者（「アプリックスに対する許諾者」）が、本ソフトウェアおよびこれに関する知的財産について、すべての権利、権原および利益を有しています。本ソフトウェアの構造、シーケンス、構成およびコードはアプリックスおよびアプリックスに対する許諾者の重要な営業秘密であり、著作権により保護されるものです。

第2条（制限事項）

1. 本ソフトウェアは一個の製品として提供されます。本ソフトウェアを複数のコンピュータ上で使用するために、コンポーネントパーツに分けることはできません。
2. お客様は、本ソフトウェアのソースコードを入手するために、リバースエンジニアリングや修正、逆コンパイル、逆アセンブルその他の行為を行うことはできません。ただし、(a) その行為が、本条の制限にも拘わらず、法令により直接明白に許される場合で、(b) 他のソフトウェアと本ソフトウェアとの互換性を実現するためにその情報が必要不可欠で、かつ、(c) お客様がアプリケーションに対してその情報の提供を求めたにも拘わらず、アプリケーションが料金その他について合理的な条件でお客様にかかる情報を提供しない場合には、この限りではありません。本項に基づいてお客様が受領し、または取得した情報は、本項に定められた目的以外のために使用することはできず、また、第三者に開示したり、本ソフトウェア上の表現と同一または類似のソフトウェアを作成するために使用することもできません。
3. 本ソフトウェアが複数のプラットフォームや言語をサポートし、あるいはお客様が異なる複数のメディアで本ソフトウェアの提供を受けた場合には、お客様がコンピュータにインストールできるコピーの総数は第1条に従って適正に許諾を受けた数を超えることはできません。
4. 本ソフトウェアが非売品、または評価用、試験用もしくはベータ版、プレリリース版として表示されている場合には、お客様は本ソフトウェアを評価目的のみ使用することができ、また、第1条第4項に拘わらず、このような本ソフトウェアを譲渡することはできません。
5. 本契約書は、お客様に対してアプリケーションの商標やトレードマークに関する権利を許諾するものではありません。
6. もしお客様が本契約書のいずれかの条項に違反した場合には、本契約書は、アプリケーションの権利や救済を受ける利益を損なうことなく、自動的に終了します。その場合、お客様は直ちに本ソフトウェアのコピーをすべて破棄するとともに、その使用を中止しなければなりません。

第3条（サポート）

アプリケーションは、専らその載量により、本ソフトウェアに関するお客様の正規の使用に關して一定のサポートサービス（「サポート」）を提供することがあります。かかるサポートは、取扱説明書やアプリケーションのウェブサイトで表示されているアプリケーションの最新のサポートポリシーに準拠します。アプリケーションは、サポートポリシーをいつでも終了または変更することができます。お客様は、サポートの際にアプリケーションに対して提供した技術情報を、アプリケーションがその業務（製品サポートおよび製品開発を含む）のために使用することに同意します。この場合、アプリケーションは、かかる技術情報をお客様を特定できる形で使用しないものとします。なお、アプリケーションにより認められていない方法による使用または不正常使用、事故あるいはウイルスの結果として発生した問題については、アプリケーションはサポートの提供をお断りすることができます。また、第1条第4項に基づいて本ソフトウェアを譲り受けた者は、本条に基づくサポートを受けることはできません。

第4条（アップグレード）

本ソフトウェアが既存のソフトウェアのアップグレード版とされている場合、お客様は、アプリケーションからアップグレード対象として指定されたソフトウェア製品を使用するための適正な許諾を受けている必要があります。アップグレード版である本ソフトウェアは、アップグレード対象製品と交換されあるいはこれに追加されるものであり、また当該対象製品単体としての使用を以後不可能とするものです。本ソフトウェアが、お客様が一個の製品として許諾を受けたソフトウェアプログラムパッケージ中のコンポーネントのアップグレード版である場合、お客様は、本ソフトウェアを、その製品パッケージの一部としてのみ使用し、あるいは譲渡することができるものであり、複数のパーソナルコンピュータ上で使用するために分離することはできません。アップグレード版は、本契約書とは異なる、あるいはこれに追加する契約によって許諾されることがあります。

第5条（制限的保証と免責）

1. アプリケーションは、お客様が本ソフトウェアご購入後ユーザー登録を完了されていることを条件に、本ソフトウェア（但し、ボーナスコンポーネントを除く）が付属の文書の指示に従って使用したときから当該文書の記載に従って実質的に動作することを、お客様が本ソフトウェアを最初に受領してから90日間、保証します。この保証は、(a) 本項に定められた90日間の経過後に本ソフトウェアを第1条第4項に基づいて譲り受けた者（なお、当該90日以内に同条項に基づいて本ソフトウェアを譲り受けた者については、当該90日の残余の期間においてのみ、本項に定める保証が適用されます）、(b) 第2条第4項に定められたソフトウェア、については適用されません。アプリケーションの責任とお客様が受ける保証の範囲は、(a) アプリケーションのウェブサイトからのダウンロードによる本ソフトウェアの修正版の提供または交換、あるいは(b)もし、お客様が本ソフトウェアをパッケージ製品として購入された場合にはお客様が実際に本ソフトウェアについてお支払になった使用料の、また、お客様がパッケージ製品としてではなく他のソフトウェアやハードウェアを同梱したパッケージの構成物として購入した場合には500円の、それぞれ返金、のいずれかに限られます。本項に定める保証により新たに提供された本ソフトウェアの保証期間は、本来の保証期間の残余期間か、保証による新たな本ソフトウェアのダウンロードから30日のいずれか長い期間の満了日までとします。本条の保証を請求する場合には、お客様は領収証の写しを添えて本ソフトウェアを購入店まで返送しなければなりません。また、もし、本ソフトウェアの不具合が、不正規または不正常的な使用、事故あるいはウイルスの結果として発生したものである場合には、本条の保証、救済手段は適用されません。

- 前項に明確に定められている場合を除き、法律により許される最大限の範囲内で、アプリケーションおよびアプリケーションに対する許諾者は本ソフトウェアをそこに存在する不具合も含めて現状有姿で提供するものであり、本ソフトウェアおよびこれに関するサポートについて、権原があること、第三者の権利の不侵害、商業性、特定の目的への適合性、正確性、完全性、不具合および過失の不存在、職人的努力あるいは添付書類に記載されたとおりに稼動すること等に関して、明示または黙示が、また法律に定められているか否かを問わず、いかなる表明、保証、取り決めもしません。本ソフトウェアの使用または稼動およびサポートによって発生するすべての危険は、お客様の負担とします。また、アプリケーションは、アプリケーション以外の第三者のソフトウェア製品またはハードウェア製品により、またはこれに関連して発生したいかなる損害もしくは不利益についても一切責任を負いません。

第6条（責任の制限）

法律により許される最大限の範囲内で、いかなる場合にも、アプリケーションは、売上、利益またはデータの喪失、あるいは特別、間接的、付随的、偶発的もしくは懲罰的な損害について、本ソフトウェアの使用または使用不可能やサポートから発生したものであっても、その法的な理由付けのいかに関わらず、一切責任を負いません。たとえ、アプリケーションがそのような損害について事前に知りうる状況にあった場合でも同様です。また、いかなる場合でも、アプリケーションがお客様に負担する責任は、契約上の責任が不法行為上の責任（過失に基づく場合も含む）その他いかなる法的責任についても、お客様が実際に本ソフトウェアについてお支払になった使用料を超えません。たとえいかなる救済手段もその実質的な目的を達することができなかったとしても、本条の責任の制限は適用されます。

第7条（輸出規制）

本ソフトウェア（そこに含まれる技術データについて同じ）は、日本国の輸出規制法規の適用対象となることがあります。また、諸外国における輸出また輸入に関する規制法規の対象となることもあります。お客様はこれらのすべての法規を遵守することに同意するものとします。

第8条（準拠法）

本契約書およびこれに関するすべての紛争については、日本法が準拠法として適用されます。法例等による適用法の選択に関する定めは適用されません。本契約書、本ソフトウェアまたはサポートに関連するすべての紛争は、（社）国際商事仲裁協会の商事仲裁規則に従って、日本国東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。仲裁人によりなされた判断は最終的であり、当事者を拘束するものとします。

第9条（分離可能性）

もし本契約書に定めるいずれかの条項が法令違反、無効またはその他の理由で法的に効力が認められない場合であっても、かかる条項の存在は本契約書のその他の条項の効力に何らの影響も与えるものではありません。かかる条項は適用されないか、あるいは法律上必要な範囲で変更がなされるものとします。

第10条（完全な合意）

本契約書は、お客様とアプリケーションとの間の本ソフトウェアに関する完全な合意であり、本契約書に定める事項に関して本契約書の効力発生以前になされたすべての口頭または書面による合意、連絡、提案および表明に取って代わるものです。本契約書は、アプリケーションの正当な代表者により署名された書面による限り、変更することができません。

以上

本契約書に関してご不明な点がございましたら、株式会社アプリケーションまで書面にてご連絡ください。よう、よろしくお願いたします。

住所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-18

株式会社アプリケーション

Fax番号：03-3207-6624

Email：cs_eula@aplix.co.jp

[CSDL0001-02]

使用許諾契約付属書（ボーナスコンポーネント用）

<BIMODROM.SYS ドライバソフトウェア>

株式会社アプリックス（「アプリックス」）は、お客様に対して、お客様がアプリックスまたはアプリックスにより認められた第三者からBIMODROM.SYSドライバソフトウェア（「本プログラム」）を同梱したWinCDRを入手し、かつ、お客様がWinCDRパッケージのインストール時に合意する使用許諾契約書（「原使用許諾契約書」）およびこの使用許諾契約付属書（「本付属書」）に記載されたすべての条項を承諾されることを条件に、本プログラムのライセンスを提供します。本プログラムにアクセスし、インストールし、あるいはご使用になる前に本付属書の各条項をよくお読みください。本プログラムにアクセスし、インストールし、あるいはご使用になると、お客様は本付属書に同意されたこととなります。もし、お客様が本付属書の内容に同意されない場合には、お客様には本プログラムの使用は許諾されません。

【適用される契約】

お客様は、本プログラムの使用にあたり、原使用許諾契約書および本付属書に拘束されます。

【表示】

お客様は、本プログラムのいかなる複製物についてもオリジナルと同一のファイル名を維持し、すべての複製物について著作権に関する表示およびその他の財産権に関する表示を明記するものとします。

【複製】

お客様は、原使用許諾契約書によって許諾された権利に加えて、WinCDRによってのみ、ブータブルDISC（コンピュータをCD-ROMドライブから起動することを定めた El torito 規格に準拠した DISC）の作成を目的として本プログラムをフロッピーディスクおよび書き込み可能なDISCに複製することができます。

ブータブルDISC、本プログラムおよびその複製物を第三者に頒布することはできません。従ってお客様はブータブルDISCやブータブルDISCを制作する過程で作られたフロッピーディスクを第三者に引き渡し、あるいは、インターネットのWebサイト、FTPサイト、パソコン通信のBBSなど、一般に公開されているオンラインの媒体に蓄積、配備、化体することはできません。

原使用許諾契約書および本付属書に記載の目的以外での使用は、著作権法をはじめとするアプリックスの知的財産権への侵害となり、法律による処罰、損害賠償などの責を負うことがあります。

【ブータブルDISCの作成に関する制限等】

お客様は、ブータブルDISCの作成にあたり、その行為のために必要な権利を有さない場合、あるいは、アプリックスもしくは第三者の知的財産の利用条件に違反する場合には、かかるブータブルDISCの作成行為はこれらの権利の侵害となります。かかる権利侵害については、日本国法律による処罰および正当な権利者からの損害賠償請求の対象となります。また、本プログラムの利用とその結果は、すべてお客様の責任に帰すものであることをお客様は承認するものとします。

【本プログラムの保証の否認】

アプリックスは、本プログラムおよびその複製物について、一切の保証を否認します。本プログラムは、現状有姿で提供されるものであり、お客様はアプリックスから一切の保証を受けることができません。また、アプリックスはいかなる場合でもお客様の本プログラムの使用による損失および損害（利益および機会の逸失、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損害を含む一切の損害）について、予見可能性の有無を問わず、一切責任を負うことはありません。

CSDL0005-01

本製品の使用に関するご注意

本製品の使用については、本ユーザーガイド巻頭の「ソフトウェア使用許諾条項」に明記しています。

ご注意

CD-ROMや音楽CD、DVD-ROM、DVD-Videoの複製、もしくは部分的なコピーの作成及びその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。複製の際は、オリジナルCD、DVDの使用許諾条件、複製に関する注意事項や法律に従ってください。また、作成したCD、DVDの商用配布に関しては、作成するCD、DVDの規格のライセンサーの許諾が必要な場合があります。作成したCD、DVDの商用配布に関しては、作成するCD、DVDの規格のそれぞれのライセンサーにお問い合わせください。

本製品のサポートについて

サポートサービスは、製品の供給形態により、提供される内容が異なります。弊社ホームページにてご確認ください。

<http://www.aplix.co.jp/>

また、無償アップデートが提供される場合は、弊社ホームページからのダウンロードのみとさせていただきます。ご了承ください。

なお、弊社ホームページでは、オンラインでのユーザー登録、最新の製品情報やトラブルシューティング情報などもご案内させていただいております。

著作権

Copyright 1990-2003 Aplix Corporation. All rights reserved.

本書の一部または全部を株式会社アプリックスに無断で複写、転載することはできません。

商標

WinCDR®は、株式会社アプリックスの登録商標です。

Windows®、Windows NT® は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

ArcSoft VideImpression™及びArcSoft PhotoImpression™は米国ArcSoft Inc.の登録商標です。

DVDit!®は米国Sonic Solutionsの登録商標です。

その他、このマニュアルに記載されている社名・商品名およびロゴマークは、一般に各社の商標または登録商標です。

文中の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

文中の画面写真と実際の表示が異なる場合があります。

製品仕様等は、改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。

初 版 : 2001年10月
第12版 : 2003年 1月
Printed in Japan.

はじめに

WinCDR について

このたびはWinCDRをお買い求めいただき誠にありがとうございます。

WinCDRは、Windows環境で、専用の書き込み装置(レコーダ)を使用してCD/DVDメディアにデータを書き込むためのソフトウェアです。

本ユーザーガイドはレコーダの取り付け方法・設定方法については触れていません。それぞれの製品に付属している取扱説明書やマニュアルをご覧ください。正しく接続・設定した上でWinCDRをご使用ください。

本書の構成について

本書は7部構成になっています。

第1部では、WinCDRのインストールと起動、終了の方法と、WinCDRの基本的な使用方法、お使いになるうえで知っておいていただきたいことをまとめました。

WinCDRをお使いになる前に、必ずお読みください。

第2部では、WinCDR Liteの操作方法について説明しています。簡単な操作で基本的なCDを作成することができます。

第3部では、音楽CDの作成について記述しています。

オリジナル音楽CDの作成、オーディオデータからの音楽CD作成、CD TEXTの作成、WAVEファイルの作成、WAVEファイル編集、アナログ録音など、音楽CD作成に関わる操作方法について、まとめています。

第4部では、ファイルの保存について記述しています。

選択したファイルをISO 9660形式でCDに保存したり、UDF形式でDVDに保存する方法、条件にあったファイルを検索して保存するかんたんバックアップ、ハードディスクを丸ごとバックアップするドライブバックアップについて記述しています。

第5部では、新たに搭載されたMedia Encoder、Authoring Toolについて記述しています。

Media Encoderは、動画ファイルをDVD-Video、Video CD規格のMPEGファイルにエンコードしたり、AVI、MPEGファイルの編集、結合などを行います。

Authoring Toolは、DVD-Video、VideoCDの作成や、DVDメディアに大量のオーディオデータを保存するJukeboxDVD、デジカメなどの画像をスライドショー形式で保存するフォトアルバムを作成します。

DVDメディアへの書き込みの他に、CDメディアへの書き込みをサポートする機能もありますので、CDレコーダをお使いの方も、是非、お読みください。

第6部では、WinCDRに搭載しているその他のさまざまな機能について説明します。

第7部では、各ウインドウ、メニュー、コマンド、ダイアログウインドウについてまとめています。必要に応じてご参照ください。また、トラブルシューティングやユーザーサポートについても記述しています。WinCDRを使用して問題が発生したときなどにお読みください。

本書の表記について

- ・ 特に断り書きのない場合、Windows NT4.0、Windows 2000、Windows XP、Windows Me、Windows 98 SEおよびWindows98を「Windows」と表記しています。
- ・ Windowsのダイアログボックスは「ダイアログ」と表記しています。
- ・ ダイアログ内の表示内容をタブによって切り替えるものを「パネル」と表記しています。
- ・ WinCDRインストール後、何も変更を加えていない状態を「デフォルト」と表記しています。
- ・ アイコン、ボタン、フォルダなどにポインタを合わせ、マウスの左ボタンを押して離す操作を「クリック」、クリックをすばやく2回行うことを「ダブルクリック」と表記しています。
- ・ マウスの右ボタンを押して離す操作を「右クリック」と表記しています。
- ・ アイコン、フォルダなどにポインタを合わせ、マウスのボタンを押したまま移動し、目的の位置で離す操作を「ドラッグ」と表記しています。
- ・ 図版には、Windows 98の画面を使用しています。Windowsのバージョンにより、若干表示が異なる場合があります。
- ・ ダイアログなどのチェックボックス、オプションボタン（ラジオボタン）にポインタを合わせてクリックし、 または の状態にすることを「チェックする」と表記しています。
- ・ ダイアログなどのチェックボックス、オプションボタン（ラジオボタン）にポインタを合わせてクリックし、 または の状態にすることを「クリアする」と表記しています。
- ・ CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+RW/DVD+R はディスク自体を意味し、これらを総称して示す場合は「メディア」と表記しています。
- ・ CD/DVDメディアの書き込み装置を総称して「レコーダ」と表記しています。
- ・ 特に注意する点には「重要」「注意」「Note」を付けて記述しています。

WinCDR 7.0の主な特長

ボタン選択だけで作成したいCDへの素早いアクセスの実現（新機能）

[ランチャタブ]に搭載された機能選択ボタンをクリックするだけで、作成したいCDや、WinCDRに搭載されているさまざまな機能への素早いアクセスが可能です。

機能を厳選したWinCDR Liteを搭載（新機能） ●p.35

使用頻度の高い機能のみを厳選してWinCDR Liteに搭載しました。作成したいCDを選択するだけで、CDに合わせた最適な設定が自動的に行われますので、面倒な作業から解放されます。初心者ユーザーにも易しいマニュアルレスな環境を提供します。

DVDメディアへの対応（新機能）

DVDメディアに本格的に対応しました。DVD-Videoの作成の他、UDFフォーマットでDVDメディアにデータを書き込むことができます。また、DVDメディアへのハードディスクバックアップ、DVD-ROMのコピーも可能です。

DVD-Videoなど、著作権保護信号が書き込まれているDVDは、複製できません。

ビデオファイルのエンコード（新機能） ●p.127

AVI、MPEG1/MPEG2ファイルを、DVD-Video、Video CD準拠のMPEGファイルに、高速・高画質でエンコードします。また、動画の不要部分をカットする編集機能、AVI、MPEGファイルを結合しエンコードする連結機能を搭載しています。

WinCDR 7.0 SEでは、一部の機能のみお使いになれます。

この機能は、Windows NTではお使いになれません。

DVD-Video/Video CD 2.0（新機能） ●p.148

DVD-VideoやVideo CDの作成が手軽にできるオーサリング機能を搭載しました。あらかじめ用意された再生手順とスタイルの利用で、手軽にオーサリング作業が行えます。また、MPEG2を使いDVD-Video形式でCDメディアに書き込むminiDVDもサポートしています。

WinCDR 7.0 SEでは、一部の機能のみお使いになれます。

この機能は、Windows NTではお使いになれません。

JukeboxDVDの作成（新機能） ●p.148

家庭用のDVDプレーヤーで長時間再生可能な音楽専用DVDを作成することができます。

この機能はWinCDR 7.0 SEではお使いになれません。

この機能は、Windows NTではお使いになれません。

Video CD 2.0 準拠のフォトアルバム作成（新機能） ●p.148

スライドショー形式のVideo CDを作成することができます。500枚以上の画像データをVideo CD 2.0に準拠したフォトアルバムとして記録します。

この機能は、Windows NTではお使いになれません。

オリジナル音楽CD作成ウィザード ●p.49

複数枚の音楽CDからオリジナルのベストCDを作成する専用のウィザードがさらに使いやすくなりました。ボタンを選択し、ウィザードにしたがい操作するだけで、簡単にベストCDが作成できます。

ハードディスクのバックアップ（機能強化） ●p.110

シマンテック社製"NORTON Ghost"とWinCDR 7.0の連携で、簡単な操作でシステムを含めたハードディスクのバックアップを行うドライブバックアップ機能が、Windows XPに対応しました。また、DVDメディアへのバックアップにも対応し、大容量ハードディスクのバックアップに威力を発揮します。

NORTON Ghostは株式会社シマンテックの登録商標です。

Ghostの制限によりWindows 2000/XPのダイナミックディスクには対応していません。

エクスプローラ ライクな操作環境

上下分割画面で表示されるエクスプローラから、ウェルにファイルやフォルダをドラッグするだけで、簡単にCDを作ることができます。

かんたんバックアップ

アプリケーションソフトを選択するだけで、そのアプリケーションソフトで作られたファイルを検索・記録します。更新履歴をデータベース管理しているため、2回目以降はショートカットをダブルクリックするだけで自動的に最新のファイルをバックアップします。

MP3データファイルのデコード、バックアップ

MP3形式で圧縮された音楽ファイルを、オンザフライでCDに書き込めます。ドラッグアンドドロップでMP3データから音楽CDが作成できます。

MP3へのエンコードはWinCDRではサポートしていません。別途MP3エンコードソフト、またはMP3ファイルが必要です。

インターネットの曲情報データベースからのデータダウンロード

音楽CDを作成する際、WinCDRはボタンをクリックするだけで曲情報のデータベースに接続し、CD TEXTを初めとする音楽CDに関するデータのダウンロードを行います。一度ダウンロードされたCD情報はWinCDRが管理しており、2回目以降は接続しなくても情報表示を行います。

この機能はインターネットにつながる環境であればすぐにご利用できます。

アナログ録音、波形編集、エフェクト（機能強化）

音楽CDだけでなく、テープ、レコード類のアナログ音源からも、録音・編集することができます。録音したWAVEデータは波形編集機能により、画面上で自在に編集が行えます。波形編集にはノイズゲート、フェードイン/フェードアウト、ミュート、サイレンス、ノーマライズ機能がついています。

また、ボリュームの変更、リバーブ、コーラスなど、音楽トラック全体に効果をかけるエフェクト機能を新たに搭載しました。

エフェクト機能は、Windows NTではお使いになれません。

CD TEXT対応で広がる音楽CDの世界

英語と日本語のCD TEXTに対応。音楽CDにアルバム名、アーティスト名、曲名などの文字情報を付加することができます。また、CD Extra等のフォーマットと組み合わせて使うことも可能です。

CD TEXTの書き込みを行うには、対応したレコーダが必要です。

CD TEXTに対応したCDプレーヤで再生すると、曲名等を表示させることができます。音楽の再生は、一般のCDプレーヤで行えます。

日本語の表示には、CDプレーヤが日本語のCD TEXTの表示に対応している必要があります。

セッションアットワンス書き込みにも対応

従来のトラックアットワンス方式だけでなく、民生用としてはWinCDRが世界で初めて可能にしたセッションアットワンス方式の書き込みも可能です。Enhanced CD(CD Extra)を作成する際に、トラックアットワンスで発生していたトラック間の「つぎめ」がなくなります。

レコーダがセッションアットワンスに対応している必要があります。

リペア機能で、書き込みに失敗したCD-Rも復活

リペア機能を搭載することで、廃棄するしかなかった書き込みに失敗したCD-Rの残り領域を再利用可能にします。

リペアしたCD-Rは、ISO 9660形式のCD-ROMとしてのみご利用いただけます。

データはオンザフライでスピード書き込み

ISO 9660形式のCD-ROMを作成する際、ハードディスクにイメージファイルを作成せずに、CD-R/CD-RWに直接書き込む「オンザフライ機能」も搭載しています。

重要： 市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

動作環境

WinCDR 7.0

システム構成

- ・ コンピュータ本体：Pentium II/Celeron 300MHz以上（CD書き込み時）、Pentium III 450MHz/Celeron 533MHz以上（DVD書き込み時）のCPUを搭載したAT互換機
- ・ メモリ：64MB以上（128MB以上推奨、MPEGエンコード機能使用時128MB以上必須）
- ・ システムソフトウェア：Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me、Windows® 2000、Windows® XP Home Edition、Windows® XP Professional、WindowsNT® 4.0 各日本語版が動作している環境
（MPEGエンコード機能、オーサリング機能、エフェクト機能使用時はOSにDirectX 8が組み込まれていることが必要です。なお、これらの機能はWindows NT 4.0では使用できません。）
- ・ ディスプレイ：800×600 16bit以上のカラーディスプレイ
（1024×768 24bit推奨、オーサリング機能使用時1024×768 24bit必須）

必要なハードディスクの空き容量

- ・ WinCDRをインストールする領域：

WinCDR7.0 Ultimate DVD	最小約 100MB
WinCDR7.0 SE	最小約 40MB
WinCDR7.0 CD EnjoyPack	最小約 40MB（WinCDRのみをインストールする場合）
	最大約 300MB（すべてのアドオンソフトをインストールする場合）

他に以下の領域が必要です。

CD書き込み時700MB、DVD書き込み時5GB

MPEGエンコード機能、オーサリング機能使用時：700MB（CD）10GB（DVD）

ドライブバックアップを実行する際の重要事項

- ・ DOSシステムの起動が可能なフロッピーディスクドライブが必要です。
- ・ バックアップイメージを保存する作業用ドライブが必要です。
- ・ 記録メディアの読み込みに対応したPC内蔵のCD/DVDドライブが必要です。

作業領域として使用するドライブの制限事項

作業用ドライブは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ バックアップするドライブ（パーティション）とは別のドライブ（パーティション）が必要です。
- ・ バックアップするドライブ（パーティション）のデータ容量と、同等以上の空き容量が必要です。
- ・ FAT16、FAT32でフォーマットされている必要があります。NTFSフォーマットを含む別フォーマットのドライブ（パーティション）を利用することはできません。

Note バックアップ元のドライブ（パーティション）は、NTFSフォーマットでもバックアップ可能です。

Windows 2000/XP/NTでのドライブバックアップの制限事項

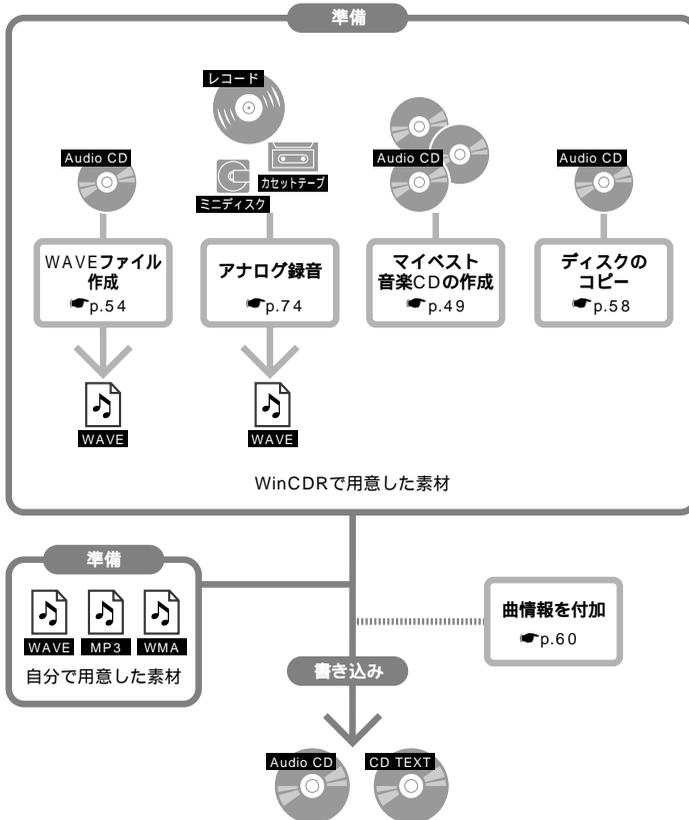
- ・ Windows 2000/XPのダイナミックディスクには対応していません。
- ・ PC内蔵以外のハードディスクは利用できません。

WinCDRでできること

WinCDRでは、目的に応じてさまざまな種類のディスクを作成することができます。また、その他の豊富な機能は、ディスクを作成する際の助けとなります。

音楽CDの作成

音楽CDプレーヤーで再生できる音楽CDです。WAVE形式やMP3形式、WMA形式の音声ファイルから音楽CDを作成したり、複数の音楽CDからオリジナルの音楽CDを作成することができます。また、音楽CDからWAVEファイルを作成したり、レコードやテープなどのアナログ音源からもWAVEファイルを作成することができます。



その他に、こんなこともできます。

オーディオとデータを1枚のメディアに書き込むEnhanced CD [p.70](#)

WAVEファイルを編集したりエフェクトをかけるWAVE編集 [p.79](#)

DVD-Video/Video CD

MPEG形式の動画ファイルをDVDやCDに書き込んだものです。

デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどで録画したムービーは、通常、そのままではDVD-VideoやVideo CD作成に使うことはできません。以下、どのような流れでDVD-VideoやVideo CDを作成するか、おおまかに説明しながら、WinCDRの機能について紹介します。

まず、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキをIEEE1394でパソコンとつないで、ムービーをパソコンのハードディスクに取り込んでください（この作業については、それぞれの取り扱い説明書などを参照してください）。

ここからが、WinCDRの出番です。ハードディスクに取り込んだデータは、通常、AVI形式のファイルになります（最近ではMPEGファイルとして取り込むこともあります）。

DVD-Videoとして書き込めるのはMPEG2形式のファイル、Video CDとして書き込めるのはMPEG1形式のファイルです。

Media Encoderの役割

Media Encoderは、AVIファイルをDVD-Video準拠のMPEG2ファイル、Video CD準拠のMPEG1ファイルにエンコードします。さらに編集機能を使って不要な箇所をカットしたり、2つ以上のムービーを連結することもできます。

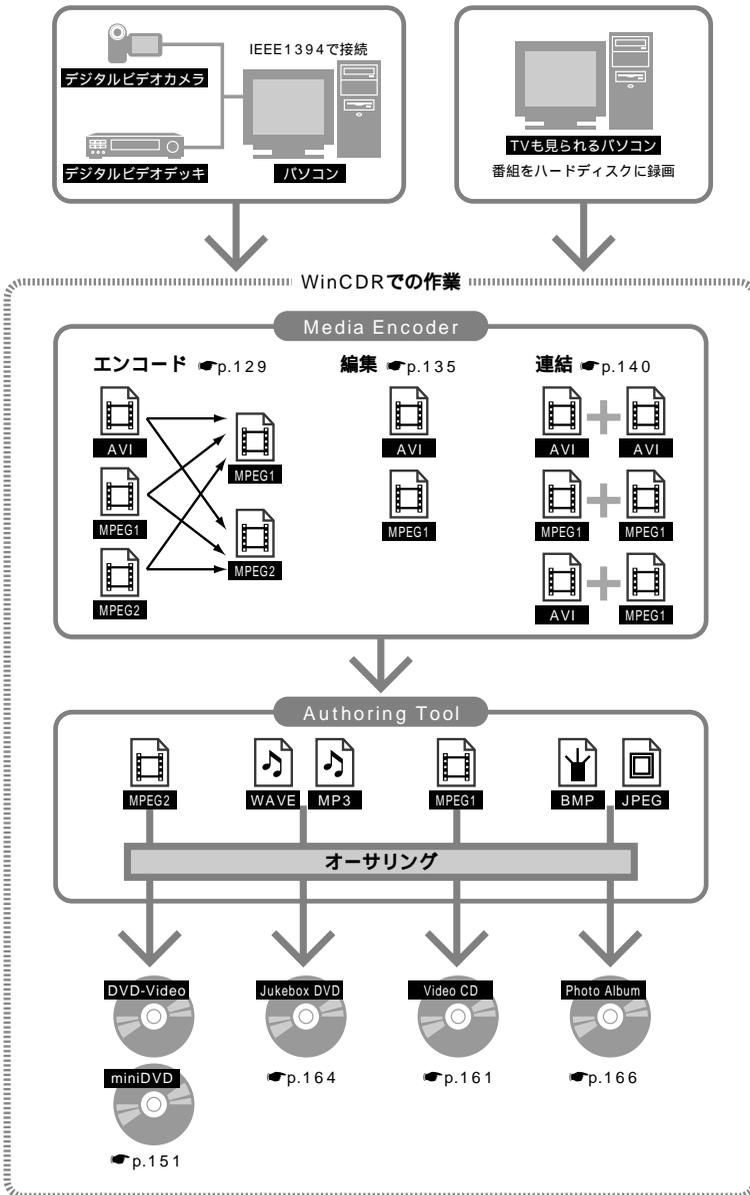
編集機能を使う場合は、MPEG1ファイルよりもAVIファイルの方が作業がしやすいため、MPEGファイルにエンコードする前に、AVIファイルの時点で編集しましょう。

Authoring Toolの役割

ムービーを、どういった順番で再生するかとか、メニューからどのようにムービーを再生するか、など、どういったDVD-Video、Video CDを作るかを決めるためのものです（実際には、Authoring Toolはもう少し仕事をしています）。DVD-VideoやメニューのあるVideo CDを作るために、必ず必要となる作業です。

オーサリングが終わってディスクに書き込めば、DVD-Video、Video CDのできあがり、です。

また、ほとんど同じ操作で、JukeboxDVDやフォトアルバムを作ることができます。

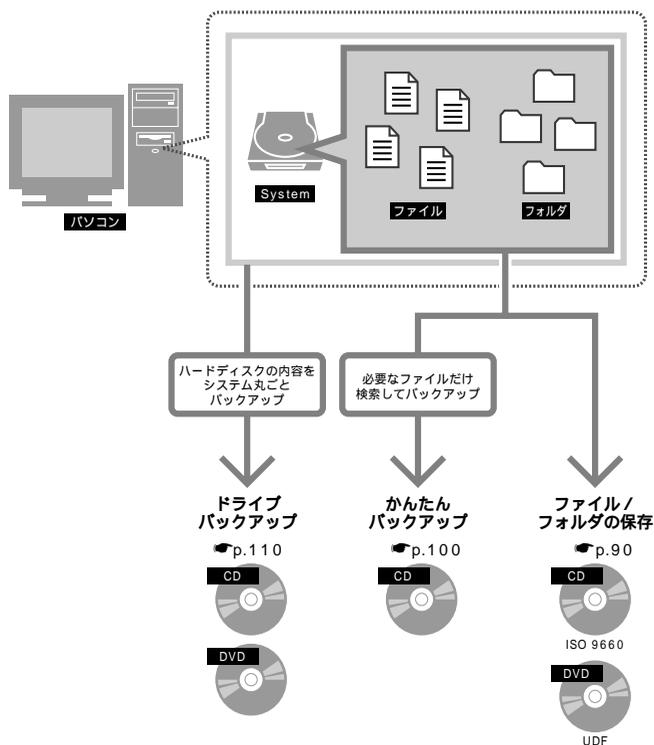


データの保存

さまざまな方法で、大切なデータを保存することができます。

保存したいファイルやフォルダをウェルに置いて書き込むだけでCDならばISO 9660、DVDならばUDFで書き込みます。

また、その他にデータを保存する手段として、条件にあったファイルや更新ファイルのみをバックアップするかんたんバックアップ、ハードディスクをシステムごとバックアップし、復元する、ドライブバックアップなどがあります。



その他、

ディスクのコピー：CD-ROMやDVD-ROMを丸ごとコピー ◀p.170

ブータブルCD/DVD作成：コンピュータを起動させることのできるDiscの作成 ◀p.180

Mixed Mode CD作成：ゲームソフトなどに使われる、1枚のメディアの中にデータトラックとオーディオトラックを書き込んだCD ◀p.177

リペア：書き込みに失敗したCD-Rを、リペアして再利用 ◀p.189

RWの消去：CD-RW/DVD-RW/DVD+RWのデータの消去 ◀p.187

はじめに	7
WinCDR 7.0 の主な特長	9
動作環境	12
WinCDR でできること	13

第 1 部 基本操作 インストール、基本操作

WinCDR のインストール	20
WinCDR の起動と終了	25
WinCDR の基本操作	29
メインウィンドウ	30
書き込む前に - 準備	32

第 2 部 WinCDR Lite を使う

WinCDR Lite の操作	36
音楽 CD の作成 - オリジナル CD を作る	38
音楽 CD の作成 - オーディオデータを使う	40
ファイル、フォルダを保存する	42
コピー	45

第 3 部 音楽 CD の作成

音楽 CD の作成 1- オリジナル CD を作る	49
音楽 CD の作成 2- オーディオデータから音楽 CD を作る	53
音楽 CD の作成 3- 音楽 CD を丸ごとコピーする	58
CD TEXT の作成	60
CD TEXT の設定	61
A. CD 情報のデータベースを利用する	62
B.トラック情報を付加する	65
C. 曲名ファイルを使用する	67
Enhanced CD の作成	70
アナログ録音	74
アナログ音源から WAVE ファイルを作成する	75
直接メディアに録音する	77
WAVE ファイル編集	79
エフェクト	86

第 4 部 データの保存

ファイルの保存	90
かんたんバックアップ	100
ドライブバックアップ	110
ドライブバックアップの操作	112

ドライブの復元	119
ドライブの復元	120

第 5 部 DVD を作る

DVD 作成の前に - 素材の準備	124
Media Encoder	127
ムービーのエンコード	128
MPEG2 の再エンコード	133
ムービーの編集	134
ムービーの連結	139
シーンのカット	143
Authoring Tool	148
DVD-Video の作成	151
miniDVD の作成	160
Video CD の作成	161
JukeboxDVD の作成	164
フォトアルバムの作成	166

第 6 部 その他の機能

ディスクのコピー	170
コピー (R to R)	172
コピー (ROM to R)	174
Mixed Mode CD の作成	177
ブータブル CD/DVD	180
トラックイメージ	184
RW メディアの消去	187
リペア	189
アドオンツールの利用	191

第 7 部 Appendix

メインウインドウ	194
ダイアログウインドウ	203
困ったときは	217
トラブルシューティング	218
サポートサービス	253
CD-R/CD-RW の基礎	260
用語集	263
Index	269

第1部

基本操作

インストール、基本操作

WINGDR[®]7.0

WinCDRのインストール

ここでは、WinCDRのインストールから、起動方法、終了方法、アンインストールまでを説明します。

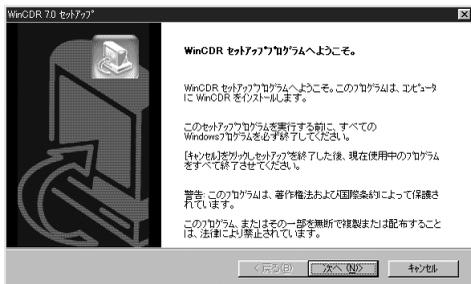
WinCDRをインストールする

1. コンピュータを起動し、WinCDRのディスクをCD-ROMドライブに挿入します。
2. 自動的にインストーラの起動画面が表示されますので、[WinCDR]ボタンをクリックします。

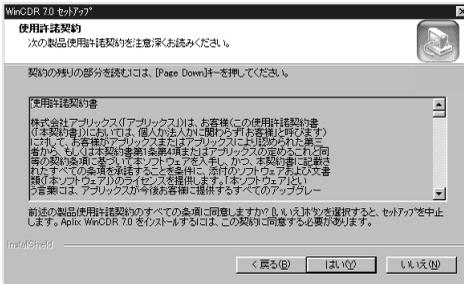


Note ご使用の環境によっては、WinCDRのディスクをCD-ROMドライブに入れただけでは起動画面が表示されない場合があります。そのような場合には、WinCDRのディスクを入れたドライブアイコンをダブルクリックしてください。

3. インストールウィザードが起動します。[次へ] ボタンをクリックしてください。



4. ソフトウェアの使用許諾条項が表示されます。よくお読みいただき、同意の場合は[はい] ボタンをクリックしてください。



5. ユーザー名とシリアル番号を登録します。[ユーザー名]の欄に名前を半角英数字8文字以上、32文字以内で入力してください。[シリアル番号]の欄にはお客様登録カードに印刷されている番号を入力してください。入力が済んだら [次へ] ボタンをクリックします。

Note お客様登録カードはユーザーガイド巻末にあります。また、製品によってはパッケージに同梱されている場合もあります。

Note 製品によっては、この画面が表示されない場合があります。

6. インストール先を決定します。「インストール先のフォルダ」を確認して、そのフォルダでなければ [次へ] ボタンをクリックしてください。インストールが始まります。



Note デフォルトのインストール先は [Program Files] フォルダの中に新規作成された [WinCDR] フォルダです。他のフォルダにインストールする場合は、[参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択してから [次へ] ボタンをクリックしてください。

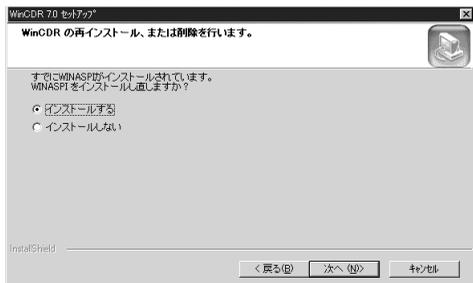
- Windows 2000/XP、Windows NTの場合

システムに組み込まれているASPIマネージャ(WINASPI)の検出を行います。

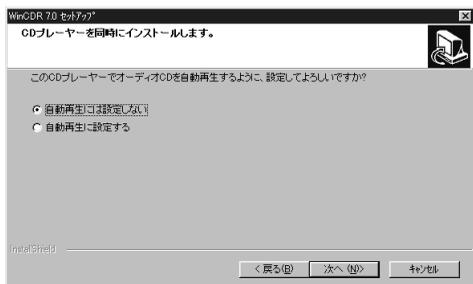
ASPI: Advanced SCSI Programming Interfaceの略。米アダプテック社が開発したSCSIの共通プログラミングインターフェイス。このインターフェイスを提供するSCSIボードのデバイスドライバをASPIマネージャと呼びます。ASPIマネージャが共通のプログラミングインターフェイスを提供することでSCSIボードの差異を吸収するため、ASPIマネージャがインストールされていれば、仕様の異なるボードで同一のSCSI機器の利用が可能となります。

このダイアログが表示された場合、次のいずれかを選択して次へ進みます。

- ・ インストールしない：インストール済みのWINASPIを使用する場合
- ・ インストールする：インストール済みのWINASPIを使用しない、あるいはどちらか判断できない場合



7. 付属のCDプレーヤを自動再生するかを選択します。この設定はCD-ROMドライブに音楽CDが挿入されると自動でCDプレーヤを起動し、音楽を再生する設定です。

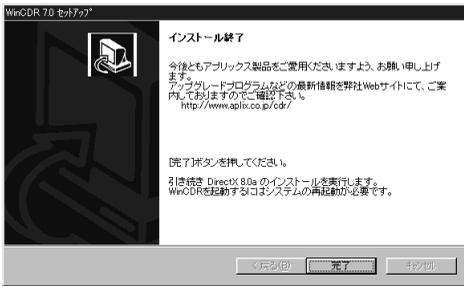


Note 自動再生に設定してインストールしたものをアンインストールすると、音楽CDの自動再生が効かなくなります。

Note [自動再生に設定する]を選択した場合、現在ご使用のCDプレーヤは自動再生されなくなります。

8. インストールの途中で「WinCDR Release Note」が表示されます。アップデート情報、ドライブごとのサポート内容の差異など、重要な情報が含まれているので必ずお読みになってからファイルを閉じてください。

9. インストールが正常に完了すると、次のダイアログが表示されます。[完了]ボタンをクリックしてください。



10. 引き続き、[DirectXセットアップ]ダイアログが表示され、DirectXのインストールが始まります。画面の指示にしたがってインストールしてください。
11. DirectX のインストールが終了すると、次のダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてコンピュータを再起動してください。



COLUMN

最新バージョンのファイルダウンロードサービスのご案内

弊社では、ホームページにおきまして、製品に関する情報や最新のアップデートプログラムを、随時提供しております。

プログラムを最新版にアップデートすることにより、新たに追加した機能への対応や、新規レコーダ対応、プログラムの不具合などに対応します。

ファイルダウンロードサービスを、ぜひご利用ください。

URL <http://www.aplix.co.jp/>

その他添付ソフトウェアをインストールする

WinCDRのディスクをCD-ROMドライブに挿入し、インストーラの起動画面から、インストールしたいソフトウェアの [インストール] ボタンをクリックします。

あとは、画面の指示にしたがってインストールを進めてください。

Note Acrobat Readerをインストールし最初に起動するときは、Acrobat Readerのプログラムを単独で起動し、「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されたら [同意する] をクリックしてください。PDFファイルをダブルクリックしたり、WinCDRから [マニュアルの参照] を実行した場合PDFファイルを見ることができません。

CO L U M N

旧バージョンのWinCDRからアップグレードされる方へ

旧バージョンのWinCDRから、WinCDR7.0にアップグレードする場合、お求めいただいたパッケージにより、インストール方法が異なります。

バージョンアップキット（お申し込みいただいたお客様の元へ弊社から送付したパッケージ）単体インストールが可能です（旧バージョンのWinCDRを必要としません）。旧バージョンのWinCDRがインストールされている場合は、アンインストールした後、インストールを行ってください。

シリアル番号は、旧バージョンのものをそのままお使いください。

アップグレードパッケージ（店頭でお求めいただいたパッケージ）

単体インストールはできません。旧バージョンのWinCDRがハードディスクにインストールされている環境が必要です。旧バージョンのWinCDRがハードディスクにインストールされていることをご確認の上、インストールを行ってください。

シリアル番号は、パッケージに同梱されているユーザー登録カードの番号をお使いください。

WinCDRの起動と終了

WinCDR Lite を起動する

1. [スタート]メニューから[プログラム]、[WinCDR Lite]を選択してください。また、デスクトップにショートカットを作成している場合は、ショートカットアイコンをダブルクリックして起動することもできます。



WinCDRLite

2. レコーダが2台以上接続されていると、最初の起動時など、それまでにレコーダを選択していない場合、[レコーダ選択]ダイアログが開きます。[接続されているレコーダ]の欄で使用するレコーダを選択し[OK]ボタンをクリックしてください。

Note 次回起動時からレコーダ選択画面は表示されません。

3. WinCDR Liteが起動します。



WinCDR Lite を終了する

ウインドウ右上のクローズボタンをクリックして終了します。

WinCDRを起動する

1. [スタート]メニューから[プログラム]、[WinCDR]を選択してください。また、デスクトップにショートカットを作成している場合は、ショートカットアイコンをダブルクリックして起動することもできます。
2. WinCDRを起動すると、最初の起動時のみ、[WinCDRを快適にご利用いただくために]が開きます。システム環境、設定等が記されています。必ずご一読ください。



3. クローズボタンをクリックし、[WinCDRを快適にご利用いただくために]を閉じます。
4. レコーダが2台以上接続されていると、最初の起動時など、それまでにレコーダを選択していない場合、[レコーダ選択]ダイアログが開きます。[接続されているレコーダ]の欄で使用するレコーダを選択し[OK]ボタンをクリックしてください。



電源の入ったレコーダが接続されていると、ここに表示されます。

- Note** 次回起動時からレコーダ選択画面は表示されません。他のレコーダを選択するときは、WinCDRの[設定]-[レコーダ選択]で選択してください。
- Note** レコーダの接続は、レコーダに付属している取扱説明書やマニュアルを参照して行ってください。
- Note** レコーダが見つからない場合もダイアログが表示され、仮想レコーダのみが表示されます。
- Note** 接続しているレコーダが1台の場合は、自動的に選択されます。

Note [仮想レコーダ] は書き込みの練習を行うときに使用します。レコーダが接続されていない場合でも常に表示されていますが、メディアへの書き込みはできません。

5. [WinCDR] が起動します。

WinCDRを終了する

[ファイル]メニューの[アプリケーションの終了]を選択するか、タイトルバーの右端にあるクローズボックスをクリックして終了します。

C O L U M N ●

WinCDRのアンインストール

WinCDRをアンインストール(コンピュータから削除)します。必要がない場合以外は実行しないでください。

Note 付属のCDプレーヤを自動再生に設定している場合、アンインストールすると音楽CDの自動再生が効かなくなります。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]をポイントします。
2. コントロールパネルから[アプリケーションの追加と削除](Windows XPでは[プログラムの追加と削除])をダブルクリックして起動します。
3. 一覧から[Aplix WinCDR 7.0]を選択して[追加と削除]ボタン(Windows XPでは[変更と削除]ボタン)をクリックしてください。
4. 確認のダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックするとアンインストールが始まります。
5. [アンインストールが完了しました]と表示されたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

WinCDRの基本操作

この章では、WinCDRの基本的な操作方法について説明します。操作を行ううえで、共通して必要となる内容です。

Note メニューコマンド、ツール、ボタンなどに関しては、それぞれのCD/DVDを作成する過程で必要に応じ説明します。

Note ダイアログボックスなどで行う設定は作成するCD/DVDにより異なります。第3部から第6部の各章において、各種ディスクの作成方法や、各機能を説明する過程で、最適な設定方法を示します。

- ☛ WinCDR Liteの操作方法は、第2部「WinCDR Liteを使う」で説明します。WinCDR Liteをお使いいただく場合は、そちらを参照してください。
- ☛ 各コマンド、ランチャタブ、ボタン、ダイアログについての詳細は、第7部Appendixの関連ページを参照してください。

メインウィンドウ

WinCDRを起動すると、メインウィンドウが表示されます。メインウィンドウは、WinCDRの操作の基本となる画面です。

ウィンドウ左のランチャタブをクリックしてタブを切り替え、ボタンをクリックして作成するディスクを選択したり、別ダイアログを呼び出します。

エクスプローラから、書き込みたいファイルやフォルダをウェルにドラッグして配置し、[書き込み]ボタンで書き込みます。



ランチャタブ:
[CDの作成]、[ツール]
[アドオンツール]
があります。それぞれの
タブに作成するディ
スクの種類を指定した
り、機能を選択するボ
タンがあります。

Explorer (エクスプローラ):
ハードディスク上のフォルダやファイルを表示する領域
です。左側の領域でボリュームやフォルダを選択すると、
右側の領域にファイルやフォルダが表示されます。ここ
からメディアに記録するフォルダやファイルを選択して、
下のウェルにドラッグして登録します。

ウェル:
メディアに記録するフォルダやファイルをドラッグして登
録する領域です。データCD作成の場合はフォルダやフ
ァイル、音楽CDの作成の場合はWAVEファイルやMP3
ファイル、WMAファイルなどをドラッグして配置しま
す。

[書き込み] ボタン:
ウェルに配置した
ファイルやフォル
ダをメディアに書
き込みます。

基本的な操作方法

WinCDRでCD/DVDを作成する際の、最も基本的な方法を説明します。

1. メインウィンドウの[ランチャタブ]に機能を選択、実行するボタンがあります。まず、使いたい機能のボタンをクリックして選択します。

タブは3つありますので、適宜切り替えてください。

[CDの作成]



[ツール]



[アドオンツール]



2. 書き込みたいファイルを、エクスプローラやWindowsのデスクトップから、ドラッグして登録します。



3. メインウィンドウ右下の[書き込み]ボタンをクリックします。
4. [レコーディング]パネルが表示されますので必要に応じて設定を変更し、[実行]ボタンをクリックすると、書き込みが始まります。

書き込む前に-準備

実際に書き込む前に、設定内容を確認し、必要な設定をします。また、作業を行うために必要なハードディスクの空きが確保されているか確認しましょう。

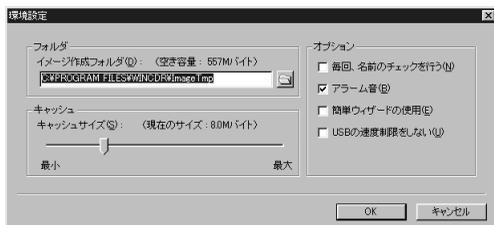
環境設定を確認・変更する

WinCDRでCD/DVDを作成するときの環境を設定します。CD/DVDを作成する前に、少なくとも一度は「環境設定」ダイアログを表示して内容を確認し、必要に応じて設定を変更してください。

Note 環境設定は、SCSIボード、レコーダ等を正しく接続し、レコーダとコンピュータの電源を入れた状態で行ってください。レコーダの接続は、レコーダに付属している取扱説明書やマニュアルを参照して行ってください。

Note 環境設定は毎回設定する必要はありません。また、必ずしも初期設定を変更する必要はありません。イメージ作成フォルダ（WinCDRの作業領域）の容量が不足して他のドライブを指定したい場合など、必要なときに、適宜、設定内容を変更してください。

1. [設定]メニューから「環境設定」を選択します。



2. 「環境設定」ダイアログの設定内容を確認し、必要に応じて変更してください。

毎回、名前のチェックを行う

チェックしておく、ウェルにデータを配置するたびに、書き込むデータの名前が「ファイル名の付け方」ダイアログでの設定に合致しているかをチェックします。

アラーム音

チェックしておく、書き込み準備の作業終了時、書き込み終了時、エラー発生時にアラーム音を鳴らします。

イメージ作成フォルダ

ISO 9660形式のCD-ROM、UDF形式のDVD-ROMを作成する際に作られるイメージデータや、CD-ROM/DVD-ROMをコピーする際に作成されるイメージデータが一時的に格納されます。また、WinCDRが作業中に生成する一時的なファイルも格納されます。

デフォルトではWinCDRをインストールしたフォルダが指定されています。変更する場合は、右横のボタンをクリックしてフォルダを選択してください。1GB以上の空きがあるフォルダを指定してください。

DVD-ROMをコピーする場合は5GB以上、DVD-Videoのオーサリングを行う場合は10GB以上の空きがあるドライブのフォルダを指定してください。

- その他の設定項目については、p.209 「[環境設定] ダイアログ」を参照してください。

その他の設定を確認・変更する

[書き込み設定] ダイアログの書き込み方式：作成するCDの種類や用途により、適切な設定が異なります。

トラックアットワンス：ファイルの保存など（ISO 9660、かんたんバックアップ他）

ディスクアットワンス：オーディオCD、Video CDなど

セッションアットワンスは、EnhancedCDを作成するとき、レコーダが対応している場合のみ選択可能です。レコーダが対応していない場合は、トラックアットワンスで書き込まれます。DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みはディスクアットワンスのみです。DVD+RWには書き込み方式の指定はありません。

作成するディスクによっては、あらかじめ[書き込み設定]ダイアログで必要な設定を行っていないと、その他の設定が行えない場合があります。

[データ設定] ダイアログ：ブータブルCD、Enhanced CD、オーディオCDを作るときなどに、必要に応じて設定します。

COLUMN

[書き込み設定] ダイアログと[レコーディング] パネルの関係

[書き込み] ボタンを押して書き込みを開始する前に、[レコーディング] パネルが表示され、書き込み設定を変更することができます。実際の書き込みは、[レコーディング] パネルでの設定が優先されます。[書き込み設定] ダイアログは、デフォルトの書き込み設定を行い、[レコーディング] パネルは、直後の書き込みに対する設定を行います。また、[書き込み設定] ダイアログは、[レコーディング] パネルの設定には、影響されません。

ハードディスクの準備

DVD-Videoを作成したり、DVDやCDをコピーしたり、音楽CDを作成するときは、ハードディスクに十分な空きを確認しましょう。また、ムービーやオーディオなどの素材データは、ハードディスクの同じ場所（フォルダ）にまとめておくようにすると便利です。

ハードディスクの容量を確認・確保する

DVDにほぼいっぱい容量のデータを書き込みDVD-Videoを作成する場合、ハードディスクの空き容量は、書き込むMPEGファイル総容量約4.7GBの他に、作業領域としてさらにその2倍を必要とする場合があります。作業前に15GB程度の空き容量があることを確認しましょう。

CD/DVDをコピーする場合、書き込む元のデータとほぼ同容量のハードディスクの空き容量が必要です。

音楽CDを作成する場合、ハードディスクに約740MB以上の空き容量が必要です。

ハードディスクの容量を確認するには

1. マイコンピユータをダブルクリックして、ウィンドウを開きます。
2. ハードディスクのアイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



3. [プロパティ] ダイアログが表示され、[全般] タブで空き領域を確認することができます。

Note 空き領域が足りない場合は、不要なファイルを削除して空き領域を確保してください。

データをまとめる

ハードディスクの同じフォルダ内に必要なファイルをまとめておけば、DVD-Videoや音楽CD作成時の操作が容易になります。

また、DVD-Videoや音楽CDの作成に必要な動画や音楽、画像のデータなどは、ディスクを作成した後、不要になったら削除するようにしましょう。これらのデータはハードディスクの容量を圧迫します。

Note 削除したデータは復活させることはできません。削除する前によく確認してください。

第2部

WinCDR Liteを使う

WinCDR[®] 7.0

WinCDR Liteの操作

WinCDR Liteは、画面に表示される指示にしたがって操作するだけで、音楽CDの作成やデータの保存が簡単に行えます。

面倒な設定は必要ありません。作成するディスクの種類に合わせて、WinCDR Liteが自動的に最適な設定を行います。

WinCDR Liteを起動する

1. WinCDR Liteを起動します。[スタート] メニューから[プログラム] -[WinCDR Lite] を選択してください。また、デスクトップにショートカットを作成している場合は、ショートカットアイコンをダブルクリックして起動することもできます。



WinCDRLite

2. WinCDR を起動すると、最初の起動時のみ、[WinCDR を快適にご利用いただくために] が開きます。システム環境、設定等が記されています。必ずご一読ください。
3. クローズボタンをクリックし、[WinCDRを快適にご利用いただくために] を閉じます。
4. レコーダが2台以上接続されていると、最初の起動時など、それまでにレコーダを選択していない場合、[レコーダ選択] ダイアログが開きます。[接続されているレコーダ] の欄で使用するレコーダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。

Note 接続しているレコーダが1台の場合は、自動的に選択されます。

Note レコーダが接続されていなかったり、見つからない場合、WinCDRLiteは起動しません。

Note レコーダの接続は、レコーダに付属している取扱説明書やマニュアルを参照して行ってください。

5. WinCDR Liteが起動し、メニュー画面が表示されます。



WinCDR Liteを終了する

メニュー画面右上のクローズボタンをクリックして終了します。

COLUMN

安定した書き込みを行うために

WinCDR Liteを起動するときは、他のアプリケーションは終了しておきましょう。また、実際に書き込みを行っている間は、レコーダにアクセスし負荷をかけるような次の操作は避けましょう。

- ・ エクスプローラ、マイ コンピュータなどで、メディアの内容を表示する。
- ・ メディアに書き込まれているファイルをオープンする。

音楽CDの作成-オリジナルCDを作る

複数枚の音楽CDから好きな曲を集めたオリジナルの音楽CDを作ります。

用意するもの

音楽CD

好きな曲が入っている音楽CDを用意します。

新規のメディア (CD-R)

音楽CDを作るときは、CD-Rを使いましょう。CD-RWは音楽CDプレーヤでは再生できません。

重要：市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

1. メニュー画面で [音楽CDを作成する] をクリックします。
2. ダイアログが表示されますので、音楽CDをレコーダに挿入し、[はい] ボタンをクリックしてください。



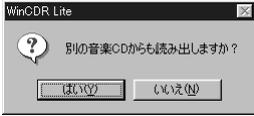
3. [WAVEファイル作成] ダイアログが表示されます。トラック番号の先頭にある をクリックするとチェックがつき選択されます。オリジナルCDに収めたいトラック (曲) を選択してください。トラックの選択が終わったら [次へ] ボタンをクリックします。



4. WAVEファイルの作成が始まります。終了すると、次のダイアログが表示されますので[OK] ボタンをクリックしてください。



5. 次のダイアログが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてCDを入れ替え、2.から4.の操作を繰り返してください。すべてのCDからWAVEファイルの作成が終わっている場合は、[いいえ] ボタンをクリックし、次へ進みます。



6. 次のダイアログが表示されます。新しいメディアに入れ替えてください。



7. メインウィンドウが表示されます。ウェルに、今、作成したWAVEファイルが登録されています。



Note ここで、ハードディスクにある他のオーディオデータをウェルに追加して配置することもできます。

Note 作成した音楽CDには、追記することはできません。

8. レコーダに新規のメディアを挿入し、[書き込み] ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。



9. 書き込みが終了すると、次のダイアログが表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。ディスクがイジェクトされ、メニュー画面に戻ります。



Note [もう1枚同じディスクを作成する] をクリックすると、同じディスクをもう1枚作成することができます。

音楽CDの作成-オーディオデータを使う

すでにあるWAVEファイルやMP3ファイル、WMAファイルなどのオーディオデータから音楽CDを作ります。

用意するもの

- オーディオデータ (WAVE、MP3、WMA)

音楽CDとするディスクに書き込めるのは、以下の形式のファイルに限られます。

形式	サンプリングサイズ	サンプリングレート	チャンネル
WAVE	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)、 1ch (モノラル)
MP3	16ビット	44.1kHz	2ch (ステレオ)
WMA	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)

Note お使いのパッケージによっては、WMAファイルを使用できない場合があります。

- 新規のメディア (CD-R)

音楽CDを作るときは、CD-Rを使いましょう。CD-RWは音楽CDプレーヤでは再生できない場合があります。

Note WinCDR Liteは、音楽CDからMP3ファイル、WMAファイルへのエンコード機能はありません。別ソフトが必要になります。

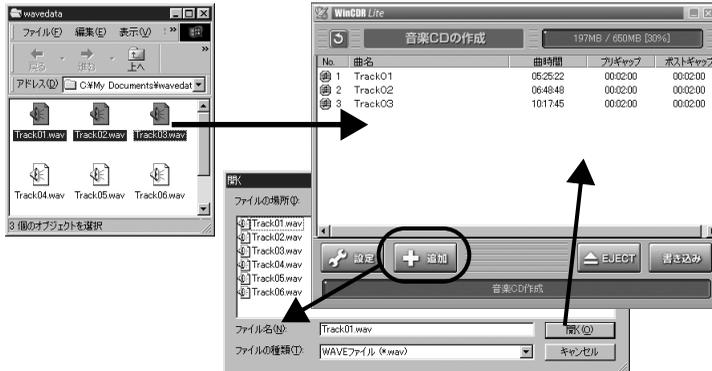
Note MP3ファイルをメディアに書き込む際、MP3形式からCDプレーヤなどが読める形式にコンバート (変換) されます。MP3が持つ圧縮は解凍されてしまいますので、メディアの容量をオーバーしないようご注意ください。

1. 新規のメディアをレコーダに挿入します。
2. メニュー画面で [音楽CDを作成する] をクリックします。

3. ダイアログが表示されますので、[いいえ] ボタンをクリックします。



4. ウェルが表示されますので書き込むオーディオデータを登録します。Windows 上から直接オーディオデータをドラッグするか、[追加] ボタンをクリックしてファイルを選択してください。



5. ファイルの登録が終わったら [書き込み] ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。
6. 書き込みが終了すると [書き込み完了] ダイアログが表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。ディスクがイジェクトされ、メニュー画面に戻ります。

Note [もう1枚同じディスクを作成する] をクリックすると、同じディスクをもう1枚作成することができます。

ファイル、フォルダを保存する

ハードディスクにあるファイルやフォルダをCDに保存します。

用意するもの

- メディア (CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW)

DVDメディアのご使用について

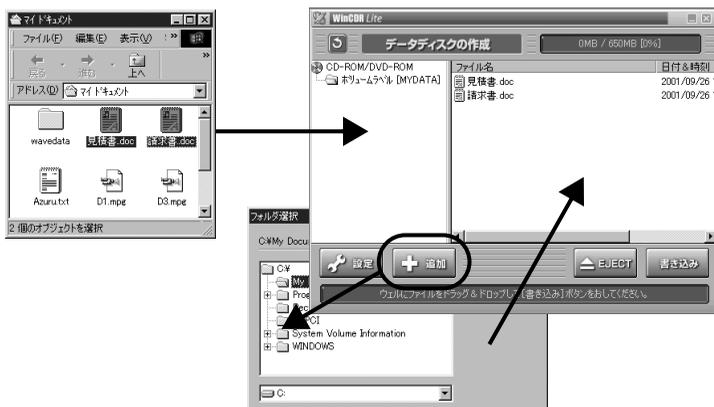
DVDメディアへの書き込みは、対応したレコーダが必要です。

DVD-R for General ver2.0、DVD-RW ver.1.1、DVD+R、DVD+RWのメディアをサポートしています。

DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

新しいディスクにファイルを保存する

1. 新規のメディアをレコーダに挿入します。
2. メニュー画面で [データディスクを作成する] をクリックします。
3. ウェルに、書き込むファイルやフォルダを登録します。Windows上から直接ファイルやフォルダをドラッグしてください。
[追加] ボタンをクリックして表示される [フォルダ選択] ダイアログでは、フォルダを追加することができます。



4. ファイル/フォルダの登録が終わったら [書き込み] ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。

5. 書き込みが終了すると [書き込み完了] ダイアログが表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。ディスクがイジェクトされ、メニュー画面に戻ります。

Note [もう1枚同じディスクを作成する] をクリックすると、同じディスクをもう1枚作成することができます。

利用する

[データディスクを作成する] でディスクに保存したファイルを利用するときは、いったんハードディスクにコピーします。コピーは、フロッピーディスクやMOディスクなどと同様に、Windowsのエクスプローラなどで行ってください。

この際、ハードディスクにコピーしたデータは、[読み取り専用] 属性になっているため、編集作業などをして書き戻すことができません。必要に応じて属性を変更してください。

Note [読み取り専用] 属性とは、ファイルを誤って上書きしたり削除したりできないようにする設定で、通常、プリマスタリングソフトを使ってディスクにデータを書き込むと、その時点で元の設定に関わらず読み取り専用属性が設定されます。

読み取り専用属性を解除するには

1. 属性を変更したいファイルを、クリックして選択します。

Note メディアに書き込まれているファイルの属性は変更できません。

2. ファイルを右クリックして、[プロパティ] を選択します。



3. [読み取り専用] 属性のチェックを外します。

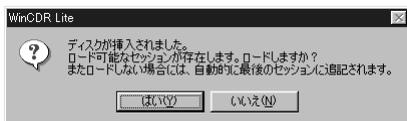


Note 複数のファイルを選択した状態で、どれかひとつのプロパティを表示して属性を変更すると、選択しているファイルすべてに適用されます。

ファイルを追記する CD-R/CD-RW/DVD+RW

[データディスクを作成する] でファイルを保存したCD-R/CD-RW/DVD+RWには、未使用領域がある場合、追記ができます。

1. 追記したいディスクをレコーダに挿入します。
2. メニュー画面で [データディスクを作成する] をクリックします。
3. 以下のダイアログが表示されます。[はい] をクリックしてください。



4. [セッション選択] ダイアログが表示されます。このまま最後のセッションを読み込んでください。



Note DVD+RW では、セッションをロードしないと追記することができません。必ず、セッションをロードしてください。また、書き込まれたファイルが多い場合、ロードに時間がかかります。

5. ディスクに書き込まれているデータがウェルに読み込まれます。
6. あとは、新しいディスクに書き込むのと同じです。エクスプローラ、あるいはデスクトップから追記したいデータをウェルにドラッグしてください。

Note DVD+RW の場合、メディアからロードしたファイルと同名のファイルを書き込むと、元のファイルが上書きされます。

7. 準備が整ったら [書き込み] ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。
8. 書き込みが終了すると [書き込み完了] ダイアログが表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。ディスクがイジェクトされ、メニュー画面に戻ります。

コピー

ディスクを丸ごと複製します。

重要： CD-ROM/DVD-ROMで供給されるソフトウェアについて、保存または管理を目的として複製を作成する場合は、各ソフトウェアに付属の使用許諾条項などで、複製の作成が許諾されていることを必ずご確認ください。

重要： DVD-Videoなど、著作権保護信号が書き込まれているDVDは、複製できません。

重要： コピー元のDVD-ROMによっては、コピーできないものがあります。

Note CD-ROMからDVDメディア、DVD-ROMからCDメディアにコピーすることはできません。

Note レコーダにより、コピー可能なCDの種類が若干異なります。

Note パケットライト方式で書き込まれたCD/DVDはコピーできません。

用意するもの

- コピー元のCD-ROM/DVD-ROM
- 新規のメディア

DVDメディアのご使用について

DVDメディアへの書き込みは、対応したレコーダが必要です。

DVD-R for General ver.2.0、DVD-RW ver.1.1、DVD+RW、DVD+Rのメディアをサポートしています。

1. メニュー画面で [ディスクをコピーする] をクリックします。
2. ダイアログが表示されます。コピー元のディスクをレコーダに挿入して [書き込み] ボタンをクリックします。



3. コピーが始まります。途中、画面に表示されるメッセージにしたがって、コピー元のディスクと新規のメディアを入れ替えてください。



4. コピーが終了すると、次のメッセージが表示されます。[いいえ] ボタンをクリックすると終了し、メニュー画面に戻ります。



第3部

音楽CDの作成

WinGDR[®]7.0

WinCDRは、WAVEファイル、MP3ファイル、WMAファイルをウェルに配置してCDに書き込むだけの簡単な操作で音楽CDを作成することができます。複数の音楽CDから好きな曲だけを集めたオリジナルCDの作成はウィザード方式で手軽に行うことができます。

また、音楽CDにアルバム名、アーティスト名、曲名などの文字情報を追加したCD TEXTも作成することができます。

作成したCDは、音楽CDプレーヤやパソコンで再生することができます。CD TEXTは、CD TEXTに対応したプレーヤで再生すると、曲名、アーティスト名が表示されます。

ここでは、WinCDRで作成できる音楽CDや、その他の音楽CD作成に関わるさまざまな機能について説明します。

- ・オリジナルCDを作成する
- ・WAVEファイルなどのオーディオデータから音楽CD/Enhanced CDを作成する
音楽CDを元にサウンドデータ（WAVEファイル）を作成する
- ・音楽CDを丸ごとコピーする
- ・CD TEXTを作成する
- ・Enhanced CDを作成する
- ・アナログ録音を使う
- ・WAVEファイルを編集する

Note Jukebox DVDは、DVDに音楽CD数十枚分のオーディオデータを書き込めるWinCDR7.0の新機能です。

- JukeboxDVDについては、p.164「JukeboxDVDの作成」を参照してください。

音楽CDの作成1-オリジナルCDを作る

複数の音楽CDから好きな曲だけを集めて、オリジナルのCDを作ってみましょう。ウィザード形式ですので、画面に表示されるメッセージにしたがって操作するだけで、手軽にオリジナルCD作りが楽しめます。

チェック

- ハードディスクの空き領域は十分にありますか？
音楽CD1枚分で、約800MBの空き領域を確保してください。
- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規のメディア
音楽CDを作成するときは、CD-Rを使いましょう。CD-RWは音楽CDプレーヤでは再生されない場合があります。
- 音楽CD
好きな曲が入っている音楽CDを用意します。

重要： 市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

オリジナルCDを作成する

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[マイベスト音楽CDの作成]をクリックします。
2. 次のダイアログが表示されます。レコーダに音楽CDを挿入してください。



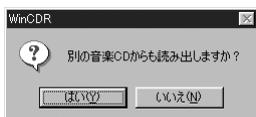
3. [WAVEファイル作成]ダイアログが表示されます。トラック番号の先頭にある をクリックするとチェックがつき選択されます。オリジナルCDに収めたいトラック(曲)を選択してください。トラックの選択が終わったら[次へ]ボタンをクリックします。



4. WAVEファイルの作成が始まります。終了すると、次のダイアログが表示されますので[OK]ボタンをクリックしてください。



5. 次のダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックしてCDを入れ替え、2.から4.の操作を繰り返してください。すべてのCDからWAVEファイルの作成が終わっている場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、次へ進みます。



6. 次のダイアログが表示されます。新規のメディアに入れ替えてください。

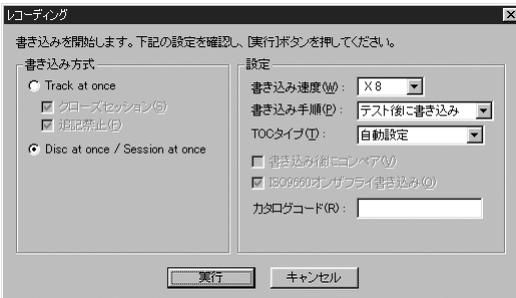


7. メインウィンドウが表示されます。ウェルに、今、作成したWAVEファイルが登録されています。



Note ここで、ハードディスクにある他のオーディオデータをウェルに追加して配置することもできます。

8. 準備ができたなら [書き込み] ボタンをクリックしてください。
9. [レコーディング] パネルが表示されます。書き込み方式は [Disc at once] を選択します。その他、必要に応じて設定し、設定が終了したら [実行] ボタンをクリックし、書き込みを開始します。



Note 音楽CDを作成する場合はディスクアットワンスで書き込みましょう。トラックアットワンスで書き込みをしたCDは、クローズセッションしないと音楽CDプレーヤで再生できません。

Note ディスクアットワンスで書き込みをした音楽CDには追記できません。

10. 書き込みが終了すると、次のダイアログが表示されます。[終了] ボタンをクリックしてください。



Note [もう1枚同じディスクを作成する] をクリックすると、同じCDをもう1枚作成することができます。

11. 次のダイアログが表示されます。[いいえ] ボタンをクリックしてください。



音楽CDの作成2-オーディオデータから音楽CDを作る

WAVE、MP3、WMAを元に、音楽CDを作成することができます。

WinCDRには、音楽CDからWAVEファイルを作成する機能がありますので、ここでは、音楽CDからWAVEファイルを作成し、それを元に音楽CDを作成する方法を説明します。

後述の「アナログ録音」でもWAVEファイル作成ができます。● p.74「アナログ録音」

WAVEファイルは編集することができます。● p.79「WAVEファイル編集」

アナログ録音で作成したWAVEファイル、波形編集で編集したWAVEファイルからも音楽CDを作成できます。

チェック

- ハードディスクの空き領域は十分にありますか？

音楽CD1枚分で、約800MBの空き領域を確保してください。

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規のメディア

音楽CDを作成するときは、CD-Rを使いましょう。CD-RWは音楽CDプレーヤでは再生されない場合があります。

- 音楽CDまたはサウンドデータ

音楽CDとするメディアに書き込めるのは、以下の形式のファイルに限られます。

形式	サンプリングサイズ	サンプリングレート	チャンネル
WAVE	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch(ステレオ) 1ch(モノラル)
MP3	16ビット	44.1kHz	2ch(ステレオ)
WMA	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch(ステレオ)

Note お使いのパッケージによってはWMAファイルを使用できない場合があります。

Note WinCDRは、音楽CDからMP3ファイル、WMAファイルへのエンコード機能はありません。別ソフトが必要になります。

重要： 市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

Note MP3ファイルをメディアに書き込む際、MP3形式からCDプレーヤなどが読める形式にコンバート(変換)されます。MP3が持つ圧縮は解凍されてしまいますので、メディアの容量をオーバーしないようご注意ください。

WAVEファイルを作る

Note すでに音楽CDに書き込むWAVEファイルやMP3ファイル、WMAファイルがある場合、この操作は必要ありません。次項「音楽CDを作る」に進んでください。

1. WinCDRを起動し、メインウィンドウを表示します。
2. [ランチャタブ]の[ツール]から、[WAVEファイルの作成]ボタンをクリックします。
3. レコーダに音楽CDを挿入します。
4. [WAVEファイル作成]ダイアログが表示されます。
5. 音楽CDの内容が読み込まれ、[WAVEファイル作成]ダイアログにトラックの詳細情報が表示されます。

WAVEファイルを作成するトラックを指定します。

最初はトラック番号の先頭にある がすべてチェックされ、すべてのトラックが指定された状態です。WAVEファイルを作成しないトラックの をクリックし、指定を解除してください。誤って指定を解除した場合は、再度クリックするとチェックが付き、再度指定されます。



[CD情報]ボタンを利用すると、CD TEXTを作成することができます。CD情報、CD TEXTについては、p.60「CD TEXTの作成」で詳しく解説しますので参照してください。

6. トラックの指定が終わったら [実行] ボタンをクリックしてください。WAVEファイルの作成が始まります。
7. WAVEの作成が終了すると、「WAVEファイルの作成が終了しました。」というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。
8. [WAVEファイル作成]ダイアログに戻ります。[閉じる] ボタンをクリックしてください。

9. [イジェクト] ボタンをクリックして音楽CDを取り出します。次のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。



これで、WAVEファイルがハードディスクに保存されました。

音楽CDを作る

サウンドデータが用意できたら、次はCDを作成してみましょう。

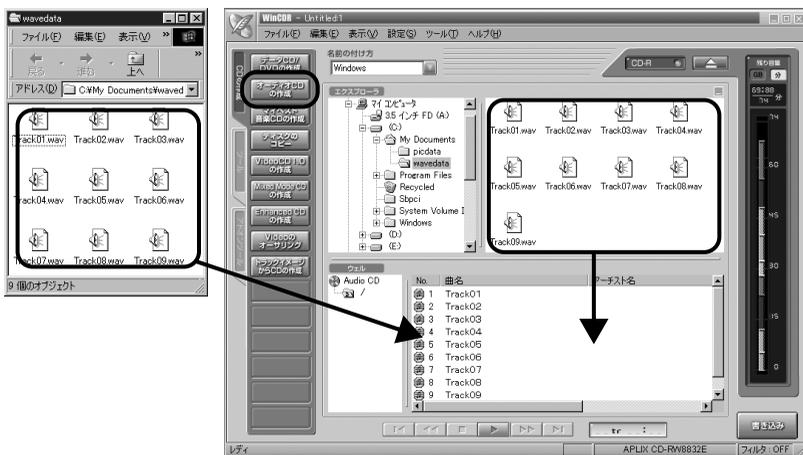
Note 音楽CDとするメディアに書き込めるファイルは規格が決まっています。p.53「必要なもの」を再度確認してください。

1. 新規のメディアをレコーダに挿入してください。

Note 音楽CDを作るときはCD-Rを使いましょう。

Note CD-RWは、音楽CDプレーヤで再生されない場合があります。また、コンピュータで再生する場合は、専用のレコーダ、あるいはマルチリード型のCD-ROMドライブが必要です。

2. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[オーディオCDの作成]ボタンをクリックします。
3. エクスプローラで、オーディオデータを保存しているフォルダを選択し、右側のウィンドウに表示されたオーディオデータのファイルをウェルにドラッグして登録します。あるいは、Windowsのデスクトップから、直接オーディオデータのファイルをウェルにドラッグして登録します。

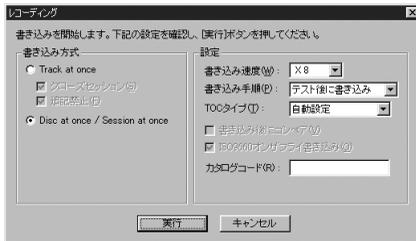


ウェルに配置されたWAVEファイル、MP3ファイル、WMAファイルは、ドラッグで順番を入れ替えることができます。必要に応じて移動してください。また、同じ名前のファイルでもウェルに複数配置することができます。

Note オーディオコントローラを使って試聴し、音楽CDの曲順を確認することができます。

4. 準備ができたら[書き込み]ボタンをクリックしてください。

5. 書き込みが始まる前に、[レコーディングパネル]が表示されます。必要な設定を行い、[実行]ボタンをクリックしてください。



Note 音楽CDを作るときは、ディスクアットワンスで書き込みましょう。トラックアットワンスで書き込みをしたCDは、クローズセッションしないと音楽CDプレーヤーで再生できません。

Note ディスクアットワンスで書き込みをした音楽CDには追記できません。

Note ハードディスクに保存したWAVEファイルは、音楽CDを作成した後、自動的に削除されません。不要になったデータは適宜削除してください。

音楽CDの作成3-音楽CDを丸ごとコピーする

1枚の音楽CDをそのまま複製するなら [ディスクのコピー] 機能を使うと便利です。

チェック

- ハードディスクの空き領域は十分にありますか?
音楽CD1枚分で、約800MBの空き領域を確保してください。
- レコーダは正しく接続されていますか?
- WinCDR以外のソフトは終了していますか?
- スクリーンセーバーは切ってありますか?
- 環境設定は済んでいますか?

必要なもの

新規のメディア

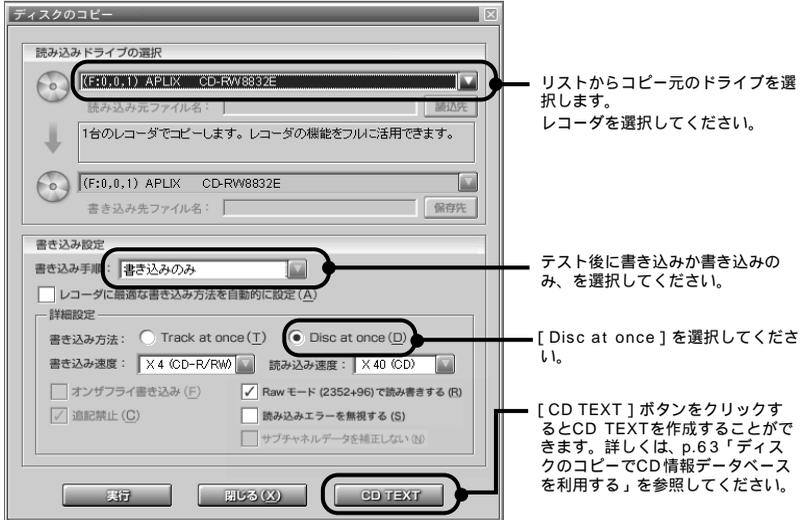
音楽CDを作成するときは、CD-Rを使いましょう。CD-RWは音楽CDプレーヤでは再生されない場合があります。

音楽CD

重要： 市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

ディスクのコピーで音楽CDを作成する

1. コピー元のCDをレコーダに挿入します。
2. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[ディスクのコピー]をクリックします。
3. [ディスクのコピー]ダイアログが表示されますので必要な設定を行います。



4. 設定終了後、[実行] ボタンをクリックすると、イメージファイルの作成が始まります。
5. イメージファイルの作成が終わるとダイアログが表示されます。レコーダからディスクを取り出し、新規のメディアと交換してから [OK] をクリックしてください。書き込みがスタートします。
6. コピーが終了すると [もう1枚作成しますか] と確認のダイアログが表示されます。[いいえ] ボタンをクリックしてください。

Note もう1枚作成する場合は、レコーダのメディアを入れ替えてから [OK] ボタンをクリックします。

7. [CDのコピーが完了しました] というメッセージが表示されます。
8. [ディスクのコピー] ダイアログに戻ります。[閉じる] ボタンをクリックすると、メインウィンドウに戻ります。

コピーには、書き込みを行うレコーダとは別のドライブにコピー元のCDを挿入して行う方法 (ROM to R) もありますが、音楽CDのコピーは、ここで紹介している読み出しと書き込みを同じレコーダで行う方法 (R to R) がより安定した書き込みを行うことができますので、お勧めします。

ディスクのコピーについては p.170 「ディスクのコピー」も参照してください。

CD TEXTの作成

CD TEXTは、通常の音楽CDに、アルバムのタイトルや曲の情報が附加されたもので、CD TEXT対応のプレーヤで再生すると、曲名、アーティスト名を表示することができます。CD TEXT対応ではない音楽プレーヤでも音楽の再生は可能です。

Note CD TEXTを書き込むには、対応したレコーダが必要です。

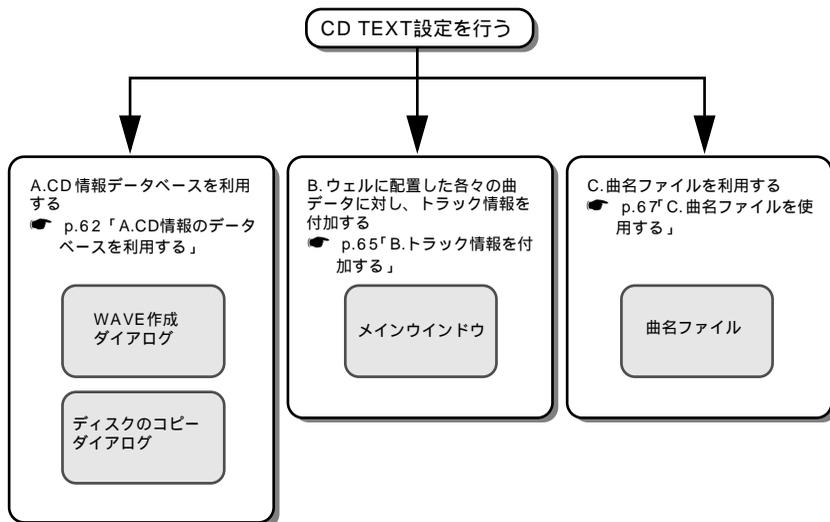
Note CD TEXTはプレーヤによって表示可能なテキストが異なる場合があります。ご使用のプレーヤの表示テキストをご確認のうえ、設定してください。

Note CD TEXT対応のプレーヤは、以下のマークの付いたCDを再生できるプレーヤです。



WinCDRには、CD TEXTを作成する方法がいろいろ用意されています。

まず、次ページのCD TEXTの設定を行ってから、次のいずれかの方法で音楽CDを作成してください。



CD TEXTの設定

CD TEXTを作成するためには、まず、必要な項目を設定しなければなりません。

1. [設定]メニューの[書き込み設定]ダイアログで[Disc at once]を選択してください。

Note CD TEXTを作るときはディスクアットワンスを選択してください。CD TEXTはディスクアットワンスでないと作成できません。またディスクアットワンスを選択していない状態では、次の設定を行うことができません。

2. [設定]メニューの[データ設定]ダイアログ-[オーディオ]パネルで、[CD TEXT設定]の設定をします。[CD TEXTを書き込む]をチェックし、その下のリストから作成方法を選択します。



曲情報に関する設定内容は以下のとおりです。

英語と日本語のCD TEXTを作成する	英語と日本語の曲情報を入力し、どちらのCD TEXT対応CDプレーヤでも表示ができるCDを作成します。
英語のみのCD TEXTを作成する	英語の曲情報だけが表示されるCDを作成します。日本語の欄に入力しても、表示はされません。
日本語のみのCD TEXTを作成する	日本語の曲情報だけが表示されるCDを作成します。英語の欄に入力しても、表示はされません。
設定がないタイトル、曲名には“no text”を記録する	曲情報の各項目で、何も入力されていないところは、“no text”と表示されるCDを作成します。
自作の曲名ファイル設定を使用する	あらかじめ、曲情報を入力しておいたテキストファイルから、CD TEXTとして記録する項目を引用して、CDを作成します。

Note CD TEXTはプレーヤによって表示可能なテキストが異なる場合があります。ご使用のプレーヤの表示テキストをご確認のうえ、設定してください。

上記の設定をした状態で、次のA、B、Cいずれかの方法で音楽CDを作成するとCD TEXTが作成されます。

A.CD情報のデータベースを利用する

インターネット上の音楽CD情報のデータベースにアクセスし、曲情報を利用します。

WinCDRは、[WAVEファイル作成] ダイアログや [ディスクのコピー] ダイアログからCD情報のデータベースに接続し、アルバムタイトル、アーティスト名、曲名などの情報を取得しCD TEXTとして記録することができます。

Note CD情報を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。インターネットへの接続については、Windowsのマニュアル、ISP（インターネットサービスプロバイダ）が提供するマニュアルなどをご覧ください。

Note 曲名情報がデータベースに登録されていない場合は、情報は得られません。

CD情報の設定をする

CD情報のデータベースに接続するためには、まず接続するための設定を行わなければなりません。設定は1回行えば、2回目以降は必要ありません。

1. [設定] メニューから [CD情報接続設定] を選択します。
2. [CD情報接続設定] ダイアログが表示されます。必要な設定を行い、[OK] をクリックしてください。

The screenshot shows the 'CD情報接続設定' (CD Information Connection Settings) dialog box. It is divided into three sections: '基本設定' (Basic Settings), '接続方法' (Connection Method), and '詳細設定' (Detailed Settings). The '基本設定' section has a 'メールアドレス:' (Email Address) field. The '接続方法' section has radio buttons for 'LAN接続' (LAN Connection) and 'ダイヤルアップ接続' (Dial-up Connection), with the latter selected. Below it are 'ユーザー名:' (Username) and 'パスワード:' (Password) fields. The '詳細設定' section has a dropdown for 'CD情報提供サーバ:' (CD Information Provider Server) set to 'freedb.freedb.org', and a checkbox for 'プロキシサーバを使う' (Use Proxy Server) which is checked, followed by 'サーバ:' (Server) and 'ポート:' (Port) fields. 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom.

Annotations on the right side of the dialog box:

- CD情報データベースにアクセスするために必要です。必ず入力してください。
- 会社など、イントラネット上からの接続です。
- モデム経由の接続です。ユーザー名：インターネット接続時のプロバイダー提供のユーザー名を入力
パスワード：プロバイダー提供のパスワードを入力

Annotation on the bottom left:

- プロキシサーバの設定を行います。プロキシ設定についての詳細は、ネットワーク管理者にお尋ねください。

「ユーザー名」「パスワード」はEメール用ユーザー名、パスワードではありません。インターネット接続時に必要なユーザー名、パスワードです。

CD情報のデータベースから曲情報を取得する

CD情報のデータベースからは次の方法で曲情報を取得します。ここでは曲情報を取得する方法のみ説明します。

WAVEファイル作成時にCD情報データベースを利用する

[WAVEファイル作成] を実行すると、操作の途中で次の [WAVEファイル作成] ダイアログが表示されます。このとき [CD情報] ボタンをクリックするとデータベースにアクセスし曲情報を取得することができます。取得した曲情報は作成するWAVEファイルの名前に利用され、CD TEXTの曲名になります。



[CD情報] ボタンをクリックすると → 取得したデータが [WAVEファイル名] 欄に表示される

- オリジナルCDの作成について、詳しくはp.49 「音楽CDの作成1-オリジナルCDを作る」を参照してください。
- WAVEファイルの作成について、詳しくはp.53 「音楽CDの作成2-オーディオデータから音楽CDを作る」を参照してください。

Note [WAVEファイル作成] ダイアログを利用したCD TEXT作成では曲名のみに記録されます。

ディスクのコピーでCD情報データベースを利用する

[ディスクのコピー] で音楽CDをまるごとコピーするときにも、CD TEXTを作成することができます。

ディスクのコピーでは、次の方法により取得したデータを利用してCD TEXTを作成します。

- CD情報のデータベースから取得した曲情報を利用する
- CD TEXTの曲情報を利用する
- CD Extraのデータトラックの曲情報を利用する
- 曲名ファイルを利用する

1. コピー元のディスクをレコーダあるいはCD-ROMドライブに挿入し、ディスクのコピーを起動します。
 - ディスクのコピーの操作については、p.58「音楽CDの作成3-音楽CDを丸ごとコピーする」を参照してください。
2. [ディスクのコピー]ダイアログで[CD TEXT]ボタンをクリックします。
3. [ディスクのコピー-CD TEXT設定]ダイアログが表示されますので、必要な設定を行ってください。



iii) CD Extraは、データトラックにオーディオトラックの曲名データを持っています。それを利用して、オーディオ部分がCD TEXTに対応したCD Extraにします。

ii) CD ExtraやCD TEXT対応のCDをコピーしようとしているとき、曲名ファイルが選択されていたとしても、CDの持っている曲名情報が優先されます。

iv) あらかじめ作成した曲名ファイルを利用して、元のCDをCD TEXT対応のCDとしてコピーします。
 曲名ファイルを指定するには、曲名ファイルフィールド右のフォルダアイコンをクリックして、ファイルを指定してください。
 曲名ファイルの作成方法は p.67「曲名ファイルをつくる」を参照してください。
 文字情報の入っていない音楽CDをCD TEXT対応のCDにしたい場合は、ここだけをチェックします。

i) [CD情報]ボタンをクリックすると、CD情報データベースに接続します。利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

4. 設定が終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。[ディスクのコピー]ダイアログが表示されます。

B.トラック情報を付加する

ウェルに配置したWAVEファイルやMP3ファイル、WMAファイルのそれぞれのトラックに曲情報を追加し、CD TEXTを作成する方法です。

CD TEXTの設定を行う

適切な設定がされていないと、トラック情報を付加することができません。p.65「CD TEXTの設定を行う」を参照し、設定を行ってください。

情報を入力する

ウェルに配置した各トラックに対し、アルバム名 / アーティスト名 / 曲名を入力します。英語は半角で、日本語は全角で入力してください。

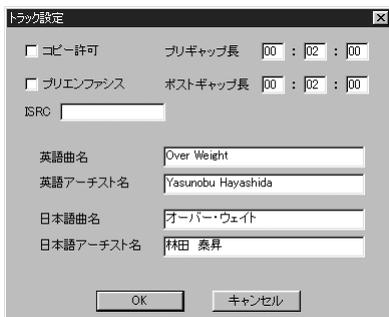
- オーディオデータをウェルに配置して音楽CDを作る方法については、p.53「音楽CDの作成 2-オーディオデータから音楽CDを作る」を参照してください。

1. ウェル左側のAudioアイコンにポインタを合わせ、右クリックして、[アルバム名設定]を選択します。



2. [CD TEXTアルバム設定] ダイアログが表示されます。アルバム名 / アーティスト名を入力し、[OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。
3. 次に曲名を設定します。ウェル上のWAVEファイルやMP3ファイル、WMAファイルにポインタを合わせ右クリックしてください。メニューから [トラック設定] を選択します。

4. [トラック設定] ダイアログが表示されます。曲名/アーティスト名を入力し、[OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



5. 同様に、ウェルに配置した全てのトラックの設定をしてください。

Note ウェル上の英語と日本語の曲名の表示を切り替えることができます。ウェル上のWAVEファイル、MP3ファイル、WMAファイルにポインタを合わせ、右クリックして表示されるメニューから、「英語」または「日本語」を選択してください。

C. 曲名ファイルを使用する

CD TEXTの曲情報をあらかじめファイルに入力しておくことができます。CD書き込み時にそのファイルを指定することによって情報を利用します。

曲名ファイルをつくる

曲名ファイルは、一般のワープロソフトなどで作成することができます。次のような手順・書式で作成した後、テキストファイルとして保存してください。

Note 曲名ファイルを使用した場合は、ウェル上に曲名が表示されません。

1行目：言語を指定します。英語の場合は「en」、日本語の場合は「ja」と入力してください。

2行目：アルバム名とアーティスト名を指定します。「0」、アルバム名、アーティスト名を入力してください。各項目の間は[Tab]キーを押します。

3行目以降：各トラックの情報を、トラック番号をつけて、全曲、入力してください。

Note 英語と日本語の両方の曲名情報を記述する場合は、「曲名ファイル例」のように続けて書いてください。

Note 曲名ファイルに記入するトラック数は、メディアに書き込むトラック数と同数にしてください。

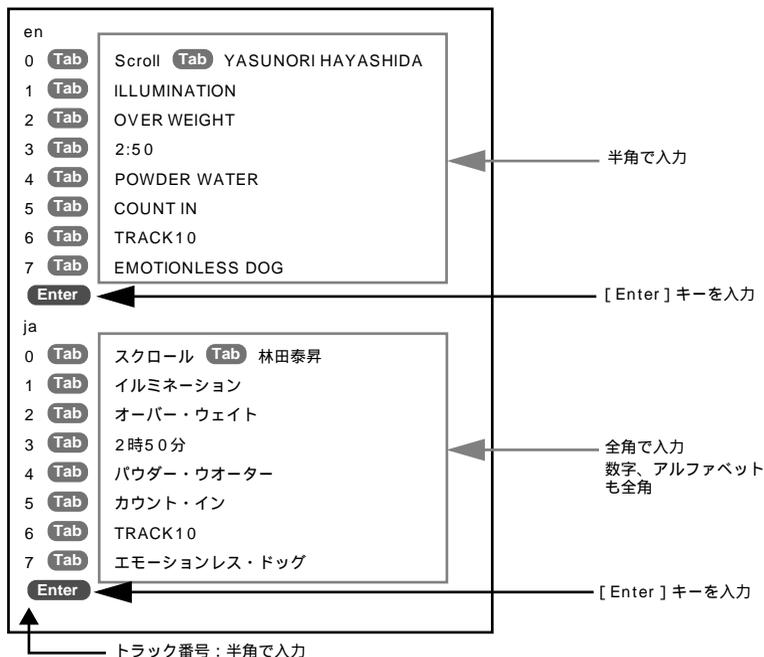
Note アルバム名、曲名を省略すると、曲名が繰り返り上がって表示されてしまいます。途中で省略はしないでください。

複数のアーティストからなるオリジナルCDを作るには

お気に入りの曲を集めたオリジナルCDを作るとき、アーティストが一人とは限りません。曲名と、そのアーティスト名を表示するようなCD TEXTを作成したいときは、各曲の後ろに[Tab]キーを押し、アーティスト名を入力してください。

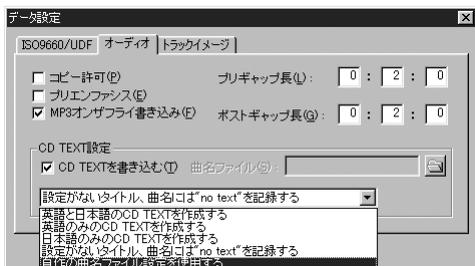
この場合は、すべての曲の後ろにアーティスト名を入れてください。省略することはできません。

曲名ファイル例



ファイルを指定する

[データ設定] ダイアログ-[オーディオ] パネル-[CD TEXT設定] で、[自作の曲名ファイル設定を使用する] を選択します。



COLUMN

CDの全曲をWAVEファイルにしたら650MBを超える？！

1枚の音楽CDに含まれるオーディオデータをすべてWAVEファイルに変換すると、その容量がハードディスク上で650MBを超えてしまう場合があります。1枚のメディアに書き込める容量は650MB（74分）までなので、一見、書き込めないように思えます。

オーディオデータとコンピュータのデータは、メディアに書き込む最小単位（セクタと言います）あたりのデータ量が異なるため、同じ74分ぶんのデータであっても、以下のような差がでてきます。

- ・ オーディオデータ：(74分メディアの場合)
 $2352 \text{ バイト} \times 75 \text{ フレーム} \times 60 \text{ 秒} \times 74 \text{ 分} = \text{約} 740 \text{ MB}$
- ・ PCデータ：
 $2048 \text{ (エラー補正コードなどを含めると} 2352 \text{)} \text{ バイト} \times 75 \text{ フレーム} \times 60 \text{ 秒} \times 74 \text{ 分} = \text{約} 650 \text{ MB}$
Note セクタが75集まって1秒となります。
- ・ オーディオデータ：(80分メディアの場合)
 $2352 \text{ バイト} \times 75 \text{ フレーム} \times 60 \text{ 秒} \times \text{約} 80 \text{ 分} = \text{約} 800 \text{ MB}$
- ・ PCデータ：
 $2048 \text{ (エラー補正コードなどを含めると} 2352 \text{)} \text{ バイト} \times 75 \text{ フレーム} \times 60 \text{ 秒} \times \text{約} 80 \text{ 分} = \text{約} 700 \text{ MB}$

WinCDRでWAVEファイルを作成した場合、[WAVEファイル作成] ダイアログに表示される容量はオーディオデータの方なので、約740MBまでであれば、74分以内ということになり、書き込むことができます。80分メディアも同様に書き込むことができます。

Enhanced CDの作成

1枚のメディアにデータトラックとオーディオトラックを書き込んだMixed Mode CDは、音楽CDプレーヤーで再生すると、第1トラックに書き込まれているデータトラックをオーディオデータとして読み込もうとするために問題が発生していました。これを解決するために誕生したのがEnhanced CDです。

オーディオトラックの後にデータトラックを追記しており、音楽CDプレーヤーに挿入すれば音楽CDとして認識され、コンピュータのCD-ROMドライブに挿入すればオーディオトラックのあるCD-ROMとして認識されます。アーティストの音楽CDの中に、画像データやスクリーンセーバーなどのデータを追加したCD ExtraはEnhanced CDの一種で、一般的にはEnhanced CD = CD Extraと認識されることが多くなっています。

Note データトラックのプログラムがオーディオトラックのデータを呼び出し、BGMを再生しながらモニタに画像を表示するようなEnhanced CD (CD Extra) を作成するには、それぞれの専門的な知識が必要となります。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切つてありますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

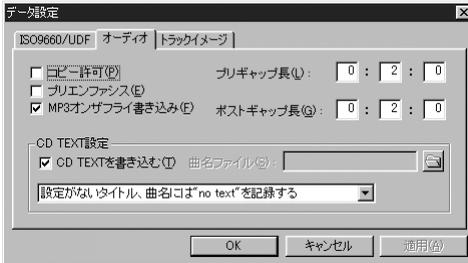
- 新規のメディア
- データトラックに書き込むファイル
- オーディオトラックに書き込むファイル (WAVE、MP3、WMA)

オーディオトラックとしてメディアに書き込めるのは、以下の形式のファイルに限られます。

形式	サンプリングサイズ	サンプリングレート	チャンネル
WAVE	16ビット、8ビット	44.1 kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)、 1ch (モノラル)
MP3	16ビット	44.1 kHz	2ch (ステレオ)
WMA	16ビット、8ビット	44.1 kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)

Note お使いのパッケージによっては、WMAファイルを使用できない場合があります。

1. CDの書き込み設定を行います。[設定]メニューで[データ設定]を選択します。
2. [データ設定]ダイアログで[オーディオ]タブを選択します。
3. [オーディオ]パネルで[プリギャップ長]を設定します。



Note セッションアットワンスで書き込む場合は、プリギャップ長を変更できます。必要に応じて、変更してください。

トラックアットワンスで書き込む場合は、プリギャップ長は2秒固定です。

4. レコーダに新規のメディアをセットしてください。
5. [ランチャタブ]の[CDの作成]で、[Enhanced CDの作成]ボタンを選択します。
6. ウェル左側の[Audio]を選択し、サウンドデータをウェルに配置します。ウェル左側の[ボリュームラベル]を選択し、データトラックをウェルに配置します。



Note 必要に応じて、データの配置、名前、ボリュームラベルを変更してください。ウェル上でこれらの操作を行っても、オリジナルデータに影響はありません。

Note サウンドデータの場合は、ウェル上のオーディオアイコンを右クリックして「トラック設定」を選択すると、1曲単位でトラック設定を行うことができます。デフォルトではプリギャップ2秒、ポストギャップ2秒になっています。

Note トラックアットワンスでの書き込みは、規格上プリギャップが2秒に固定されています。

7. 準備ができたなら [書き込み] ボタンをクリックしてください。
8. [レコーディング] パネルが表示されます。必要な設定を行い [実行] ボタンをクリックしてください。

追記

[Track at once] で、[追記禁止] がクリアされた状態で書き込みされたメディアは、追記することができます。

Enhanced CDに追記できるのは、ISO 9660データトラックのみです。オーディオトラックは追記できません。

- 追記の方法については、p.95「追記する (CD-R/CD-RW/DVD+RWのみ)」を参照してください。

COLUMN

Enhanced CD作成時の書き込み方式について

セッションアットワンスに対応しているレコーダを使用している場合は、書き込み方式にセッションアットワンスを選択してください。セッションアットワンスで記録すると、トラック間にリンクブロックが発生しません。また、オーディオトラックのプリギャップ(曲前の無音部分)を自由に変更できます(トラックアットワンス時は2秒固定)。

Note セッションアットワンスに対応していないレコーダを使用している場合は、トラックアットワンスで書き込みます。Enhanced CDは、ディスクアットワンスで書き込むことはできません。

Note Enhanced CDを作成するには、マルチセッションに対応したレコーダが必要です。

COLUMN

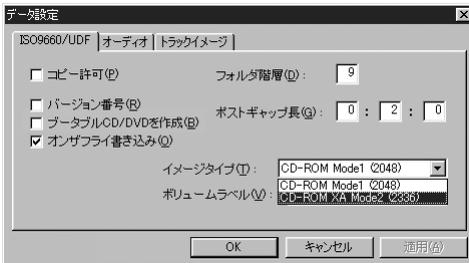
マスターにするEnhanced CDを作成するには

マスター（原盤）用のEnhanced CDを作成する場合は、データトラック部分を、オーディオトラックと同じ1セクタ2336バイトで書き込むように設定し、セッションアットワンスで書き込んでください。

CD Extraの規格に則ったデータトラックを用意すれば、CD Extraを作成することもできます。

書き込み設定

1. [データ設定] ダイアログの [ISO 9660/UDF] パネル- [イメージタイプ] で [CD-ROM XA Mode2 (2336)] を選択してください



2. [環境設定] ダイアログで [Disc at once/Session at once] を選択してください。

Note レコーダが、セッションアットワンスに対応していない場合は、[Track at once] しか選択できません。この場合、マスターは作れません。

アナログ録音

WinCDRは、コンピュータに接続したマイクやMDプレーヤ、レコードプレーヤなどの外部機器の音源からWAVEファイルを作成したり、直接メディアに書き込むことができます。

チェック

接続

コンピュータとレコーダは正しく接続されていますか？

コンピュータと外部機器は正しく接続されていますか？

コンピュータと外部機器との接続については、コンピュータやサウンドボードの取り扱い説明書などを参照してください。

環境設定は済んでいますか？

必要なもの

レコードプレーヤ、MDプレーヤ、マイクなど

ハードディスクの空き容量（WAVEファイルを作成する場合）

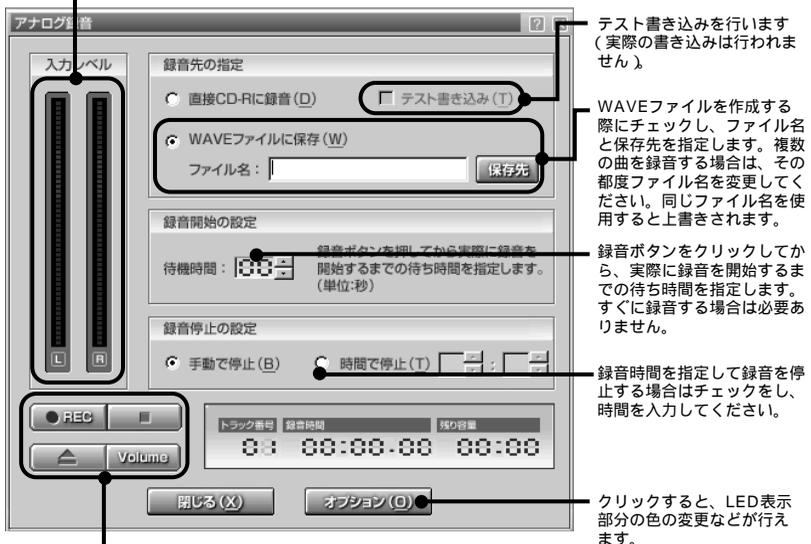
メディア（直接メディアに書き込む場合）

アナログ音源からWAVEファイルを作成する

コンピュータと接続した外部機器からWAVEファイルを作成し、ハードディスクに保存します。作成したWAVEファイルは、WAVE編集機能で編集することもできます。

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[アナログ録音]ボタンをクリックしてください。
2. [アナログ録音]ダイアログが開きます。必要な設定を行ってください。

入力レベルを表示します。



録音ボタン：録音の開始時にクリックします。
 停止ボタン：録音の停止時にクリックします。
 イジェクトボタン：レコーダからメディアを取り出す際にクリックします。
 ボリュームボタン：クリックすると、Windowsの[再生ボリューム]ダイアログが開きます。

Note [ボリューム]ボタンをクリックして[再生ボリューム]ダイアログを表示し、[オプション]-[プロパティ]-[録音]がチェックされているか確認してください。

3. [録音]ボタン をクリックすると録音が始まります。[待ち時間]を設定した場合は、[録音]ボタンをクリックし、カウントダウンを確認して、レコードプレーヤなどの外部機器をスタートさせてください。
 設定していない場合は、外部機器をスタートさせてから、タイミングをはかって[録音]ボタンをクリックしてください。
4. [時間で停止]を設定した場合は、設定時間で自動的に録音を停止します。設定していない場合は、[停止]ボタンをクリックして手動で停止してください。

5. 複数の曲を書き込むときは、録音と停止（手順3.4.）を繰り返してください。このとき、保存するファイル名を変更せずに録音を開始すると、すでに保存したファイルが上書きされてしまい、記録した曲が失われます。別の曲を録音する場合は、[アナログ録音]ダイアログの[WAVEファイルに保存]の[ファイル名]欄で、別のファイル名を指定してください。

Note [録音]ボタンをクリックしてから、[停止]ボタンをクリックするまでが1トラックとなります。レコードプレーヤなどから一度に複数曲を書き込んだ場合は、複数の曲で1トラックになります。1曲で1トラックとする場合は、1曲ずつ録音・停止を繰り返してください。

Note 保存したWAVEファイルは、あとから[WAVEファイル編集]でトラックを分割することもできます。
ただし、編集するWAVEファイルのサイズが大きいと、メモリも多く要します。メモリ不足で編集できない可能性がある場合は、あらかじめ録音する段階でいくつかのファイルに分割してください。

6. WAVEファイルの作成が終了したら、[閉じる]ボタンをクリックしてください。メインウインドウに戻ります。

利用するには

作成したWAVEファイルから、音楽CDを作成することができます。

WAVE編集機能を使って、トラックで分割したり、効果を加えることができます。

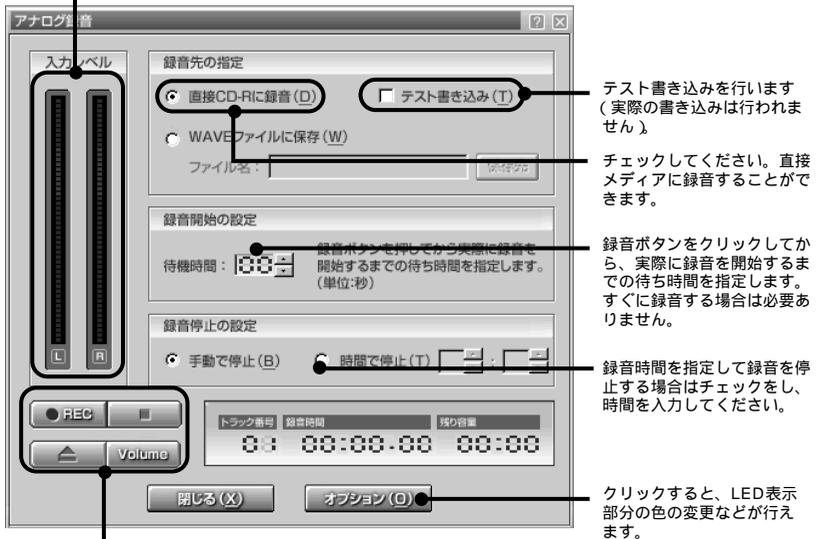
☛ p.79「WAVEファイル編集」

直接メディアに録音する

ハードディスクにWAVEファイルを作成しないで、直接メディアに書き込みます。

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[アナログ録音]ボタンをクリックしてください。
2. [アナログ録音]ダイアログが開きます。必要な設定を行ってください。

入力レベルを表示します。



録音ボタン: 録音の開始時にクリックします。

停止ボタン: 録音の停止時にクリックします。

イジェクトボタン: レコーダからメディアを取り出す際にクリックします。

ボリュームボタン: クリックすると、Windowsの[再生ボリューム]ダイアログが開きます。

Note [ボリューム]ボタンをクリックして[再生ボリューム]ダイアログを表示し、[オプション]-[プロパティ]-[録音]がチェックされているかご確認ください。

3. [録音]ボタン REC をクリックすると録音が始まります。[待機時間]を設定した場合は、[録音]ボタンをクリックし、カウントダウンを確認して、レコードプレーヤなどの外部機器をスタートさせてください。
設定していない場合は、外部機器をスタートさせてから、タイミングをはかって[録音]ボタンをクリックしてください。
4. [時間で停止]を設定した場合は、設定時間で自動的に録音を停止します。設定していない場合は、[停止]ボタンをクリックして手で停止してください。
5. 複数の曲を書き込むときは、3.と4.の手順を繰り返してください。

Note [録音] ボタンをクリックしてから、[停止] ボタンをクリックするまでが1トラックとなります。レコードプレーヤなどから一度に複数曲を書き込んだ場合は、複数の曲で1トラックになります。1曲で1トラックとする場合は、1曲ずつ録音・停止を繰り返してください。

6. すべての録音が終わったら、[アナログ録音] ダイアログの[閉じる] ボタンをクリックしてください。クローズセッションをするかどうか確認するダイアログが表示されます。[はい] ボタンをクリックすると[クローズセッション] ダイアログが表示されます。[実行] [キャンセル] いずれかのボタンをクリックしてください。

Note クローズセッションをしていないCDは、オーディオCDプレーヤで再生することができません。あとからクローズセッションをする場合、[ランチャタブ]の[ツール] から[クローズセッション] ボタンを選択してください。



WAVEファイル編集

ウェルに登録したWAVEファイルに、フェードイン・フェードアウト、ノーマライズ、サイレンス、ミュート、ノイズゲートなどの編集を加えることができます。アナログ録音などで、数曲分まとめてWAVEファイルに保存した後、このWAVE編集機能を使ってトラックを分割することもできます。

操作は、加工したい部分を選択範囲で指定するかマーカーで指定し、ボタンをクリックするだけで簡単に編集できます。波形表示倍率を自在に変えれば詳細な編集も可能で、また編集内容の取り消しがメモリの許す限り何度でもできますのでさまざまな効果にトライできます。さらに、編集元のファイルに手を加えるのではなく別ファイルとして編集するので、バックアップする必要がありません。トラックを分割した場合でもフェードイン・フェードアウトをつかってスムーズな感じで仕上がりますし、イントロ集やハイライト部分をまとめた音楽カタログの制作も簡単にできます。

Note 「環境設定」で設定する作業フォルダのあるボリュームに、編集元のWAVEファイルと同等以上の空き領域が必要です。

チェック

- ハードディスクの空き領域は十分にありますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- WAVE形式のサウンドファイル
 - ・ サンプルサイズ : 16ビット
 - ・ サンプルレート : 44.1kHz
 - ・ チャンネル : 2ch (ステレオ)
 - ・ 形式 : WAVE

上記以外の形式のファイルは、編集は行えません。

Note サウンドカードがない場合、再生は行えませんが編集機能は使えます。

Note 編集可能なWAVEファイルの大きさは、使用可能なメモリ容量に依存します。

WAVEファイルをトラックごとに分割する

アナログ録音などで、数曲分がまとまった状態で保存されているWAVEファイルを、指定した場所でトラックごとに分割することができます。

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[オーディオCDの作成]を選択し、エクスプローラあるいはデスクトップからウェルにWAVEファイルをドラッグして登録します。
2. WAVEファイル編集を起動します。
ウェル上の編集したいWAVEファイルを選択し、右クリックして[WAVEファイル編集]を選択します。

Note [ランチャタブ]の[ツール]から[波形編集]ボタンをクリックして起動することもできます。

Note 適切な種類のディスクを選択していないと、[WAVEファイル編集]コマンドを選択できません。

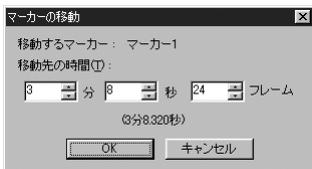
3. [WAVE編集]ダイアログが表示されます。
まず、表示倍率の変更を行います。デフォルトでは最大表示になっていますので、表示倍率スライダを左に移動し、適当な倍率に変更します。



4. トラックとして分割したいところにマーカーを作成します。
作成：マーカーエリアでマウスをクリックします。作成順に「マーカー 1」「マーカー 2」と番号がついた名前になります。



移動：マーカーをマウスでドラッグします。また、マーカーを右クリックし[時間指定で移動]を選択すると[マーカーの移動]ダイアログが表示され、任意の時間に移動することができます。



削除：不要なマーカーを右クリックし[削除]を選択します。



5. 範囲を指定したら、[再生]ボタンをクリックして確認します。
6. トラックを追加します。
[トラック追加方法]で[マーカーで分割]をチェックします。
[追加]ボタンをクリックすると、下のボックスにトラックがリストされます。

7. [OK] ボタンをクリックして、メインウインドウに戻ります。ウェルには、分割したトラックが登録されています。

Note 編集したWAVEファイルは、音楽CDに書き込んでください。WAVEファイルとしてISO 9660形式でCDに書き込んだり、ハードディスクに保存することはできません。

- ☛ p.53「音楽CDの作成 2-オーディオデータから音楽CDを作る」

WAVEファイルにエフェクトをかける

WAVEファイルの選択した範囲に、フェードインやフェードアウトなどの音響効果を加えることができます。

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[オーディオCDの作成]を選択し、エクスプローラあるいはデスクトップからウェルにWAVEファイルをドラッグして登録します。
2. WAVEファイル編集を起動します。
ウェル上の編集したいWAVEファイルを選択し、右クリックして[WAVEファイル編集]を選択します。

Note [ランチャタブ]の[ツール]から[波形編集]ボタンをクリックして起動することもできます。

Note 適切な種類のディスクを選択していないと、[WAVEファイル編集]コマンドを選択できません。

3. [WAVE編集]ダイアログが表示されます。
まず、表示倍率の変更を行います。デフォルトでは最大表示になっていますので、表示倍率スライダを左に移動し、適当な倍率に変更します。



4. エフェクトをかけたい範囲を選択します。
選択方法1：波形表示部をマウスでドラッグします。反転している部分が選択範囲です。
選択方法2：マーカーを併用すると正確な範囲選択ができます。選択範囲の両側にマーカーを作成し、[範囲/マーカー指定]で[マーカーに合わせる]をチェックします。この状態で、波形表示部のマーカー間をマウスでドラッグします。
解除：波形表示部の適当な場所を、マウスでクリックします。
5. 範囲を選択したら、エフェクトをかけたい効果のボタンをクリックします。複数の箇所にもエフェクトをかけたい場合は、[範囲選択] [エフェクト]を繰り返してください。
6. 選択範囲にエフェクトをかけたら、[再生]ボタンをクリックして確認します。
7. [OK]ボタンをクリックして、メインウィンドウに戻ります。
ウェルには、編集後のファイルが登録されています。

Note [WAVE編集]ダイアログで1つでもトラックを追加している場合は、トラックとして選択、追加された範囲がウェルに登録されます。

Note マーカーを使って選択範囲をクロスさせることはできませんが、クロスフェードはできません。

WAVE 編集画面



マーカー選択メニュー

メニューから、マーカーを選択して移動できます。

左マーカーへ移動

選択されたマーカーから左のマーカーに移動することができます。

右マーカーへ移動

選択されたマーカーから右のマーカーに移動することができます。

波形表示の倍率変更

波形の表示倍率を変更します。WAVE 編集画面を開いた直後は最大表示になっていますので、左にスライドさせて適当な倍率を選択してください。

フェードイン

選択範囲にフェードイン効果をかけます。徐々に音量を上げてゆったりとしたムードを出すのに効果的です。

フェードアウト

選択範囲にフェードアウト効果をかけます。長い曲を途中で終了させる場合に使うと自然に終わらせることができます。

ノーマライズ

選択範囲をノーマライズ（音楽レベルを一律に平均化（最適化）すること）します。ダイナミックレンジの大きな録音を均一化して音が割れたりするのを防ぐ効果があります。

サイレンス

選択範囲に無音を挿入します。選択箇所への上書きではないので、無音の後に選択箇所がずれる形になります。曲と曲の間隔が狭い場合に無音部分を長くすることができます。

ミュート

選択範囲を無音にします。サイレンスとは違い、選択箇所は全くの無音になります。ライブ演奏前のノイズを消したり、エコー成分をカットしてリミッターのような効果も出せます。

ノイズゲート

選択範囲が微小音量の場合に無音にします。特にアナログ録音で曲間部分に目立つノイズなどを抑えることができます。

曲(WAVEファイル)全体にはかけないでください。

エフェクトを元に戻す

エフェクトを元に戻すことができます。回数の制限はありません。

エフェクトのやり直し

元に戻したエフェクトをもう一度やり直すことができます。回数の制限はありません。

停止ボタン

再生ボタン

追加ボタン

マーカーのある箇所トラックを分割したり、選択範囲を別のトラックとして追加します。

削除ボタン

追加したトラックを削除します。

トラック追加一覧

追加、分割されたトラックを一覧表示します。

トラック追加方法

選択範囲で指定：選択した部分のみをトラックとして追加します。

マーカーで指定：マーカー番号で指定することができます。

例：マーカー1～4を追加

マーカーで分割：マーカーを設定したところから別トラックとして分割します。

範囲/マーカー指定

マーカーに合わせる：マウスでの選択をマーカー間のみで選択することができます。

2352バイト境界に合わせる：1セクタを2352バイトと定めているため、チェックすると、必ずこのバイト数になるよう合わせてくれます。1セクタでも抜けるとデータとして利用できないためです。

選択範囲

現在の選択範囲の長さを表示します

重要： 市販の音楽CD等を著作者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

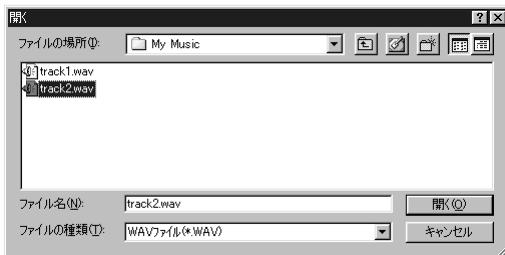
エフェクト

トラック全体に対して効果をかけます。

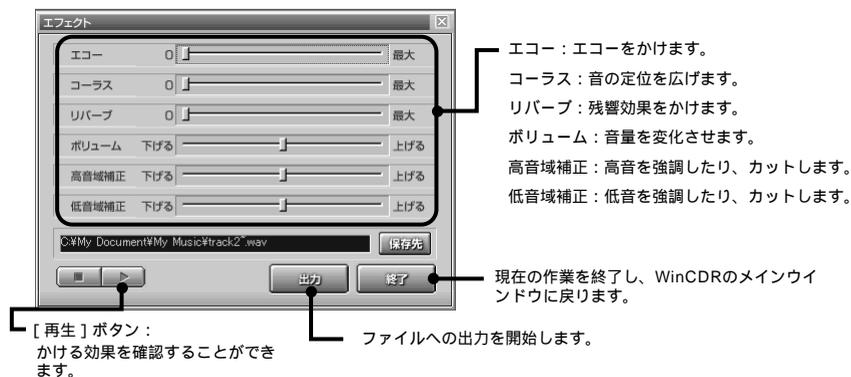
Note この機能は、Windows NTではお使いになれません。

エフェクトを使う

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[エフェクト]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログが開きますので、エフェクトをかけるファイルを選択します。



3. [エフェクト]ダイアログが開きますのでかけたい効果を設定してください。効果は、曲全体に対してかかります。
[再生]ボタンをクリックすると、かける効果を確認することができます。



4. [出力]ボタンをクリックするとファイルへの出力が始まります。

5. 出力が終了するとダイアログが表示されます。出力されたファイルは、保存先に指定したフォルダに保存されています。
[OK] をクリックすると、WinCDRのメインウィンドウに戻ります。



第4部

データの保存

WinGDR[®] 7.0

ファイルの保存

コンピュータのハードディスクに保存してあるファイルをメディア（CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+RW/DVD+R）に保存します。できあがったディスクは、CDはISO 9660形式、DVDはUDF形式になります。

ISO 9660形式で作成されたCD-ROMは、Windowsはもちろん、MacintoshやUNIX系のワークステーションでも読み出すことができます。ただし、他のOSで読み取るCDを作るときは、それぞれのOSの制限に応じてファイル名を付ける必要があります。

作成したCD-ROM/DVD-ROMは、データを読み取るために特別なソフトは必要ありません。CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブなどに挿入し、普通のデータと同じ様に、Windows上でハードディスクにコピーして使えます。

Note DVD-ROMはOSがDVD（UDF）をサポートしている環境であれば、UDFのディスクとしてマウントされます。UDFをサポートしていないOSでは、ISO 9660のディスクとしてマウントされます。

Note ハードディスクにコピーしたファイルの属性は、元の属性に関わらず[読み取り専用]属性になります。

Note 作成したディスクは、それぞれのディスクに対応しているドライブでないと読めません。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- メディア
- メディアに書き込むファイル

DVDメディアのご使用について

DVDメディアへの書き込みは、対応したレコーダが必要です。

DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

DVD+RWには追記が可能です。追記禁止にはできません。

DVD-R for General ver2.0、DVD-RW ver.1.1、DVD+RW、DVD+Rのメディアをサポートしています。

ファイル/フォルダを保存する

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[データCD/DVDの作成]ボタンをクリックします。
2. レコーダに新規のメディアをセットします。
3. エクスプローラあるいはデスクトップから、ウェルにデータをドラッグします。



- ・ ウェルには、ファイルまたはフォルダを配置できます。
- ・ フォルダを配置した場合は、フォルダ内のファイルやフォルダも配置されます。
- ・ データの配置を変更できます。
(同じ階層のファイルやフォルダは自動的にソートされますので、配置の変更はできません)
- ・ ファイル名、フォルダ名の変更ができます。
- ・ ボリュームラベル(ドライブに挿入した際に表示されるCD-ROM/DVD-ROMの名前)の変更ができます。

Note ウェル上でデータの配置、名前の変更、削除を行っても、オリジナルデータに影響はありません。

COLUMN

ファイル/フォルダ名のチェック

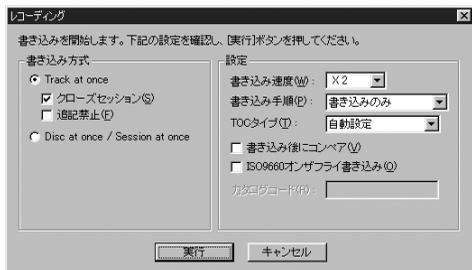
作成したCDを他のOSで読む場合は、[名前の付け方]で規格を選択します。

ウェルに配置したファイルやフォルダの名前をチェックし、不適切な名前があればダイアログを表示して注意を促します。

詳しくは p.212 「[名前の付け方] ダイアログ」を参照してください。

Note DVD メディアをレコーダに挿入している場合は、自動的に [名前の付け方] が [UDF(DVD)] に設定されます。変更することはできません。

- 準備ができたなら [書き込み] ボタンをクリックしてください。
- [レコーディング] パネルが表示されますので、用途にあわせた設定をします。



CD-R/CD-RW

通常のファイルの保存では [Track at once] を選択します。メディアに未使用領域があって [追記禁止] をするまでは、データを追記していくことができます。

クローズセッションをすると、CD-ROMドライブでデータを読み取ることができます。

データを変更されたくない場合、これ以上データを書き込まない場合、マスター（原盤）を作成する場合などは、[Disc at once] を選択します。

DVD-R/DVD-RW/DVD+R

DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みはディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

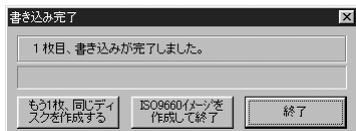
DVD+RW

DVD+RWには書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

Note [レコーディング] パネルでの変更は、[書き込み設定] ダイアログの設定には影響しません。

Note CD-R/CD-RWに [Disc at once] で書き込んだ場合は、書き込み終了後、イメージ作成フォルダに Cue Sheet (CUESHEET.TXT) が作成されます。マスター作成に必要なものですが、個人としてCDを作成する場合は必要ありません。
DVDメディアに書き込みを行った場合は、Cue Sheetは作成されません。

- [書き込み完了] ダイアログが表示されたら作業は終了です。[終了] ボタンをクリックします。



[終了] ボタン：

クリックすると、[Untitledへの変更を保存しますか？] と確認されます。現在のウエルの状態を保存したいときは [はい] ボタンをクリックし、名前を付けて保存します。保存しないときは、[いいえ] ボタンをクリックしてください。

☛ p.97 「ISO 9660トラックイメージと、ウエル状態の保存」

[もう1枚、同じディスクを作成する] ボタン：

同じディスクを作成します。

[ISO9660イメージを作成して終了] ボタン :

☛ p.97 「ISO 9660トラックイメージと、ウェル状態の保存」

Note DVDメディアへの書き込み時は、[ISO9660イメージを作成して終了] ボタンは選択できません。

Note 転送エラー防止機能カウンタ対応のレコーダをお使いの場合、転送エラー防止機能が働いた回数がダイアログに表示されます。

利用する

作成したディスクのデータを利用するときは、いったんハードディスクにコピーします。コピーは、フロッピーディスクやMOディスクなどと同様に、Windowsのエクスプローラなどで行ってください。

この際、ハードディスクにコピーしたデータは [読み取り専用] 属性になっているため、編集作業などをして書き戻すことができません。必要に応じて属性を変更する必要があります。

Note [読み取り専用] 属性とは、ファイルを誤って上書きしたり削除したりできないようにする設定で、通常、プリマスタリングソフトを使ってディスクにデータを書き込むと、その時点で、元の設定にかかわらず読み取り専用属性が設定されます。

読み取り専用属性を解除するには

1. 属性を変更したいファイルを、クリックして選択します。

Note メディアに書き込まれているファイルの属性は変更できません。

2. ファイルを右クリックして、[プロパティ] を選択します。



3. [読み取り専用] 属性のチェックを外します。



Note 複数のファイルを選択した状態で、どれかひとつのプロパティを表示して属性を変更すると、選択しているファイルすべてに適用されます。

追記する (CD-R/CD-RW/DVD+RWのみ)

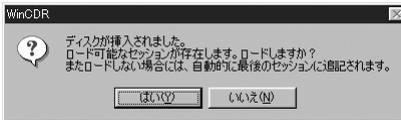
メディアに未使用領域がある場合は、データを追記していくことができます。CD-R/CD-RWでは、次の条件が必要です。

- ・ [Track at once] で書き込まれている
- ・ 追記禁止されていない

Note CD-RやCD-RWに行う「追記」は、ハードディスクやフロッピーディスクへの書き込みとは異なり、同じ名前のファイルを書き込んだとしても、「上書き」ではありません。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rに追記することはできません。

1. 追記したいメディアをレコーダに挿入します。
2. 以下のダイアログが開きます。ここで [はい] ボタンをクリックすると、以前に書き込んだ内容が [セッション選択] ダイアログに表示されます。



通常は、このまま最後のセッションを読み込んでください。



以前のセッションを読み込むと、そのときのファイルを読み込むことができます。ウェルに読み込まれたファイルやフォルダを右クリックし、ハードディスクなどにコピーして利用することができます。

Note DVD+RWでは、セッションをロードしないと追記することができません。必ずセッションをロードしてください。
また、書き込まれたファイルが多い場合、ロードに時間がかかります。

3. メディアに書き込まれているデータがウェルに読み込まれます。



4. あとは、新規のメディアに書き込むのと同じです。
5. エクスプローラ、あるいはデスクトップから追記したいデータをウェルにドラッグしてください。

Note DVD+RW の場合、メディアからロードしたファイルと同名のファイルを書き込むと、元のファイルが上書きされますのでご注意ください。

6. 必要に応じてデータの配置や名前の変更を行い、準備が整ったら、[書き込み] ボタンをクリックします。
7. [レコーディング] パネルが表示されます。必要に応じ設定を変更し [実行] ボタンをクリックしてください。追記がスタートします。

COLUMN

ISO 9660トラックイメージと、ウェル状態の保存

CD-R/RWにISO 9660形式でのデータ書き込みが終了すると、[書き込み完了]ダイアログが表示され、[ISO 9660イメージを作成して終了]が選択できます。ボタンをクリックすると、ISO 9660トラックイメージが作成・保存されます。

すると、今度は[Untitledへの変更を保存しますか?]と聞いてきます。[はい]をクリックすると、現在のウェルの状態が保存できます。

この段階で2種類のファイルが作成されました。

- ・ ISO 9660トラックイメージ (拡張子 img)
- ・ 現在のウェルの状態 (拡張子 cdr)

どちらも、たった今作成したCD-ROMに関わっていることはわかりますが、このふたつのファイルの違いはどこにあるのでしょうか？

ISO 9660トラックイメージ

ISO 9660トラックイメージは、ウェル上に配置された並び、名前で、実際にメディアに書き込まれたデータをそのままひとつのファイルとしたもので、書き込まれたデータと同等の容量があります。

このファイルはメディアに書き込まれた実データなので、他のWinCDRがインストールされているコンピュータに持っていても、トラックイメージによるCD-ROMの作成を行うことで、同じ内容のCD-ROMを作成することができます。

ウェルの状態の保存

一方、「ウェルの状態の保存」というのは、書き込む際にウェル上に配置したデータの並びの情報、名前、オリジナルデータのあるフォルダの情報などをひとつのファイルにしたもので、いわば、地図のようなものです。メディアに書き込まれた実データではありません。データの再配置の手間を省くためのファイルとお考えください。

したがって、このファイルを他のWinCDRがインストールされているコンピュータに持っていったとしても、実データがそこにはないので、データをメディアに書き込むことはできません。

また、書き込みを行ったコンピュータであっても、オリジナルデータを他のフォルダに移動してしまったり、消去や名前の変更を行った場合は、ウェルの状態を保存したときの情報と、コンピュータ内の現在の状態が異なるため、書き込みができなくなります。

Note ウェル状態のファイルはバージョンの異なるWinCDRでは読み込むことはできません。

COLUMN

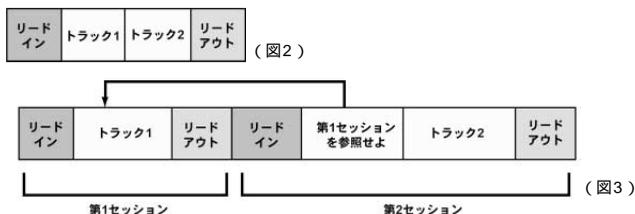
“追記”とはどういうものか？

CD-R/CD-RWにTrack at onceで書き込んだ場合、追記ができます。

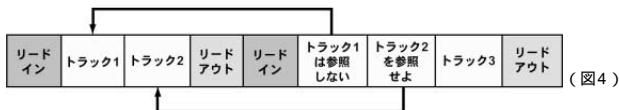
Track at onceで書き込みを行うと、書き込んだトラック(データ)の前後にリードイン(トラックの情報、書き込み開始位置等を表す)とリードアウト(トラックの書き込み終了位置を表す)が書き込まれます。まずトラックが書き込まれ、次にリードインとリードアウトが、前後を挟むように書き込まれます。これをクローズセッションといい、[リードイン+トラック+リードアウト]のひと固まりを「セッション」と呼びます(図1)。



最初に書き込まれたセッション(第1セッション)にファイルを追記したい場合、本来であればリードアウトを後方にずらし、(図2)のような状態にできればいいのですが、CD-Rは一度書き込んだ状態を変更できないので、追記ファイルを第2セッションとして書き込み、そこに「第1セッションを参照するように」という指示を付加することにより、あたかもトラックが連続しているように見せているのです(図3)。



第2セッションでトラックを追記すると同時に、第1セッションのトラックを消去する場合も、すでに書き込まれているトラックを物理的に消去することは不可能なので、「消去対象のトラックは参照しない」という指示を付加することで、消去されたかのように見せているのです(図4)。



また、ハードディスクやフロッピーディスクの場合、すでに保存されているファイルと同名のファイルを書き込もうとすると「上書き」になりますが、CD-RまたはCD-RWの場合は、見かけ上、上書きのようになっていても、追記前のデータが残っています。[セッション選択]ダイアログで、追記前のセッションを選択すれば、その時点の状態を復活できます。

Note DVD+RWは、CD-R/CD-RWと異なり、既存のファイルと同名のファイルを書き込む場合「上書き」になります。

COLUMN

オンザフライ書き込み

CD-ROM (ISO 9660) にデータを書き込む場合、トラックアットワンス、ディスクアットワンスどちらの方式でも、通常は書き込むデータのトラックイメージをハードディスクに作成し、そこからメディアに書き込んでいます。

オンザフライ書き込みは、ハードディスク上にトラックイメージを作成せずに、元データからメディアへ直接書き込む方法です。ご利用になるには、[設定] メニューの [データ設定] で、[ISO 9660/UDF] パネルにある [オンザフライ書き込み] にチェックをしてから、書き込みを行ってください。



テスト書き込みについて

オンザフライ書き込みは、トラックイメージを作成しないため、ディスクの作成に要する時間が短くなる他、トラックイメージ作成の際に必要なハードディスクの空きスペースが不要となるなどのメリットがありますが、CPUやハードディスクの転送速度等、より高いマシンパワーが必要になるため、書き込むデータの容量やシステムの状態によっては、書き込みに失敗する場合があります。

ご利用の環境で実際にオンザフライ書き込みが可能か確認できるまでは、テスト書き込みを行うことをおすすめします。

かんたんバックアップ

かんたんバックアップは、アプリケーションやファイルをドロップエリアにドラッグするだけで、指定した条件に合致するファイルを検索し、その中から更新されたファイルだけをメディアにバックアップします。

さらに、指定した検索条件をデスクトップ上に保存できます。次回からはデスクトップに保存された検索ファイルのアイコンをダブルクリックするだけで、バックアップディスクの更新のための検索が実行できます。

また、バックアップを実行した日のフォルダにはどんなファイルがあったのか、どこまで文書は仕上がっていたのか、過去に遡っていつでも調べることができます。WinCDR上で、バックアップした日のデータをロードして、ダブルクリックするだけでファイルの内容が確かめられます。ファイルを壊してしまったときや、ハードディスクがクラッシュしたような場合でも元の文書ファイルや保存されていたフォルダを簡単に復元できます。

ファイルの種類の指定はこんなに簡単

アプリケーション指定では、例えば、いつも使っているワープロソフトを指定してそのワープロソフトが作り出す文書ファイルを検索する指定ができます。実際の指定は、デスクトップにあるワープロソフトのショートカットアイコンやスタートメニューのプログラムのところにあるワープロのアイコンなどをドロップエリア（ファイルの種類指定用エリア）にドラッグするだけです。ファイルの種類を指定するのも、アプリケーションと同様に、音楽ファイルをドロップエリアにドラッグするだけです。MP3とWAVEとAIFFなどの複数の種類のファイルをドラッグすれば、ハードディスク中の指定した3つの種類の音楽ファイルを検索する指定ができます。

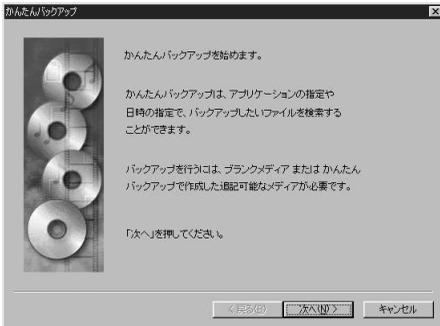
Note アプリケーションによっては、そのアプリケーションが作成したファイルを検索できない場合があります。

Note メディアには書き替えができませんが、トラックアットワンス形式でディスクに追記する方法でメディアの容量が許す限り、データ更新が可能です。

ワードパッドのファイルとWAVEファイルの2種類のファイルをバックアップする手順を例として説明します。

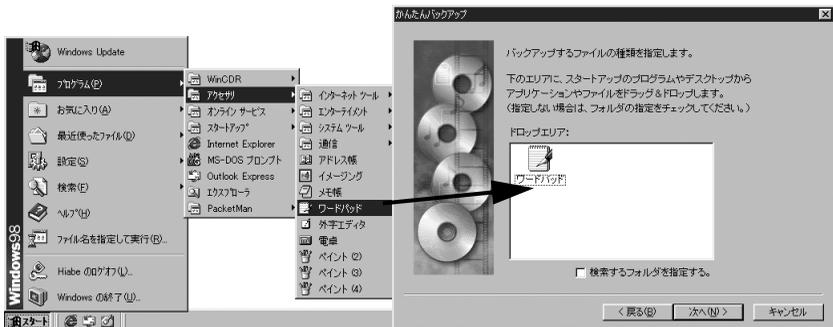
検索条件を設定する

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[かんたんバックアップ]ボタンをクリックします。
2. はじめの画面が出たら[次へ]ボタンをクリックします。



3. 検索条件を指定します。まず、バックアップしたいアプリケーション、データの種類を指定します。ここでは、Windows標準ワープロソフト[ワードパッド]を指定してみましょう。

Note 例では、[スタート]メニュー-[プログラム]-[アクセサリ]の[ワードパッド]のアイコンをドロップエリアにドラッグしています。



4. さらにファイルの指定を追加します。

ここではWAVEファイルを用意し、ドロップエリアにドラッグします。アプリケーション [ワードパッド] とWAVEファイルというファイルの種類が登録されました。



5. 次に検索するフォルダを指定します。[検索するフォルダを指定する] をチェックして [次へ] ボタンをクリックすると、フォルダ指定画面が表示されます。



Note 検索するフォルダを指定しないときは、[検索するフォルダを指定する] をチェックしないで [次へ] ボタンをクリックしてください。期間指定画面が表示されます。

Note 特定のフォルダを指定し、そのフォルダ内のファイルすべてを保存したい場合は、ファイルの種類を指定せず、検索フォルダのみ指定します。

6. 指定フォルダの右のフォルダアイコンをクリックすると [フォルダの参照] ダイアログが表示されます。検索したいフォルダを指定してください。ここでは、[My Documents] を指定し、[次へ] ボタンをクリックします。



Note 検索するフォルダは、複数指定することができます。

- 以上の指定により、[My Documents] フォルダ内のすべてのファイルから、[ワードパッド] で作成したファイルと、WAVEファイルが検索されることになります。
- 次に期間を指定します。かんたんバックアップでは、2 回目以降のバックアップの際、前回バックアップ時から更新されたファイルのみメディアに追記しますので、特別な場合を除き、期間の指定は必要ないでしょう。

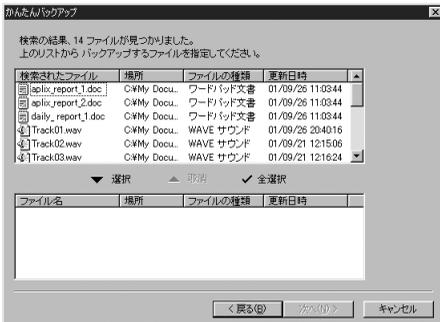


- [次へ] ボタンをクリックすると検索を開始します。

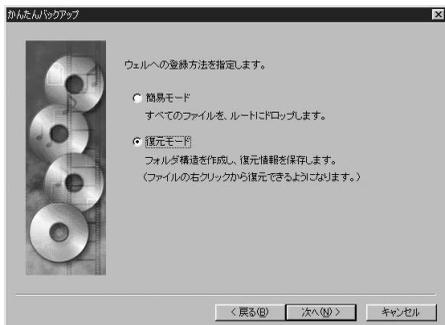
Note

検索できるファイルの数は1000個までです。検索条件にあてはまるファイル数が1000を超えた場合は、エラーメッセージが表示され、処理が中断します。検索条件をしばらく込んでください。

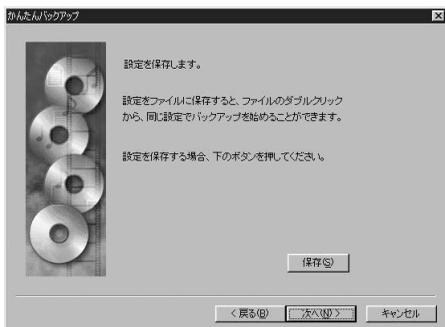
- ファイルの検索が終了すると、次のダイアログが表示されます。上のリストに表示されている検索されたファイルの一覧から必要なファイルを選択します。[全選択] をクリックするとすべてのファイルを選択することができます。



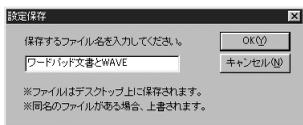
11. ウェルへの登録方法を選択します。[復元モード]、[簡易モード]からいずれかを選択して [次へ] ボタンをクリックします。ここでは、[復元モード]を選択しましょう。



12. これで、検索条件の設定は終了です。[保存] ボタンをクリックして検索条件をデスクトップに保存します。



13. 検索条件の設定を保存するファイルの名前を入力します。ここでは「ワードパッド文書とWAVE」と入力し [OK] ボタンをクリックします。



ワードパッド文書とWAVE...

[ワードパッド文書とWAVE] というファイルがデスクトップに作成されます。次回はこのファイルをダブルクリックすれば、登録した検索条件を実行することができます。

14. [次へ] ボタンをクリックします。

15. すべての検索条件の指定の手順が終わりました。[完了] ボタンをクリックします。

引き続き書き込み動作に入ります。

COLUMN

復元モードと簡易モード

復元モードでバックアップしたディスクには、ファイルと一緒に、ファイルが保存されていたドライブやフォルダの階層も記録されています。文書ファイルの入っていたフォルダは何月何日にはどういう状態だったのかいつでも好きなときに辿ることができます。また、復元機能を利用すればバックアップをした日と同じ状態にいつでも戻すことができます。

これに対して簡易モードでバックアップしたディスクにはファイルだけが記録されています。通常のISO 9660のCD-ROMとして扱われ、復元機能は利用できません。

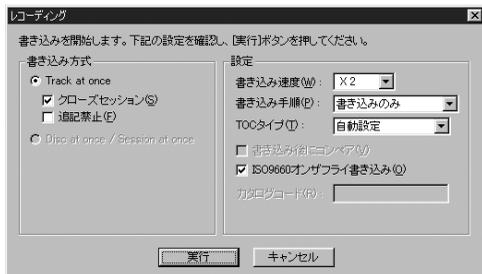
ビジネス用文書の保存のように長期にわたって利用し、その途中の状態をバックアップしておきたいような場合には復元モードを、ダウンロードしたファイルをまとめておきたいような場合には簡易モードをご利用になってはいかがでしょうか。

Note 簡易モードはすべてのファイルをメディアの同じ階層に書き込みます。バックアップ元のハードディスクの別々のフォルダに、同じ名前のファイルが存在する場合、いずれかのファイルが上書きされます。

書き込む

かんたんバックアップでは、検索が終了するとWinCDRのメインウィンドウが表示されます。

1. 「書き込み可能なメディアを挿入してください」というメッセージが表示されますので、メディアをレコーダに挿入し、[OK]をクリックしてください。
2. ウェルには、検索条件に合致したファイルが配置されています。
3. [書き込み] ボタンをクリックしてください。
4. [レコーディングパネル]が表示されますので、書き込み設定を行います。
[Track at once]と[クローズセッション]をチェックし[追記禁止]がクリアされていることを確認してください。



追記する

デスクトップ上の条件ファイルをダブルクリックすると、かんたんバックアップが起動します。検索するファイルの種類、フォルダ、期間、ウェルへの登録方法が再度表示されますので、前回と同じ条件のファイルを検索する場合はそのまま進んでください。必要に応じて、条件や設定を変更することもできます。

検索が終了するとメインウィンドウが表示されますので、レコーダにメディアを挿入してください。

Note 前回のバックアップ時に、クローズセッションしないで書き込みを行った場合、アラートが表示されます。

前回のバックアップ時から更新されたファイルがない場合、バックアップはされません。

復元モード：アラートが表示され、OKをクリックするとメインウィンドウに戻ります。

簡易モード：書き込みの動作に入りますが実際には書き込みません。ただし、クローズセッションをする設定になっていた場合、クローズセッションのみ行います。

CDに書き込む際のご注意

書き込もうとするデータ総量が、メディアの残り容量を超えないようにご注意ください。

更新の判断

かんたんバックアップでは、指定した条件（ファイルの種類、フォルダ）に合致したファイルのみバックアップの対象となります。

さらに、追記の場合は、前回バックアップ時から更新されたファイルのみがバックアップされません。これは、メディアに書き込まれている情報をもとに、書き込もうとしているファイルが更新されたかどうかを判断しているためです。したがって、前回のバックアップに使用したメディアと異なるメディアを使用した場合は、更新の有無に関わらず、検索条件に合致したすべてのファイルが書き込まれます。

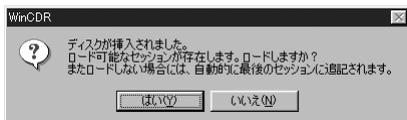
利用する

かんたんバックアップでは、保存の方法（復元モードと簡易モード）により、ファイルの利用方法が異なります。

復元モードで保存したファイルの復元

復元モードで保存した場合、ファイルとともに、元のフォルダの位置も保存しています。復元すると、ハードディスクに、フォルダごと復元します。

1. メインウィンドウが表示されている状態で、かんたんバックアップしたメディアをレコーダにセットします。
2. [ディスクが挿入されました]というメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。



3. [セッション選択]ダイアログが表示されます。[読み込む]ボタンをクリックすると、ウェルに、ディスクにバックアップした内容がロードされます。



4. ウェル上で、復元したいフォルダを右クリックし、[復元] を選択します。



Note 復元モードでバックアップし復元したファイルは、元のファイルの属性を維持しています。ISO 9660での保存のように、自動的に [読み取り専用属性] になることはありません。

簡易モードで保存したファイルの復元

簡易モードで保存した場合は、ISO 9660形式として書き込まれています。ファイルの利用については、p.95 「追記する (CD-R/CD-RW/DVD+RWのみ)」を参照してください。

ドライブバックアップ

ハードディスクのデータを、イメージファイルとして丸ごとメディアに保存します。1枚のメディアに納まらない場合は（イメージを分割して）複数のメディアに書き込みますので、メディアの容量を超えたドライブのバックアップも可能です。

バックアップ元のドライブに異常が発生した場合に、メディアから復元することにより、バックアップ作成時の状態に戻すことができます。

Note システムがインストールされているドライブをバックアップすることを、「システムバックアップ」と呼んでいます。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のアプリケーションは終了していますか？

必要なもの

- フロッピーディスク 1枚
Windows 98/Me環境の場合は、システムバックアップ時のみ必要
- メディア数枚（ハードディスクの使用容量と同程度）
- イメージファイル作成のための作業領域（作業用ドライブ）

ドライブバックアップを実行する際の重要事項

- ・ DOSシステムの起動が可能なフロッピーディスクドライブが必要です。
- ・ バックアップイメージを保存する作業用ドライブが必要です。
- ・ 記録メディアの読み込みに対応したPC内蔵（ 1 ）のCD/DVDドライブが必要です（ 2 ）。

作業領域として使用するドライブの制限事項

作業用ドライブは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ バックアップするドライブ（パーティション）とは別のドライブ（パーティション）が必要です。
- ・ バックアップするドライブ（パーティション）のデータ容量と、同等以上の空き容量が必要です。
- ・ FAT16、FAT32でフォーマットされている必要があります。NTFSフォーマットを含む別フォーマットのドライブ（パーティション）を利用することはできません。

Note バックアップ元のドライブ（パーティション）は、NTFSフォーマットでもバックアップ可能です。

ドライブバックアップ実行時のご注意

- あらかじめスキャンディスクを実行し、ハードディスクにエラーがある場合、修復を行ってください。
- ドライブバックアップ実行時には、WinCDR以外のアプリケーションは実行しないでください。まずWindowsのスタートアップで自動的に起動するアプリケーションをすべて終了したのち、WinCDRを起動してください。
- ハードディスクの復元に失敗しシステムが起動しない場合、ファイルにアクセスできなくなることがあります。重要なデータはあらかじめ別のメディアにバックアップすることを推奨します。
- バックアップを作成したときと環境が異なる場合、ドライブバックアップの復元は正常に終了しても、コンピュータが正常に動作しない可能性があります。復元を行う際には、必ずバックアップ作成時と同じ環境で、バックアップ作成時のハードディスクに行ってください。

Note ハードディスクの交換などにシステムバックアップを利用した場合、稀に、正常に復元できない場合があります。あらかじめご了承のうえ、お客様の責任において行ってください。

バックアップ元および作業用ドライブの注意点

- 「ドライブ」は、ハードディスクドライブを指します。リムーバブルドライブなど、ハードディスク以外のドライブを利用することはできません。
- 1台のハードディスクドライブに作成したパーティションは、それぞれ独立したドライブとして扱うことが可能です。ただし、FDISKなど、OS標準のツールを使用してパーティションを作成した場合に限ります。サードパーティ製のツールなどでパーティションを作成したハードディスクドライブは使用できません。
- ツールなどにより、ハードディスク内に作成した仮想ドライブは、利用できません。
- 1台のハードディスク内に存在する1ドライブのバックアップのみ作成可能です。それ以外の特殊なハードディスク環境には対応していません。
- PC標準搭載以外の拡張カードに接続されたハードディスクは、利用できない場合があります。

Windows 2000/XP/NTでのドライブバックアップの制限事項

- Windows 2000/XPのダイナミックディスクには対応していません。
- PC内蔵(1)以外のハードディスクは利用できません(3)

- 1 「PC内蔵」とは、ここではPC標準搭載のIDE/ATAPIインタフェースに接続されていることを指します。
- 2 PC内蔵以外のCD/DVDドライブから復元する場合、一部のSCSI接続(4)の場合を除き、復元に使用するCD/DVDドライブをDOSに認識させるために、起動フロッピーディスクにDOSドライバを追加する作業をお客様自身で行う必要があります。ドライブの追加に関しては、ご使用の製品のマニュアルをお読みください。DOSドライバが存在しないなどCD/DVDドライブがDOSに対応していない場合、また、ドライブの組み込み設定が正しく行われずCD/DVDドライブがDOSに認識されない場合、復元に利用することはできません。
- 3 PC内蔵以外のハードディスクを作業用ドライブとして利用する場合、拡張BIOSを搭載した一部のSCSIカード接続でドライバなしにDOSシステム上から認識できる場合を除き、使用するハードディスクをDOSに認識させるために、起動フロッピーディスクにDOSドライバを追加する作業をお客様自身で実施する必要があります。ドライブの追加に関しては、ご使用の製品のマニュアルをお読みください。DOSドライバが存在しないなどハードディスクドライブがDOSに対応していない場合、また、ドライブの組み込み設定が正しく行われずハードディスクドライブがDOSに認識されない場合、利用することはできません。
- 4 MELCO社製SCSIカードIFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP/IFC-NSP、Windows98/Me環境で起動ディスクをそれぞれのOSのインストールCDを使用して作成した場合、Windows98/Meのインストール時に利用可能なAdaptec社製、Mylex(Buslogic)社製のSCSIカードも利用可能です。

ドライブバックアップの操作

ドライブバックアップ用起動ディスクの作成方法は、OSにより異なります。

「Windows98」, 「Windows Me」, 「Windows2000/XP/NT」に分けて説明します。

Note 起動ディスクは、Windowsがインストールされているドライブをバックアップするとき
に必要です。通常、ドライブバックアップを実行する前の準備として、Cドライブをバック
アップする前に作成します。

- Windows 98/Meでは、システムがインストールされていないドライブをバックアップする
場合、起動ディスクは必要ありません。次項「バックアップの設定を行う」にお進みください。
Windows 2000/XP/NTでは、システムがインストールされていないドライブをバックアッ
プする場合にも、復元の際、必ず起動ディスクが必要です。ドライブバックアップを行う際は、
毎回起動ディスクを作成してください。

起動ディスクを作成する - Windows 98

1. [スタート] メニューから、[プログラム] - [WinCDR] - [起動ディスク作成] を選択します。
2. MS-DOSのウィンドウが開きます。「ドライブバックアップ用起動ディスクを作成します」というメッセージが表示されます。フォーマット済みのフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブに挿入します。
3. [Enter] キーを押して、フロッピーディスクのフォーマットを実行します。
4. フォーマットが終了すると、「別のディスクをフォーマットしますか？ (Y/N)」のメッセージが表示されます。[N] キーを押した後、[Enter] キーを押します。
5. 「Windows 98のCD-ROMを使用しますか？ 使用する(Y)、使用しない(N)」と表示されます。Windows 98のCD-ROMがある場合は、「使用する」を選択します。

「使用する」を選択した場合

 - ・ 「ブートするCD-ROMドライブを選択してください。」と表示されます。メッセージにしたがって選択してください。

「両方」を選択した場合、ATAPI CD-ROMドライブと下記のSCSIカード用ドライブがインストールされます。もしATAPI/SCSIドライブを両方ご使用の場合、ブート時にはATAPIドライブが有効になりますのでご注意ください。
 - ・ Windows システムの cab ファイルがハードディスクにインストールされていない場合、Windows 98のCD-ROMが要求されます。指示にしたがって、CD-ROMを挿入してください。CD-ROMを挿入してもcabファイルが見つからない場合は、Windows 98のCD-ROMを「使用しない」を選択してください。
6. 「起動ディスクの作成が終了しました」と表示され、処理が完了します。クローズボタンを押して、ウィンドウをクローズします。

起動ディスクがサポートしているデバイスは、以下のとおりです。

- ・ ATAPI CD-ROM ドライブ
- ・ Melco社製SCSIカード IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP/IFC-NSP
- ・ Windows 98の起動ディスクが対応している、Adaptec社製、Mylex (Buslogic) 社製SCSIカード
(Windows 98のCD-ROMを使用して起動ディスクを作成した場合に限ります)

Note 未対応のSCSIカードや、PCカードのCD-ROMドライブをご使用の場合、別途SCSIカード用DOSドライバを起動ディスクに追加する必要があります。ドライバの追加に関しては、ご使用の製品のマニュアルをお読みください。

Note PCカードのCD-ROMを採用するノートブックコンピュータの場合、PCカードがMS-DOSに対応していない場合があります。その場合、システムドライブのバックアップはご利用になれません。

起動ディスクを作成する - Windows Me

1. まず、Windowsの起動ディスク作成機能を使って起動ディスクを作成します。
2. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入してください。
3. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を起動します。
4. [起動ディスク]タブをクリックし、[ディスクの作成]ボタンをクリックすると起動ディスクの作成が始まります。
5. 次に、[スタート]メニューから[プログラム][WinCDR][起動ディスク作成]を選択します。
6. 「ドライブバックアップ用起動ディスクを作成します ...」というメッセージが表示されます。作成した起動ディスクを、フロッピーディスクドライブに挿入し、[Enter]キーを押します。
7. 「ブートに使用する CD-ROM ドライブを選択してください」と表示されます。メッセージにしたがって選択してください。

Note ATAPI/SCSIドライブを両方ご使用の場合、ブート時にはATAPIドライブが有効になりますのでご注意ください。
8. 「起動ディスクの作成が終了しました」と表示され、処理が完了します。

起動ディスクがサポートしているデバイスは、以下のとおりです。

- ・ ATAPI CD-ROMドライブ
- ・ Melco社製 SCSIカード IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP/IFC-NSP
- ・ Windows Meの起動ディスクが対応している、Adaptec社製、Mylex (Buslogic) 社製 SCSIカード
(Windows MeのCD-ROMを使用して起動ディスクを作成した場合に限ります)

Note 未対応のSCSIカードや、PCカードのCD-ROMドライブをご使用の場合、別途SCSIカード用DOSドライバを起動ディスクに追加する必要があります。ドライバの追加に関しては、ご使用の製品のマニュアルをお読みください。

Note PCカードのCD-ROMを採用するノートブックコンピュータの場合、PCカードがMS-DOSに対応していない場合があります。その場合、システムドライブのバックアップはご利用になれません。

起動ディスクを作成する Windows 2000/XP/NT

1. [スタート] メニューから、[プログラム] - [WinCDR] - [起動ディスク作成] を選択します。
2. [ドライブバックアップ用起動ディスク作成ツール] ダイアログが表示されます。いずれかを選択します。
Windows NT/2000/XP用起動ディスク
Windows NT/2000/XP用起動ディスク (ドライバ無し)
3. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して [開始] ボタンをクリックします。
4. [無事終了しました] というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
5. 再び [ドライブバックアップ用起動ディスク作成ツール] ダイアログが表示されますので、[終了] ボタンをクリックします。

「Windows NT/2000/XP用起動ディスク」がサポートしているデバイスは、以下のとおりです。

- ・ ATAPI CD-ROM ドライブ
- ・ Melco社製SCSIカード IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP/IFC-NSP

Note 未対応のSCSIカードや、PCカードのCD-ROMドライブをご使用の場合、別途SCSIカード用DOSドライバを起動ディスクに追加する必要があります。ドライバの追加に関しては、ご使用の製品のマニュアルをお読みください。

Note PCカードのCD-ROMを採用するノートブックコンピュータの場合、PCカードがMS-DOSに対応していない場合があります。その場合、システムドライブのバックアップはご利用になれません。

バックアップの設定を行う

1. WinCDRの[ランチャタブ]の[ツール]から[ドライブバックアップ]ボタンを選択します。
2. オープニング画面で、これから必要なものが表示されます。「次へ」をクリックしてください。
3. バックアップするドライブと、作業フォルダとなるドライブを選択します。作業フォルダはバックアップするドライブとは別のドライブ(パーティション)を選択し、[次へ]をクリックします。

Note 作業フォルダは、バックアップするドライブの使用領域以上の空き容量が必要です。FAT16およびFAT32でフォーマットされたドライブでないと選択できません。
4. イメージ作成オプションを設定します。設定が終了したら[次へ]をクリックします。

圧縮率

イメージファイルをメディアに保存する場合の圧縮率のことです。高圧縮率を選択した場合にはメディアの枚数を軽減することができますが、復元する際に解凍する時間は長くなります。逆に低圧縮を選択するとメディアの枚数は多くなりますが、復元の際、解凍時間を短くすることができます。

メディア

ご使用になれるメディアを選択します。

イメージファイル名

イメージファイルの名前を設定することができます。とくに変更する必要はありません。

高度な設定

システムバックアップで、システムのドライブがFAT16の場合のみ表示されます。WindowsNTでは選択できません。

復元する際、FAT16ではなくFAT32に変換して復元します。

デフォルト

設定を初期状態に戻します。

5. 書き込みの設定をし、[次へ]をクリックします。
6. 設定内容が表示されます。内容を確認して[完了]をクリックします。

メディアに書き込む - Windows 98/Me

1. システムバックアップの場合は、「ドライブバックアップ用の起動ディスクをフロッピードライブに入れてください」というメッセージが表示されます。起動ディスクをドライブに入れ、[OK]をクリックしてください。
2. Ghost の画面に切り替わり、バックアップイメージファイルがハードディスクに作成されず。
3. イメージファイル作成が終了するとWinCDRに戻り、バックアップイメージがメディアに書き込まれます。指示にしたがってメディアを挿入してください。
4. バックアップが終了します。

Note システムバックアップで使用したドライブバックアップ用の起動ディスクは、復元の際、CD/DVDからシステムを起動できない場合などに必要になります。また、作成したバックアップイメージと整合性がないと機能しません。必ず、バックアップしたCD/DVDと一緒に保管してください。

メディアに書き込む - Windows 2000/XP/NT

1. 「ドライブバックアップ用の起動ディスクをフロッピードライブに入れてください」というメッセージが表示されます。起動ディスクをドライブに入れ、[OK]をクリックしてください。
2. コンピュータが再起動します。PC-DOSからGhostが起動します。

Note システムが、フロッピーディスクドライブから起動可能な状態が必要です。

3. イメージファイルの作成が終了したら、次のメッセージが表示されます。手動でコンピュータを再起動してください。

```
Dump process completed.  
Eject your Floppy.  
Please reboot computer.
```

Note フロッピーディスクドライブから起動ディスクを抜いてください。

4. Windowsが起動したら、WinCDRを、再度、起動してください。
5. WinCDRが起動すると、バックアップイメージがメディアに書き込まれます。指示にしたがってメディアを挿入してください。
6. バックアップが終了します。

Note システムバックアップで使用したドライブバックアップ用の起動ディスクは、復元の際、CD/DVDからシステムを起動できない場合などに必要になります。また、作成したバックアップイメージと整合性がないと機能しません。必ず、バックアップしたCD/DVDと一緒に保管してください。

ドライブの復元

ドライブの復元は、システムを含むか含まないかによって復元方法が異なります。

ここでは、システムがインストールされていないドライブを復元する方法を説明します。

Note Windows2000/XP/NTのドライブの復元方法は、システムを含まないバックアップの場合もシステムバックアップと同じです。次項の「ドライブの復元」を参照してください。

チェック

- WinCDR以外のアプリケーションは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？

必要なもの

- 復元元となるイメージファイルを保存したメディア
- 復元先となるハードディスク（パーティション）

復元先のドライブのファイルはすべて削除されます。大切なデータがないか、あらかじめご確認ください。

復元先のドライブの空き容量が不足していないか確認してください。

システムがインストールされていないドライブの復元

1. イメージファイルを保存したメディアをCD-ROM/DVD-ROMドライブに挿入します。
2. WinCDRの [ランチャタブ] から [ツール] の [ドライブの復元] を選択します。
3. オープニング画面が表示されますので、[次へ] をクリックします。
4. 復元元イメージファイルの指定と、復元先を設定します。
復元元のイメージファイル：フォルダのアイコンをクリックしてCD-ROM/DVD-ROMドライブを選択し、.ghoの拡張子がついたイメージファイルを選択します。
Note イメージを保存したメディアを、WinCDRで選択したレコーダに挿入している場合、エラーメッセージが表示され次へ進むことができません。詳しくはp.251「ドライブバックアップに関するトラブル」を参照してください。
復元先のドライブ：システムがインストールされていないドライブを選択します。
復元元と復元先の設定が終了したら、[次へ] をクリックします。
5. [完了] をクリックするとドライブの復元が始まります。メディアが複数の場合は、指示にしたがってメディアを入れ替えてください。
Note 復元先のファイルはすべて削除されます。
Note 復元先のドライブの空き容量が不足している場合は、復元作業は完了しません。
Note 復元作業中は、ウィンドウを切り替えしないでください。
6. 復元が終了後、コンピュータを再起動してください。再起動後、ドライブが正常に認識されれば、復元作業は完了です。

ドライブの復元

システムがインストールされているドライブをバックアップし、それを復元する場合は、システムをCD-ROM/DVD-ROMから起動してから復元を行います。

Note Windows 2000/XP/NTのドライブの復元方法は、システムを含まないバックアップの場合もシステムバックアップと同じです。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のアプリケーションは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切ってありますか？

必要なもの

- ドライブバックアップ用起動ディスク
バックアップイメージを作成したときに使用した起動ディスクが必要です。
- 復元元となるイメージファイルを保存したメディア
- 復元先となるハードディスク（パーティション）
復元先のドライブのファイルはすべて削除されます。大切なデータがないか、あらかじめご確認ください。
復元先のドライブの空き容量が不足していないか確認してください。

システムがインストールされているドライブの復元

1. CD-ROM/DVD-ROM ドライブからシステムを起動します。起動ドライブの変更に関するシステムのBIOSの設定方法は、ご使用のシステムのマニュアルをご覧ください。
Note CD-ROM/DVD-ROM ドライブから起動しない場合、ドライブバックアップ用の起動ディスク（フロッピーディスク）を使用してください。
2. 設定後、システムバックアップで作成したCD/DVDの1枚目をCD-ROM/DVD-ROMドライブに挿入し、コンピュータを起動します。
3. 起動後、復元作業のメニューが表示されます。

```
Microsoft Windows 98 Startup Menu
```

```
-----  
1.Test and Restore  
2.Test only  
3.Restore only
```

```
Enter a choice: 1
```

1.Test and Restore

イメージをテストしてから、復元を行います。ドライブバックアップ後、テストを1回も行ったことがなくて復元する場合は、必ず選択してください。

2.Test only

イメージが正しく書き込まれているかテストします。

通常、ドライブバックアップをしてもすぐに復元は行いません。テストのみ行っておけば、復元が可能か、あらかじめ確認しておくことができます。

3.Restore only

テストせず復元を行います。すでにテストを行っている場合に選択します。

Note メニューを選択せずに数秒間放置した場合、自動的に「1.Test and Restore」が選択されます。

注1

☛ [1.Test and Restore] を選択した場合、次の手順**4.**にお進みください。

☛ [3.Restore only] を選択した場合、手順**6.**にお進みください。

4. NORTON Ghostが起動し、バックアップイメージの読み出しテストが始まります。

CD/DVDが複数枚ある場合は次のメッセージが表示されます。メディアを入れ替えてください。

```
insert next media and press enter to continue...
```

5. 読み出しテストが正常に終了すると次のメッセージが表示されます。1枚目のディスクを挿入して何かキーを押してください。

```
Testing finished successfully!
Insert No.1 disc.

Start restore your system.
Press any key to continue...
```

注2

6. NORTON Ghostが起動しイメージファイルがHDDに復元されます。

CD/DVDが複数枚ある場合は次のメッセージが表示されます。メディアを入れ替えてください。

```
insert next media and press enter to continue...
```

Note バックアップCD/DVDが2枚以上あり、CD/DVDからシステムを起動している場合、自動的にリストアが始まらず、次のメッセージが表示されることがあります。こ

の場合は、コンピュータを再起動し[3. Restore only]を選択してリストアを開始してください。

```
Please reboot computer and  
Select "Restore only" mode.
```

7. NORTON Ghostが終了し、復元作業が完了します。

```
Process completed.  
Eject your CD and Floppy.  
Plases reboot computer.
```

CD/DVDと起動ディスク（使用している場合）をイジェクトした後、システムを再起動してください。

注1 選択後、以下のメッセージが表示される場合、
CDR101: Not ready reading drive Q
Abort, Retry, Fail?

CD/DVDをイジェクトして、作業を中止してください。正しいCD/DVDが挿入されていないか、またはCD-ROM/DVD-ROMドライブが正しく認識されない可能性があります。対処方法は p.251「ドライブバックアップに関するトラブル」をご覧ください。

注2：読み出しテストが正常に終了しない場合、
復元作業は中断します。対処方法は p.251「ドライブバックアップに関するトラブル」をご覧ください。

第5部

DVDを作る

WinGDR[®]7.0

DVD作成の前に - 素材の準備

DVD-Video、Video CD、JukeboxDVD、フォトアルバムを作成する前に、次の形式のデータをご用意ください。

Media Encoder

Media Encoderがサポートしているムービーファイルの仕様は、以下のとおりです。

エンコード元のムービーファイル (AVI、MPEG1、MPEG2)

AVI 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 圧縮Codec：Direct Xで利用できるデコーダが必要
- ・ 音声方式：16bit ステレオ

Note 参照型AVIファイルには対応していません。

MPEG1 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

MPEG2 形式

- ・ 解像度：720x480 / 704x480 / 640x480 / 352x480 / 352x240
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

編集・連結するムービーファイル (AVI、MPEG1)

AVI 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 圧縮Codec：Direct Xで利用できるデコーダが必要
- ・ 音声方式：16bit ステレオ

Note 参照型AVIファイルには対応していません。

MPEG1 形式

- ・ 解像度：制限無し
 - ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ
- MPEG2ファイルを編集、連結することはできません。

Media Encoderが対応するビットレート

- MPEG2 : 720x480 9.00Mbps ~ 5.00Mbps
- 704x480 9.00Mbps ~ 5.00Mbps
- 352x480 6.00Mbps ~ 4.00Mbps
- 352x240 6.00Mbps ~ 2.00Mbps
- MPEG1 : 352x240 1.15Mbps

Media Encoder の制限事項

MPEG2の映像ソースからエンコードする場合の制限

- 編集機能は利用できません。
- MPEG2の解像度を変更する場合は704x480/352x480のみ利用が可能です。基本的には入力された解像度が出力されます。
- アスペクト比がシネマサイズのムービーはエンコードできません。
- 音声フォーマットがMPEG1 AUDIO Layer-II以外のフォーマットには対応しません。

無圧縮のAVI映像ソースからエンコードする場合の制限

- 編集機能は利用できません。

音声ストリームの無いAVI/MPEG1/MPEG2ファイルからエンコードする場合の制限

- 音声ストリームの無いムービーはエンコードできません。

VBRに関する制限

- VBRはMPEG1では利用できません。

エンコード後のMPEGファイルの最大サイズ

制限はありません。作成可能なMPEGファイルの最大サイズはOSのファイルシステムに依存します。

Authoring Tool

ムービー

MPEG2 (DVD-Video、miniDVDで使用)

Media Encoderでエンコードしたファイルを使用してください。

Media Encoderは、Authoring Toolがサポートする以下の仕様のMPEG2ファイルをエンコードすることが可能です。

GOP構成	IBBP
最大GOPサイズ	36フィールド/18フレーム (NTSC)
フレームサイズ	720 × 480、704 × 480、 352 × 480、352 × 240
フレームレート	29.97Hz (NTSC)
アスペクト比	4 : 3、16 : 9
ビットレート : 定数ビットレート (CBR)	リニアPCM : 2.0 - 8.0 Mbps MP2 : 2.0 - 9.0 Mbps
ビットレート : 可変ビットレート (VBR)	リニアPCM : 最大ビットレート 8.0 Mbps MP2 : 最大ビットレート 9.0 Mbps

MPEG1 (Video CD 1.0/2.0で使用)

Media Encoderでエンコードしたファイルを使用してください。

Authoring ToolがサポートしているVideo CD作成のためのMPEG1ファイルの仕様は以下のとおりです。

規格	水平画素数	バックサイズ	方式	画像サイズ (横 × 縦)	フレームレート
MPEG1 準拠	352ピクセル	2324バイト	NTSC	352 × 240	29.97Hz
			FILM	352 × 240	23.976Hz

「画像サイズ」は縦の数値だけで「ライン数」または「ライン」と表現されている場合もあります。

画像

BMP、JPEG (背景画 : DVD-Video、miniDVD、VideoCD 2.0で使用)

BMP、JPEG (フォトアルバムで使用)

オーディオデータ

WAVE、MP3 (JukeboxDVDで使用)

メディア

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW (DVD-Video、Jukebox DVDで使用)

CD-R、CD-RW (miniDVD、Video CD 1.0/2.0、フォトアルバムで使用)

Media Encoder

VideoCDを作成する場合にはMPEG1、DVD-Videoを作成する場合にはMPEG2と、作成するディスクの種類によって必要なムービーのフォーマットは異なります。

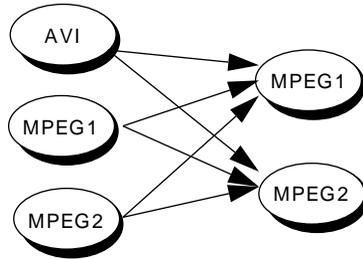
Media EncoderではAVI形式のムービーファイルからエンコードするフォーマットを選択するだけで、手軽にMPEG1/MPEG2のムービーが作成できます。また、MPEG2とMPEG1の相互コンバート機能 / AVI、MPEG1のムービー連結エンコード機能、ムービー編集機能 / MPEG2からMPEG2へのフォーマットコンバート機能など、VideoCDやDVD-Videoの素材作成に必要な機能を満載してオリジナルビデオディスクの作成を強力にバックアップします。

Note WinCDR7.0 SEは、Media Encoderのすべての機能はお使いになれません。
AVIからMPEG1へのエンコード、AVIとMPEG1の編集・連結機能のみご使用になれません。

Note この機能は、Windows NT 4.0ではご使用になれません。

エンコード機能

それぞれのフォーマットからMPEG1/MPEG2ファイルにエンコードできます。出力されるファイルは、設定画面で設定したフォーマット・解像度になります。



編集・連結機能

AVI、MPEG1ファイルを編集できます。

AVI+AVI、MPEG1+MPEG1、AVI+MPEG1など、異なったフォーマットおしでも結合可能です。出力されるファイルは、設定画面で設定したフォーマット・解像度になります。

MPEG2ファイルは、編集・連結はできません。

MPEG2ファイルを編集する場合は、MPEG Movie Editorを使用してください。

詳しくはp.143 「シーンのカット」を参照してください。

ムービーのエンコード

それぞれのフォーマットからMPEG1/MPEG2ファイルにエンコードできます。出力されるファイルは、設定画面で設定したフォーマット・解像度になります。

Note WinCDR7.0 SEでは、AVIからMPEG1へのエンコード、MPEG1からMPEG1へのエンコード機能のみご使用になれます。

必要なもの

□ ムービーファイル (AVI、MPEG1、MPEG2)

Media Encoderがサポートしているムービーファイルの仕様は、以下のとおりです。

AVI形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 圧縮Codec：Direct Xで利用できるデコーダが必要
- ・ 音声方式：16bit ステレオ

Note 参照型AVIファイルには対応しておりません。

MPEG1形式

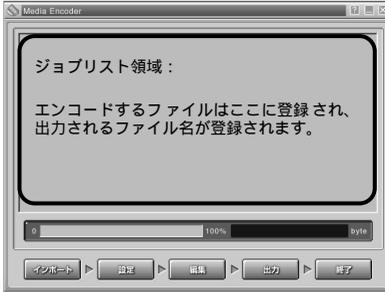
- ・ 解像度：制限無し
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

MPEG2形式

- ・ 解像度：720x480 / 704x480 / 640x480 / 352x480 / 352x240
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

ムービーをエンコードする

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[MPEGのエンコード]ボタンをクリックし、Media Encoderを起動します。



インポート：

[開く]ダイアログが表示され、エンコードするムービーファイルを選択してジョブリストに登録することができます。

設定：

設定画面を表示します。出力するファイルのフォーマット (MPEG2/MPEG1) や解像度などを設定します。

編集：

エディットウィンドウを表示します。ムービーの編集や連結を行うときに使用します。

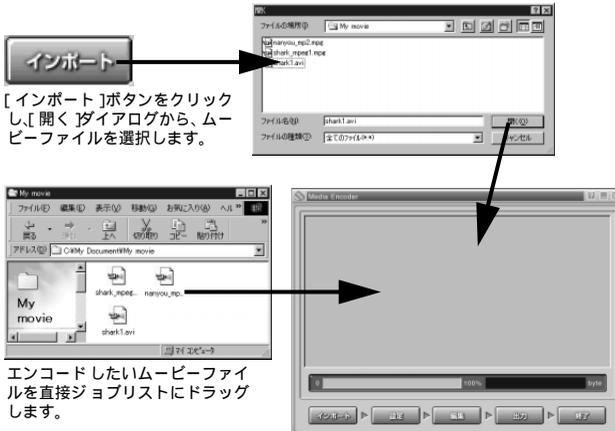
出力：

ジョブリストに登録されているムービーを、設定に従って、順にエンコードします。

終了：

Media Encoderを終了します。

2. エンコードするファイルを登録します。[インポート]ボタンを押して、[開く]ダイアログからエンコードするムービーファイルを選択するか、WindowsのエクスプローラからMedia Encoderのジョブリスト領域にファイルを直接ドラッグします。ジョブリストに登録するファイルが複数ある場合は、同様にすべてのファイルを登録します。



[インポート]ボタンをクリックし、[開く]ダイアログから、ムービーファイルを選択します。

エンコードしたいムービーファイルを直接ジョブリストにドラッグします。

登録したムービーは、[delete]ボタンでジョブリストから削除することができます。ハードディスクのムービーは削除されません。

3. 設定を行うファイルをクリックして選択し、[設定] ボタンをクリックします。設定画面が表示されますので、出力するファイルのフォーマット、解像度など必要な設定を行います。

出力ファイル名称：
エンコード後のムービーの出力先とファイル名です。
デフォルトでは、入力ファイルと同じフォルダに「~」付きのファイルとして出力されます。

入力ファイル名称：
現在設定を行っているムービーのソースファイル名が表示されます。

変更：
ムービーの出力先フォルダを指定します。
指定しない場合は、変換元のファイルと同じフォルダに出力されます。

ビットレート：
出力するムービーのビットレートを設定します。
ビットレートを大きく設定するとエンコードされたムービーのファイルサイズは増大しますが、画質は向上します。

出力アスペクト比：
出力アスペクト比を指定します。「16 : 9」を指定して DVD に書き込むと再生時に「16 : 9」のアスペクト比で表示されます。
コンピュータのデコーダによっては、「4 : 3」で表示される場合があります。

画質：
出力するムービーのエンコード時の画質と速度のレベルを設定します。時間を短縮したい場合は速度優先、時間はかかっても画質を重視する場合は画質優先に設定します。

フィールドオーダーを反転する：
作成したDVD-Videoを再生したときに、画像がぶれるような場合は、チェックをしてフィールドオーダーを反転してエンコードしてみてください。

VBRを使用する：
MPEG2 ムービーをVBR (可変ビットレート) で出力します。
出力ファイルがMPEG1の場合は機能しません。
SSE 命令をサポートしていないCPUでは、VBRは使用できません。

フォーマット・解像度 / 入力アスペクト比

[フォーマット・解像度] で出力するムービーのフォーマット (MPEG2/MPEG1) と解像度を指定します。ソースムービーと出力ムービーの解像度の指定が同じ場合は、[入力アスペクト比] でそれを指定しても結果は同じになります。異なる場合は、用途に合わせて選択してください。

出力解像度に合わせてアスペクトを伸縮：出力解像度に合わせて、元のムービーに比べて、出力後のムービーの縦横比は変わります。

入力ソースの解像度で固定：入力ソースの解像度を維持します。ムービーは中心を基準として配置されます。出力解像度が入力ソースの解像度より大きい場合上下左右の余白部分は黒で埋められます。出力解像度が入力ソースより小さい場合表示しきれない部分は切り捨てられます。アスペクトを固定して黒枠を追加：入力ソースのアスペクト比は変更しません。出力ムービーの上下または左右の余白部分は黒で埋められます。

アスペクト比を固定して端を切り捨て：入力ソースのアスペクト比は変更しません。出力ムービーの表示しきれない部分は切り捨てられます。

Note エンコードには時間がかかります。

Note DVD-Videoを作成する場合、使用するMPEG2ファイルのフレームサイズは、DVDの規格により、すべて同一である必要があります。フレームサイズを統一するには、[フォーマット・解像度] と [ビットレート] を同じ設定にしてください。

4. 設定が終わったら、[決定] ボタンをクリックしてメインウィンドウに戻ります。他のムービーも、同様に設定します。
5. エンコードするファイルの登録、設定が終わったら、[出力] ボタンをクリックしてください。エンコードが始まります。

Note エンコードには時間がかかります。

COLUMN

MPEG2の画質とビットレートの関係

高画質なMPEG2を作成しようと[画質]を高画質に設定した場合、ムービーのエンコードに非常に時間がかかります。また、ビットレートの設定を上げることによってさらに高画質にエンコードすることが可能であり、画質最優先のムービーを作成する場合は[画質]を[画質優先][ビットレート]を[9.00Mbps]と設定すると良いでしょう。

では「時間をかけずに高画質にエンコードしたい」場合や「高画質でサイズをなるべく小さくエンコードしたい」場合の設定はどうでしょう？

「時間をかけずに高画質にエンコードしたい」場合、[画質]を[速度優先]に設定して[ビットレート]を[9.00Mbps]とするとエンコード時間も短縮され、ある程度高画質にエンコードすることが可能ですが、画質の割にムービーサイズが大きくなります。

「高画質でサイズをなるべく小さくエンコードしたい」場合は、[画質]を[画質優先]に設定して[ビットレート]を[5.00Mbps]にすると、エンコードに時間はかかりますが、比較的高画質でサイズを小さくエンコードすることが可能となるため、DVDメディアに長時間ムービーを書き込みたい場合に有効です。

9.00MbpsでエンコードしたムービーはDVD-Rに約60分、5.00Mbpsの場合は約120分の記録が可能です。

作成したいDVDの用途や時間によって使い分けると良いでしょう。

Note Authoring ToolがサポートするMPEG2のビットレートは、リニアPCM出力の場合最大8.00Mbpsです。

COLUMN

「VBR」とは？

VBRとは可変ビットレート(Variable Bit Rate)の略語です。

通常のCBRは固定ビットレート(Constant Bit Rate)が動画のデータ転送量を常に一定に保って記録するのに対して、VBRでは、動きの大きい場面などデータ転送量が必要な場合にはビットレートを大きく記録し、動きが小さくデータ転送量が比較的少ない場合にはビットレートを落として記録することにより、画質をなるべく確保したままでデータの転送量を低く抑えることが可能です。Media EncoderでVBRをセットした場合、出力されるムービーのサイズはCBRの約半分になります。

長時間ムービーを記録する場合に有効です。

MPEG2の再エンコード

市販のTVチューナーボードやMPEG2キャプチャカードが作成するMPEG2ファイルの中には、音声のサンプリングレートやMPEG2のGOPの設定の関係で、そのままではDVD-Videoを作成する映像ソースとして利用できない場合があります。

このようなDVD-Videoに準拠していないMPEG2ファイルでも、Media EncoderでMPEG2へ再エンコードすることにより、DVD-Videoに準拠するMPEG2へとコンバートすることが可能です。

Note この機能は、WinCDR7.0 SEではお使いになれません。

Note 再エンコードとなるため画質が若干劣化しますので、画質優先でエンコードすることをお勧めします。

Media Encoderがサポートしているムービーファイルの仕様は、以下のとおりです。

MPEG2 形式

- ・ 解像度：720x480 / 704x480 / 640x480 / 352x480 / 352x240
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

Media Encoder の制限事項

MPEG2の映像ソースからエンコードする場合の制限

- 編集機能は利用できません。
- MPEG2の解像度を変更する場合は704x480/352x480のみ利用が可能です。基本的には入力された解像度が出力されます。
- アスペクト比がシネマサイズのムービーはエンコードできません。
- 音声フォーマットがMPEG1 AUDIO Layer-II以外のフォーマットには対応しません。

音声ストリームの無いMPEG2ファイルからエンコードする場合の制限

- 音声ストリームの無いムービーはエンコードできません。

DVD-Videoに準拠していないMPEG2をコンバートする

操作手順は、ムービー（AVI、MPEG1）のエンコードと同じです。

- ☛ p.127 「Media Encoder」を参照してください。

ムービーの編集

TV番組などを録画したムービーからエンコードを行う場合、CMや不要なカットを取り除いてからエンコードを行うことにより、完成度の高いムービーを作成することができます。

またオリジナルのビデオ作品を作成する場合でも、必要なシーンを複数の動画ソースから1つのムービーにまとめてエンコードすることができます。

必要なもの

□ ムービーファイル (AVI、MPEG1)

MPEG2 ファイルを編集することはできません。MPEG2 ファイルを編集する場合は、MPEG Movie Editorを使用してください。

☛ 詳しくはp.143 「シーンのカット」を参照してください。

Media Encoderがサポートしているムービーファイルの仕様は、以下のとおりです。

AVI 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 圧縮Codec：Direct Xで利用できるデコーダが必要
- ・ 音声方式：16bit ステレオ

Note 参照型 AVIファイルには対応していません。

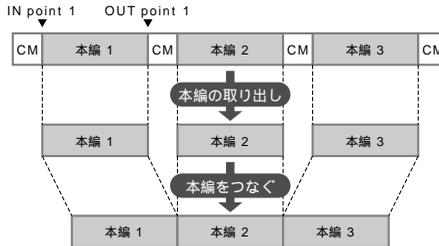
MPEG1 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

ムービーを編集する

編集は、必要な部分のIN point（始点）とOUT point（終点）を指定し抜き出したムービーを繋ぎあわせる作業です。

例えば、録画したテレビ番組からCMをカットする場合、まず、本編の最初の部分にIN pointを指定し、最初のCMの直前でOUT pointを指定します。次に、最初のCMの直後にまたIN pointを指定し、次のCMの直前でOUT pointを指定する、ということを最後まで続け、最後に、リジョンリストの先頭にあるソースムービーを削除した後、MPEGファイルに出力します。



上記の作業を、順を追って説明します。

1. [ランチャタブ]の[ツール]から[MPEGのエンコード]ボタンをクリックし、Media Encoderを起動します。
2. [インポート]ボタンを押して編集するムービーファイルを選択するか、エクスプローラからMedia Encoderのジョブリスト領域に直接ドラッグしてファイルを登録します。
3. 設定を行うファイルをクリックして選択し、[設定]ボタンをクリックします。設定画面が表示されますので、出力するファイルのフォーマット、解像度など必要な設定を行います。

4. メインウィンドウに戻ります。[編集]ボタンを押してエディットウィンドウを開きます。

IN/OUT point :
リージョンの始点 (IN point) と終点 (OUT point) を表示します。

時間軸スライドバー :
分と秒単位のスライドバーです。分のスライドバーは、1分単位で編集ポイントを移動します。
秒のスライドバーは、全体で60秒です。

プレビュー :
プレビュー画面です。

編集ポイント移動ボタン:
編集ポイントをボタンにより移動します。
[<<] -1分
[<] -1秒
[>] +1秒
[>>] +1分

リージョンリスト:
エンコードする選択範囲を順番に記録します。

他のファイル : 編集のソースファイルを他のファイルに切り替えます。
削除 : リージョンリストに登録されているリージョンを削除します。
追加 : IN/OUT pointで指定された範囲をリージョンリストに登録します。
適用 : 現在の状態を適用して編集を終了し、メインウィンドウに戻ります。
キャンセル : 編集をキャンセルし、メインウィンドウに戻ります。

フレームスライドバー :
フレーム単位で編集ポイントを移動します。移動範囲はスライドバー全体が60フレーム(2秒)で、左端が-30フレーム、右端が+30フレームです。

ホイールマウスオペレーション :
ホイールマウスをお使いの場合、操作ポイントの移動をマウスの右クリックとホイールで行うことができます。チェックされている状態では、フォーカスされていないスライドバーをコントロールすることができます。
フレーム単位の移動 : ホイールのみ操作
秒単位の移動 : 右クリックしながらホイールを操作
分単位の移動 : ホイールを押し込みながら操作

5. [プレビュー]ウィンドウを参照しながら[分のスライドバー]で切り出したいIN point(始点)に大まかに合わせます。
6. 大まかなポイントが決まったら、[秒のスライドバー]と[フレームスライドバー]で詳細なポイントを合わせます。

7. IN pointに設定したい場所が決まったら [POINT SET] ボタンをクリックします。
 例) 本編1の最初のフレームを選択し [POINT SET] ボタンをクリックして指定します (IN point1)。

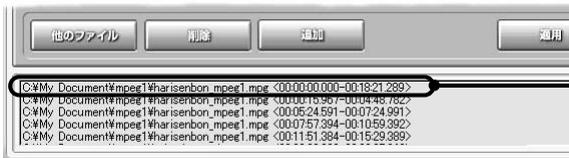


抜き出したい最初のフレームをクリックすると、IN pointに選択したフレームが表示されます。

IN point、OUT pointは順に選択されます。ラジオボタンが選択されているのが、現在選択されているpointです。

フレームの選択をやり直すときは、設定したいpointをクリックしてからフレームを選択してください。

8. 同様に、OUT point1 (終点) に設定したい場所を探し、[POINT SET] ボタンをクリックします。
 例) 本編1の最後のフレーム選択し [POINT SET] ボタンをクリックして指定します (OUT point1)。
9. [追加] ボタンを押すとIN pointから終点OUT pointまでの選択範囲がリージョンリストに登録されます。本編1の範囲がリージョンリストの2番目に登録されます。
- 10.5. から9. を繰り返して必要な選択範囲をすべて追加します。
11. すべての範囲選択が終了したら、リージョンリストの先頭のムービーを削除します。先頭のムービーをクリックして選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。



編集前のフルサイズのムービー

Note 先頭のムービーは最初に選択した編集前のフルサイズのムービーです。

Note エディットウィンドウでの削除は、リージョンリストからの削除です。ハードディスクのムービーは削除されません。

12. [適用] ボタンを押すとメインウィンドウに戻ります。[出力] ボタンをクリックしてください。エンコードが始まります。

複数のソースムービーを編集し、1本にまとめるには

1. まず最初のムービーをインポートしIN point、OUT pointを設定して必要な範囲を抜き出します。
2. 1本目のムービーの編集が終わったら、[他のファイル] ボタンをクリックすると[開く] ダイアログが表示されますので、次のムービーを選択し編集します。以降、編集したいすべてのファイルを、同様にインポートし編集します。
3. すべてのファイルの編集が終わったら、リージョンリストの先頭のムービーのみを削除した後、[適用] ボタンをクリックしてエンコード画面に戻ります。

Note [他のファイル] ボタンで切り替えたソースムービーは、リージョンリストに登録されませんので、削除する必要はありません。

4. 設定画面でフォーマットや解像度などを設定した後、[出力] ボタンをクリックしてエンコードを開始します。

ムービーの連結

クオリティの高いMPEG2のムービーを作成するには、デジタルカメラなどからIEEE1394を経由しDVフォーマットで取り込んだAVIファイルをMPEG2へエンコードするのが一般的です。しかしDVフォーマットはOSとAVIファイルの制限で2GBの9分までとサイズが制限されているため、長時間のDVをAVIファイルに取り込むと2GBずつのAVIファイルに分割されて保存されます。このままでMPEG2を作成すると、9分ごとの短いデータとなってしまいます。Media Encoderでは複数のAVIファイルやMPEG1ファイルをフォーマットを問わず1つのムービーに連結して1つのファイルにエンコードすることが可能です。

必要なもの

ムービーファイル (AVI、MPEG1)

MPEG2ファイルを連結することはできません。

Media Encoderで連結が行えるムービーの仕様は、下記のとおりです。

AVI 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 圧縮Codec：Direct Xで使用できるデコーダが必要
- ・ 音声方式：16bit ステレオ

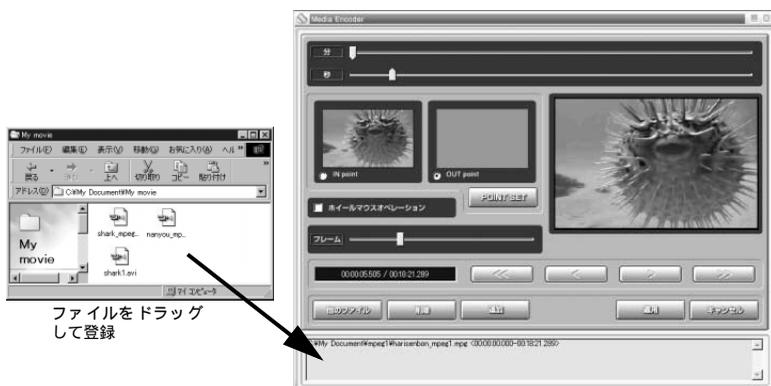
Note 参照型AVIファイルには対応していません。

MPEG1 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

複数のムービーを連結してエンコードする

1. [ランチャタブ][Q ツール]から[MPEGのエンコード]ボタンをクリックし、Media Encoderを起動します。
2. [インポート]ボタンを押して[開く]ダイアログからエンコードする先頭のムービーファイルを選択するか、WindowsのエクスプローラからMedia Encoderのリストに直接ドラッグしてファイルを登録します。
3. [設定]ボタンをクリックして出力するフォーマットや解像度などを設定して[決定]ボタンをクリックします。
4. メインウィンドウに戻ります。[編集]ボタンを押してエディットウィンドウを開きます。
5. エディットウィンドウのリージョンリストに、残りの連結したいファイルを、Windowsのエクスプローラから連結する順番でドラッグして登録します。



6. [適用]ボタンを押すとメインウィンドウに戻ります。[出力]ボタンをクリックするとエンコードが始まります。

● COLUMN ●

バッチエンコード処理について

MPEG1やMPEG2のエンコードは非常に時間がかかる作業です。

設定やマシンの性能によっては、1時間のムービーをエンコードするのに10時間以上かかる場合もあります。

このような作業を効率良く行うため、Media Encoderではバッチエンコード処理機能を搭載しています。これは、事前に登録しておいた複数のエンコードのJOB（仕事）を順番に処理していくものです。

Media Encoderのメインウィンドウのリストに登録したファイルはそれぞれ別々のエンコード設定が可能となっており、[出力]ボタンを押すと、登録された順番で、各々の出力設定にしたがってエンコードを実行します。

1ファイル単位でエンコードを行うより効率的に作業を進めることが可能です。

COLUMN

一般的なムービーファイルフォーマット

AVI形式のムービーファイル(拡張子".avi")

AVI形式のムービーファイルは、Microsoft社のWindowsにおける標準的なムービーファイル形式です。ムービーファイルの圧縮方式は基本的に決まっておらず、圧縮/伸張のCodecを追加することによって幅広い動画のフォーマットに対応することが可能となります。

MPEG1形式のムービーファイル(拡張子".mpg / .mpeg")

MPEG1形式は、非常に低ビットレート(1.0Mbps~2.5Mbps)に動画を圧縮して"それなりの画質(VHSの3倍録画程度)"を保ったままデータサイズを抑え公衆回線やCDメディア等での配布を目的としたムービーファイルを作成する圧縮/伸張のCodecです。

MPEGの特徴として圧縮のアルゴリズムに「動き補償予測」を採用しています。多くの動画圧縮方式では、ムービーのフレーム単位を1枚の静止画として扱い、静止画を連続的に圧縮記録するという方式でムービーのエンコードを行っていますが、MPEGでは一定間隔に用意した基準となるキーフレーム間の「画像が動いた差分だけをデータに記録する」という方式を採用することによって非常に高い圧縮率を実現しています。

また、「ビットレートが低い場合、映像が激しく変化する画像では映像が破綻しやすい」という弱点も持っています。

MPEG2形式のムービーファイル(拡張子".mpg / .mpeg / .m2p")

MPEG2形式は、MPEG1の高画質版でより高いビットレート(2.5Mbps~15Mbps)に動画を圧縮して"映画の鑑賞や放送素材として耐えうるクオリティ"のムービーファイルを作成することを目的とした圧縮/伸張のCodecです。

主に放送用途やD-VHSビデオデッキ/DVD-Videoで利用されているフォーマットです。

COLUMN

DVD-Video/VideoCD作成で使用するムービーフォーマット

DVフォーマットのAVIムービー

IEEE1394規格のDV端子（FireWire/i.LINK端子）とDV機器（DVカメラ/DVデッキ等）の端子を接続して動画のデジタル転送を行うことを目的としたDV形式で圧縮されたAVIのムービーフォーマットです。

DVフォーマット

規格：DV準拠
画像サイズ（NTSC）：720×480
フレームレート：29.97フレーム
ビットレート：25Mbps 1時間あたり約11.2GB
音声方式：PCM ステレオ 16bit 32KHz / 48KHz

VideoCDフォーマットのMPEG1ムービー

VideoCDを作成することを目的としたMPEG1形式のムービーフォーマットです。

VideoCDフォーマット

規格：MPEG1準拠
画像サイズ（NTSC）：352×240
フレームレート：29.97フレーム
ビットレート：115Kbps 1時間あたり約650MB
音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 224Kbps ステレオ 16bit 44.1KHz

DVD-Videoを作成するためのMPEG2ムービー

DVD-Videoを作成することを目的としたMPEG2形式のムービーフォーマットです。

DVD-Videoフォーマット

規格：MPEG2 DVD-Video準拠
画像サイズ（NTSC）：720×480 / 704×480 / 352×480 / 352×240
フレームレート：29.97フレーム
ビットレート：CBR 又は VBR / 2.0Mbps - 10Mbps 1時間あたり約2GB～5GB（Full D1）
音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II ステレオ 16bit 48KHz

DVDit!で利用できるMPEG2ムービー

DVD-Videoを作成することを目的としたMPEG2形式のムービーフォーマットです。

DVD-Videoフォーマット

規格：MPEG2 DVD-Video準拠
画像サイズ（NTSC）：720×480 / 704×480 / 352×480 / 352×240
フレームレート：29.97フレーム
ビットレート：CBR 又は VBR / 2.0Mbps - 8.3Mbps 1時間あたり約2GB～5GB（Full D1）
音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II ステレオ 16bit 48KHz

シーンのカット

MPEG Movie Editor は、削除したい範囲を指定するだけの手軽な操作で、MPEG1/MPEG2 ファイルから不要部分を削除します。また、削除後のファイルは、1つのファイルに出力したり、別々のファイルとして出力することが可能です。

Note この機能は、WinCDR7.0 SEではお使いになれません。

必要なもの

❑ ムービーファイル (MPEG1/MPEG2)

AVIファイルを編集することはできません。AVIファイルを編集する場合は、Media Encoderを使用してください。

☛ 詳しくはp.134「ムービーの編集」を参照してください。

MPEG Movie Editorがサポートしているムービーの仕様は、下記のとおりです。

MPEG1 形式

- ・ 解像度：制限無し
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

MPEG2 形式

- ・ 解像度：720 × 480 / 704 × 480 / 640 × 480 / 352 × 240
- ・ 音声方式：MPEG1 AUDIO Layer-II 16bit ステレオ

MPEGファイルから不要なシーンをカットする

MPEGファイルの編集は、削除したい範囲（不要部分）の最初と最後のポイントを次々と指定するだけです。例えば、録画したテレビ番組からCMをカットする場合、まずCMの最初にポイントを指定し、次にそのCMの最後の部分にポイントを指定します。次のCMの開始位置を探しポイントを指定し、そのCMの終了位置でポイントを指定する、という作業を繰り返します。

Note MPEG Movie Editorは、必要部分の順序を入れ替えることはできません。

1. [スタート]メニューから[プログラム]-[WinCDR]-[MPEG Movie Editor]を選択するとMPEG Movie Editorが起動します。編集したいMPEG1/MPEG2ファイルをMPEG Movie Editorのウィンドウにドラッグしてください。



2. [設定]ダイアログがオープンします。出力先のフォルダやファイル名を確認して必要に応じて変更します。[決定]ボタンをクリックするとファイルが読み込まれます。



Note データの内容を解析しながらファイルをオープンしますので、[決定]ボタンを押してからファイルが開くまで、若干時間がかかります。

3. ファイルがオープンし、プレビューが表示されます。

リージョンリスト：
ポイントで指定された範囲をリストで表示します。
各範囲は、位置（時間）と要・不要の別が表示されます。
×：不要部分（削除する範囲） ：必要部分
また、すでに設定されている範囲を指定する場合、リージョンリストから範囲をクリックして選択します。



POINT

使用しない/使用する：
これから指定する範囲を、削除するか残すかを設定します。
すでに範囲指定されている範囲をリージョンリストから選択し、要・不要を切り替えることもできます。

設定
自動で範囲選択を行う：最初の指定ポイントが不要範囲の始め、次の指定ポイントが必要範囲の始め（=不要範囲の終わり）次の指定ポイントが不要範囲の始め、というように、ポイントを指定することに、不要範囲と必要範囲を指定します。
選択範囲を個別のファイルに出力する：必要部分として指定された部分を、それぞれのファイルとして出力します。

4. まず、ポイントを指定する場所を探します。[プレビュー] ウィンドウを参照しながら削除する範囲を指定します。大幅な移動は [編集ポイント移動] ボタンを使用します。



プレビューウィンドウ

スライドバー：
スライドバー全体が60秒で、0.5秒単位で編集ポイントを移動します。

[POINT SET] ボタン：
範囲の開始位置、あるいは終了位置が決まったらポイントボタンをクリックして決定します。

[編集ポイント移動] ボタン：
ポイントを1分前/先へ移動

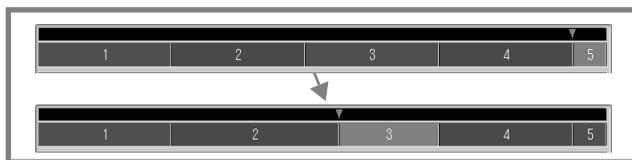
Note ファイルをオープンした直後は、[00:00:00.00] が削除範囲の開始位置として指定されています。不要範囲の指定から始める場合は、そのまま次の必要範囲の開始位置を探して指定します。必要範囲の指定から始める場合は、[使用しない] ボタンをクリックして [使用する] ボタンに変更してから、次の不要範囲の開始位置を指定します。

5. 大まかなポイントが決まったら、[スライドバー] で詳細なポイントを合わせます。
6. 削除したい範囲の最初が決まったら [POINT SET] ボタンをクリックします。
7. 同様にして、削除したい範囲の最後の部分を探し、[POINT SET] ボタンをクリックします。
8. すべての範囲選択が終了したら [出力] ボタンをクリックしてください。
9. 出力が終了すると、[全ての処理が完了しました。終了します。] というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックするとMPEG Movie Editorが終了します。

ポイントの位置を変更するときは

リージョンリストから、変更したいポイントのある範囲をクリックして選択し、[削除] ボタンをクリックするとポイントが削除されます。ポイントを削除後、改めて正しい位置を指定してください。

範囲3の開始位置を後ろに移動したい場合



1. リージョンリストから3番を選択します。ポイントは範囲3の開始位置を指します。



2. [削除] ボタンをクリックします。

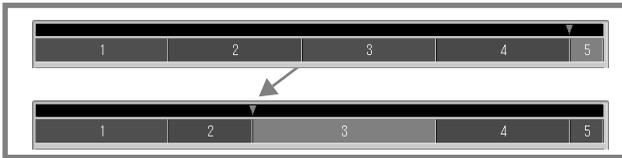


範囲3の開始位置を削除したので、範囲2と範囲3が結合し、範囲4が範囲3、範囲5が範囲4になっている。

3. 範囲3の開始位置を探し、[POINT SET] ボタンをクリックして再度指定します。



範囲3の開始位置を前に移動したい場合



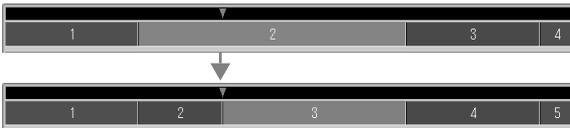
1. リージョンリストから3番を選択します。ポイントは範囲3の開始位置を指します。



2. [削除] ボタンをクリックします。



3. 範囲3の開始位置を探し、[POINT SET] ボタンをクリックして再度指定します。



Authoring Tool

MPEGファイルの準備ができれば、Authoring Toolを使ってオーサリングをしましょう。

Authoring Toolは、ムービーの再生のために、背景画像にムービーやタイトルを配置したメニュー画面を用意したり、再生するムービーの順番を決めてストーリーを作り、DVD-Video、Video CDとしてメディアに書き込める形にファイルを再構築します。

Authoring Toolは、あらかじめ用意された再生手順とスタイルを利用することによって、簡単な操作でオーサリングを行うことができます。

見たいムービーをメニュー画面から選んで再生したり、好きなムービーを連続再生するようなDVD-VideoやVideo CDを作成してみましょう。

また、DVDメディアに音楽CD数十枚分のオーディオデータを書き込み、長時間再生可能なJukeboxDVD、デジタルカメラなどで撮りためた大量の画像を、Video CD規格で書き込んだフォトアルバムを作ることができます。どちらも、DVDプレーヤで再生することができます。

Note ハードウェア（DVDプレーヤやVideo CDプレーヤ、CD-ROM/DVD-ROMなど）によっては、正常に再生できない場合があります。対応しているハードウェアについては、ハードウェアのメーカーにご確認ください。

Note WinCD7.0 SEは、Authoring Toolのすべての機能はお使いになれません。Video CD、フォトアルバムのみ作成できます。

Note この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。

必要なもの

ムービー

MPEG2（DVD-Video、miniDVDで使用）

Media Encoderでエンコードしたファイルを使用してください。

Media Encoderは、Authoring Toolがサポートする以下の仕様のMPEG2ファイルをエンコードすることが可能です。

GOP構成	IBBP
最大GOPサイズ	36フィールド/18フレーム（NTSC）
フレームサイズ	720 × 480、704 × 480、 352 × 480、352 × 240
フレームレート	29.97Hz（NTSC）
アスペクト比	4 : 3、16 : 9
ビットレート：定数ビットレート（CBR）	リニアPCM：2.0 - 8.0 Mbps MP2：2.0 - 9.0 Mbps
ビットレート：可変ビットレート（VBR）	リニアPCM：最大ビットレート8.0 Mbps MP2：最大ビットレート9.0 Mbps

MPEG1 (Video CD 1.0/2.0で使用)

Media Encoderでエンコードしたファイルを使用してください。

Authoring ToolがサポートしているVideo CD作成のためのMPEG1ファイルの仕様は以下のとおりです。

規格	水平画素数	バックサイズ	方式	画像サイズ(横×縦)	フレームレート
MPEG1準拠	352ピクセル	2324バイト	NTSC	352×240	29.97Hz
			FILM	352×240	23.976Hz

「画像サイズ」は縦の数値だけで「ライン数」または「ライン」と表現されている場合もあります。

□ 画像

BMP、JPEG (背景画: DVD-Video、miniDVD、VideoCD 2.0で使用)

BMP、JPEG (フォトアルバムで使用)

□ オーディオデータ

WAVE、MP3 (JukeboxDVDで使用)

よりクオリティの高いJukeboxDVDを作成するには、16bit 48KHzでサンプリングされたWAVEファイルもしくはMP3ファイルをご用意ください。

□ 新規のメディア

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW (DVD-Video、Jukebox DVDで使用)

CD-R、CD-RW (miniDVD、Video CD 1.0/2.0、フォトアルバムで使用)

DVDメディアのご使用について

DVDメディアへの書き込みは、対応したレコーダが必要です。

DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

DVD+RWには追記が可能です。追記禁止にすることはできません。

DVD-R for General ver.2.0、DVD-RW ver.1.1、DVD+R、DVD+RWのメディアをサポートしています。

作成したディスクの利用

作成したディスクは、それぞれ次の方法で利用します。

DVD-Video/JukeboxDVD: DVDプレーヤで再生します。

miniDVD: パソコン+ソフトウェアDVDで再生します。

Video CD 1.0, 2.0/フォトアルバム: Video CDプレーヤ、Video CD対応のDVDプレーヤ

Note ハードウェア (DVDプレーヤやVideo CDプレーヤ、CD-ROM/DVD-ROMなど) によっては、正常に再生できない場合があります。対応しているハードウェアについては、ハードウェアのメーカーにご確認ください。

ハードディスクの空き容量

オーサリングを始める前に、ハードディスクの空き容量を確認してください。それぞれ、作成するディスクにより必要とする空き容量の目安が異なります。以下は、ハードディスクにどれくらい空き容量が必要かを示したものです。

DVD-Video miniDVD JukeboxDVD	書き込むデータ容量の約2倍 4.7GBのDVD-Rほぼいっぱいにデータを書き込む場合は、約10GBの 空き容量が必要です。
Video CD フォトアルバム	ソースデータ（MPEGや画像）と同程度

DVD-Videoの作成

Media EncoderでエンコードしたMPEG2ファイルで、DVD-Videoを作ってみましょう。

Note この機能は、WinCDR7.0 SEではお使いになれません。

必要なもの

ムービー

MPEG2

Media Encoderでエンコードしたファイルを使用してください。

Media Encoderは、Authoring Toolがサポートする以下の仕様のMPEG2ファイルをエンコードすることが可能です。

GOP構成	IBBP
最大GOPサイズ	36フィールド/18フレーム (NTSC)
フレームサイズ	720×480、704×480、 352×480、352×240
フレームレート	29.97Hz (NTSC)
アスペクト比	4:3、16:9
ビットレート：定数ビットレート (CBR)	リニアPCM：2.0 - 8.0 Mbps MP2：2.0 - 9.0 Mbps
ビットレート：可変ビットレート (VBR)	リニアPCM：最大ビットレート8.0 Mbps MP2：最大ビットレート9.0 Mbps

画像

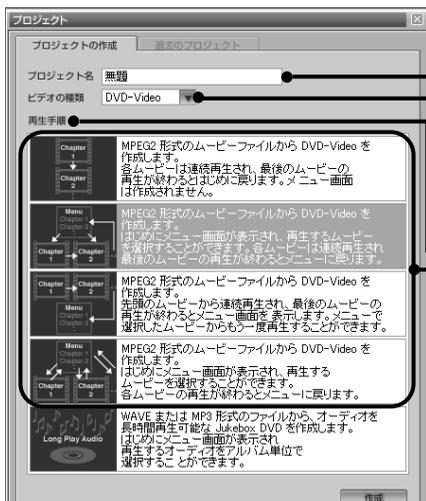
BMP、JPEG (背景画で使用)

新規のメディア

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW

オーサリングする - DVD-Video

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[Videoのオーサリング]ボタンをクリックします。
2. [プロジェクト]ダイアログが表示されます。
[プロジェクトの作成]パネルでは、作成するビデオの種類や再生手順を選択します。
ビデオの種類は[DVD-Video] 再生手順は上の4つのうちのいずれかを選択し、[作成]ボタンをクリックしてください。



プロジェクト名：
プロジェクト名を入力します。

ビデオの種類：
作成する Video の種類を選択します。
DVD-Video を選択すると「DVD-Video」、
「miniDVD」、「JukeboxDVD」、「Video CD
を選択すると「Video CD」、「フォトアルバム」
を作ることができます。

再生手順：
どのような順序、方法でムービーを再生する
かを選択します。
DVD-Video は4つのうちのいずれかの再生
手順を選択します。1 番下の再生手順は、
JukeboxDVD を作るときに選択します。

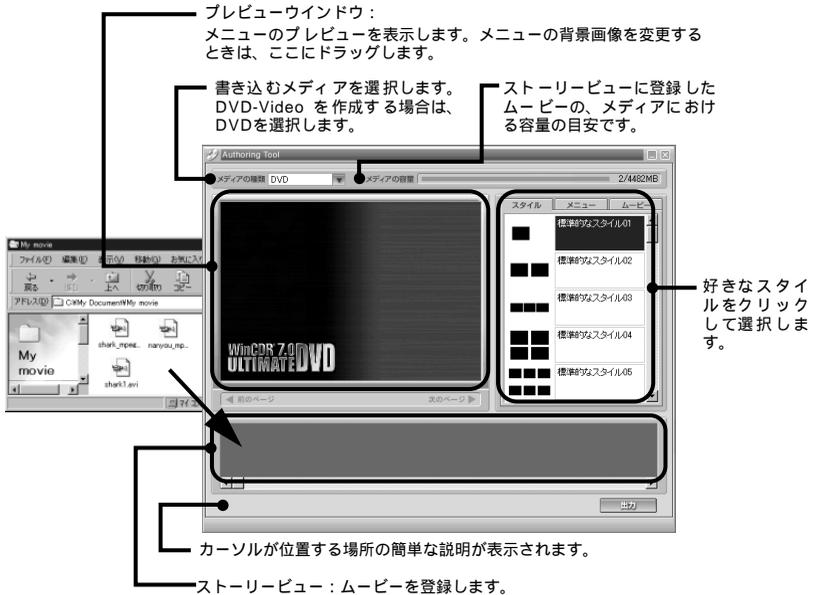
DVD-Video の再生手順は、この中から 選択
します。



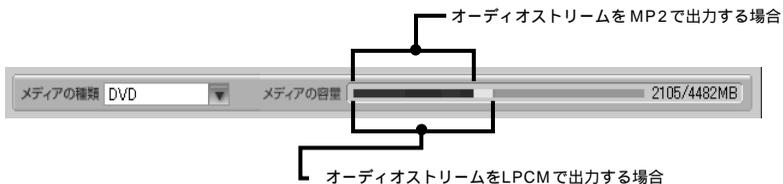
過去のプロジェクトパネル：
過去に作成したプロジェクトが表示され、以前に
作成したプロジェクトを利用することができま
す。

プロジェクトの作成時に[プロジェクト名]に入
力した名前が、日時とともに表示されます。

3. オーサリング画面が表示されます。



- まず、ムービーをストーリービューに登録します。再生したい順に MPEG2 ファイルを Windows のエクスプローラからストーリービューにドラッグして登録します。ムービーは、リストの左から登録されていき、その順番で、chapter1、chapter2、chapter3 ... となります。ムービーはストーリービュー内のどこにドラッグしても、一番後ろ (右) に登録されます。
- ストーリービューにムービーを登録すると、使用容量の目安が [メディアの容量] に表示されます。



- ストーリービューに登録したムービーは、ドラッグして順序を変えることができます。登録したムービーをクリックして選択し、[Delete] キーを押すと削除することができます。
- 次に、スタイルを選択します。スタイルには、ムービーを配置する場所やテキスト格納場所などが確保されています。スタイルパネルから使いたいスタイルのサムネイルをクリックして選択してください。

Note スタイルは、あとから他のものに変更することもできます。

8. スタイルの背景として使われている画像は、好きなものに変更することができます。プレビューウィンドウに、変更したい画像ファイルをドラッグしてください。

Note 使用可能な画像ファイルは、BMPファイルとJPEGファイルです。

画像解像度720×480を推奨します。

解像度が720×480を超える画像は圧縮されます(3対2のアスペクト比を保持して圧縮します)。

解像度が720×480未満の画像は、元の解像度のまま、中央に配置されます。余白部分が生じた場合、黒で埋められます。

9. メニューパネルでは、メニューのタイトルを入力することができます。また、再生時のメニュー画面のBGMを指定することができます。



タイトルを入力します。
 [フォント]ボタンをクリックすると[フォント]ダイアログが表示されます。
 [フォント]ダイアログでは、フォント、文字の色/サイズなどを変更することができます。
 メニューの再生時に流れるBGMを指定します。ボタンをクリックするとダイアログが表示されますので、BGMとするファイル(WAVE形式)を選択します。

10. 入力したタイトルのフォント、色などを変更することができます。タイトル右の[フォント]ボタンをクリックすると[フォント]ダイアログが表示されますので、フォントやフォントのサイズ、色などを指定してください。



11. ムービーパネルでは、それぞれのムービーに対してサムネイルとして表示するフレームの指定ができます。まずストーリービュー上でムービーをクリックして選択した後、スライダーを使って表示位置を指定してください。
 また、登録したムービーには、ファイル名を元に自動的にタイトルがつきます。ムービーの

タイトルを変更したい場合は、ストーリービュー上でムービーをクリックして選択した後、**[ムービーのタイトル]** 欄を変更してください。

The screenshot shows the 'Authoring Tool' window with the 'Movie Title' field set to 'umgame' and a 'Font' button next to it. The 'Movie Preview' area shows a turtle. The 'Story View' at the bottom shows a sequence of movie thumbnails, with the first one selected.

それぞれのムービーのタイトルを変更します。

[フォント] ボタンをクリックすると [フォント] ダイアログが表示されます。

[フォント] ダイアログでは、フォント、文字の色 / サイズなどを変更することができます。

指定したフォントの属性は、すべてのムービータイトルに適用されます。

ムービーの中から、メニューに表示するプレビュー画面を選択します。

ストーリービュー上のムービーをクリックして選択し、スライダーを左右にスライドさせると、上の「ムービーの表示位置」にプレビュー画面が表示されますので、好きな画面を探し、そこでスライダーを止めてください。

タイトルを付けたり、表示位置を変更するムービーをクリックして選択します。

COLUMN

ページ

1ページに登録できるムービーは、選択しているスタイルにより決まります。それよりも多くのムービーをリストに登録すると、ムービーは自動的に2ページに登録されます。2ページ目以降が作成されると、[次のページ]ボタンが有効になり、クリックしてページ間を移動することができます。

たとえば、選択したスタイルが1ページに4つのムービーが登録できる場合、リストに登録した5つ目から8つ目のムービーは2ページに配置されます。

再生手順とスタイル

再生手順

再生手順は、ムービーをどういった手順で再生するかを決めるもので、全体のストーリーや構成を決定します。

たとえば1番上の再生手順ならば、DVD-VideoをDVDプレーヤーに挿入すると最初のムービー(chapter1)の再生が始まり、chapter1の再生が終わったらchapter2、chapter2の再生が終わったらchapter3と、最後のムービーまで順に再生します。最後のムービーの再生が終わったら、再度chapter1に戻って再生が始まり、エンドレスで再生します。

メニューを表示し、そこから再生するムービーを選択したい場合は4番目の再生手順を使用します。

スタイル

スタイルは、再生時のウィンドウに表示される要素(ムービー、タイトルなど)を、デザインに合わせて配置するための器のようなものです。

スタイルを選択すると、ムービーやタイトルなどの配置場所がすでに用意されており、あとは、ムービーをストーリービューにドラッグして登録したり、メニューのタイトルやムービーのプロパティなどを入力してデザインを埋めていきます。

Chapter

Chapterは、ひとかたまり(1単位)のムービー、Chapterポイントはその先頭です。DVD-Videoの再生時に、スキップボタンを押したとき、前後のChapterポイントに移動します。

Authoring Toolでは、MPEGファイルを1つのChapterとして扱います。頭出しをしたいポイントがムービーファイルの途中にある場合は、あらかじめ、そのポイントでファイルを分割しておきましょう。

イメージを作成し、ディスクに書き込む - DVD-Video

オーサリングが終了したらDVDに書き込みましょう。

1. [出力] ボタンをクリックすると [出力先指定] ダイアログが表示されます。DVD イメージの出力先と、[オーディオ設定] で出力するオーディオデータの種類を指定してください。

□ オーディオ設定

LPCM (リニアPCM): 非圧縮のオーディオデータを生成します。生成されたファイルのサイズは、MP2に比べ大きくなります。

MP2: MP2データを生成します。データを圧縮しますが、音質の劣化はほとんどありません。LPCMに比べオーディオデータのファイルサイズが小さくなりますので、長時間のムービーを書き込む場合に有効です。

MP2をサポートしていない初期のDVDプレーヤーでは正しく再生されません。MP2をサポートしていないDVDプレーヤーで再生する場合は、LPCMを指定してください。



既存のフォルダを選択する場合は、フォルダをクリックして選択し、[OK] ボタンをクリックします。

新しいフォルダを作成する場合は、[フォルダ作成] ボタンをクリックするとダイアログが表示されますので、フォルダ名を入力して [OK] ボタンをクリックしてください。

- Note** DVD イメージを作成した後、すぐにディスクに書き込まない場合は、[出力完了後に WinCDR で書き込みを行う] のチェックをクリアしてください。ハードディスクにDVD-Videoのイメージを保存した時点で処理が終了します。作成したDVDイメージからは、WinCDRの [DVD-Videoの作成] コマンド、あるいは、ウェル経由で、DVD-Videoを作成することができます。

2. [OK] ボタンをクリックするとDVDイメージの作成が始まります。
3. イメージ作成が終了するとWinCDRに戻ります。[レコーディング] パネルが表示されますので、新しいDVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWをレコーダに挿入し、[実行] ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。追記することはできません。DVD+RWには書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

Note ハードディスクに作成したDVDイメージは、ディスクを作成した後も自動的に削除されません。不要になったら適宜削除してください。

Note DVDイメージはフォルダ構造になっています。中のファイルやフォルダを削除したり移動したり新規のファイルを追加したりすると、DVD-Videoを正常に作成できませんので、ご注意ください。

DVDイメージからDVD-Videoを作るには

ハードディスクに保存されたDVDイメージを元にして、DVD-Videoを作成することができます。

作成方法は、次の2通りです。

- ・[DVD-Videoの作成] コマンドを使用する
- ・ウェルにDVDイメージを配置し、書き込む

DVDイメージの出力先が「c:\windows\My Documents\Video_sea」として説明します。

[DVD-Videoの作成] コマンドを使用する

1. WinCDRのメインウインドウを表示します。
2. レコーダにメディアを挿入します。
3. [ツール] メニューから [DVD-Videoの作成] コマンドを選択すると、[DVD-Videoの作成] ダイアログが表示されます。
4. フォルダアイコンをクリックして [フォルダ選択] ダイアログを表示し、フォルダを指定してください。フォルダは、イメージ作成時に指定したフォルダです。
例) c:\windows\My Documents\Video_seaを指定する
5. [OK] ボタンをクリックすると、DVD-Videoの作成が始まります。
6. [レコーディング] パネルが表示されますので設定を確認し、[実行] ボタンをクリックしてください。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。DVD+RWには書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

Note DVD-Videoを作成してもイメージはそのままハードディスクに残りますので、いつでも同じものを作ることができます。不要になったら、適宜削除してください。

ウェルにDVDイメージを配置し、書き込む

ファイルやフォルダをディスクに書き込むのと同じ要領で、DVDイメージをディスクに書き込み、DVD-Videoを作成することができます。

1. WinCDRのメインウインドウを表示します。
2. レコーダにメディアを挿入します。
3. [ランチャタブ] の [CDの作成] から [データCD/DVDの作成] ボタンをクリックして選択します。
4. ウェルに、DVD イメージのフォルダを配置します。ここでウェルに配置するのは、DVD イメージの出力先として指定したフォルダのすぐ下にある「VIDEO_TS」フォルダです。
例) c:\windows\My Documents\Video_seaの下の「VIDEO_TS」フォルダをフォルダごと配置する

Note DVD-Video以外のデータをウェルに配置し、同時にメディアに書き込むことができます。VIDEO_TSの部分はDVD-VideoとしてDVDプレーヤなどで再生することができます。

でき、それ以外のデータ部分は、コンピュータのDVD-ROMドライブで、データとして扱うことができます。

この場合、他のファイル、フォルダは、ウェル上のVIDEO_TSと同じ階層に配置し、VIDEO_TSフォルダの中には他のファイルを入れないでください。

5. 準備ができたら [書き込み] ボタンをクリックしてください。[レコーディング] パネルが表示されますので、設定を確認し、[実行] ボタンをクリックすると書き込みが始まります。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。DVD+RWには書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

Note DVD-Videoを作成してもイメージはそのままハードディスクに残りますので、いつでも同じものを作ることができます。不要になったら、適宜削除してください。

追記する

DVD+RWには、空き領域にデータを追記することができます。

作成したDVD-Videoのディスクにデータを追記する場合、VIDEO_TSフォルダ以外の場所に追記してください。

VIDEO_TSフォルダの中にデータを追加したり、VIDEO_TSフォルダ内のデータを削除、移動すると、DVD-Videoが正常に再生できなくなる可能性がありますので、ご注意ください。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rは、データの追記はできません。

miniDVDの作成

ムービーにMPEG2を使いオーサリングしたものを、DVD-Video形式でCDメディアに書き込む miniDVDを作成することができます。

VideoCDではありません。VideoCDよりも高画質ながら、DVDよりも安価なCDメディアに書き込むことができます。

Note CDに書き込みますので、書き込めるムービーの容量は650MBまでです。

Note 作成した miniDVD は、コンピュータで利用します。再生にはソフトウェアDVD が必要です。DVDプレーヤでは再生できません。

Note この機能は、WinCDR7.0 SEではお使いになれません。

必要なもの

ムービー

MPEG2

Authoring Tool がサポートしている miniDVD 作成のための MPEG2 ファイルの仕様は、DVD-Video と同じです。

☛ p.151 「DVD-Videoの作成」・「必要なもの」を参照してください。

画像

BMP、JPEG（背景画で使用）

新規のメディア

CD-R、CD-RW

miniDVDを作る

基本的な操作手順はDVD-Videoと同じです。[プロジェクト]ダイアログではビデオの種類で [DVD-Video] を選択し、オーサリング画面で、メディアの種類から [CD] を選びます。



オーサリングが終了しディスクに書き込む際、レコーダにCDを挿入してください。

Video CDの作成

Video CDは2通りの作成方法があります。

A. Authoring Toolを使用し、オーサリングしてVideo CDを作成する。

B. WinCDRの [VideoCD 1.0の作成] 機能でVideo CDを作成する。

作成したディスクは、Video CDプレーヤか、Video CD対応のDVDプレーヤで再生することができます。

必要なもの

ムービー

MPEG1 (Authoring Toolを使用する場合)

Media EncoderでエンコードしたMPEG1ファイルを使用してください。

Authoring ToolがサポートしているVideo CD作成のためのMPEG1の仕様は以下のとおりです。

規格	水平画素数	バックサイズ	方式	画像サイズ (横×縦)	フレームレート
MPEG1 準拠	352ピクセル	2324バイト	NTSC	352 × 240	29.97Hz
			FILM	352 × 240	23.976Hz

MPEG1 ([VideoCD 1.0の作成] コマンドを使用する場合)

規格	水平画素数	バックサイズ	方式	画像サイズ (横×縦)	フレームレート
MPEG1 準拠	352ピクセル	2324バイト	NTSC	352 × 240	29.97Hz
			FILM	352 × 240	23.976Hz
			PAL	352 × 288	25Hz

「画像サイズ」は縦の数値だけで「ライン数」または「ライン」と表現されている場合もあります。

画像

BMP、JPEG (背景画で使用)

新規のメディア

CD-R、CD-RW

A.Authoring Toolを使用する

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[Videoのオーサリング]ボタンをクリックします。
2. [プロジェクト]ダイアログが表示されます。
[プロジェクトの作成]パネルの[ビデオの種類]で[Video CD]を選択します。



ビデオの種類で、[Video CD]を選択します。

3. オーサリング画面が表示されます。DVD-Videoの作成と同様に、ムービーをストーリービューに登録し、スタイルを指定したり、メニューやムービーに対しタイトルを入力します。Video CDの作成には、動画データとしてMPEG1ファイルを使用します。MPEG2ファイルは使用できません。
4. オーサリングが終了したらCDに書き込みます。[出力]ボタンをクリックしてください。メニュー付きのVideo CD(再生手順の2~4番目を選択)を作成している場合：
[出力先指定]ダイアログが表示されますので、Videoイメージの出力先を指定します。

Note すぐにディスクに書き込まないときは、[出力完了後にWinCDRで書き込みを行う]のチェックをクリアしてください。ハードディスクにVideoイメージを保存した時点で処理が終了します。作成したVideoイメージからは、後述の、WinCDRの[Video CD 2.0の作成]コマンドでVideo CDを作成することができます。

連続再生のVideo CD(再生手順の1番目を選択)を作成している場合：
ハードディスクにイメージを保存するオプションはありません。[出力先指定]ダイアログは表示されません。

5. 出力が終了するとWinCDRに戻ります。レコーダにCDを挿入し[OK]ボタンをクリックしてください。
6. [レコーディング]パネルが表示されますので、必要な設定を行ってください。

Note 書き込み方式はディスクアットワンスのみです。

VideoイメージからVideo CDを作る

ハードディスクに保存されたVideoイメージを元にして、Video CDを作成することができます。

Videoイメージの出力先が「c:\windows¥My Documents¥Video_sky」として説明します。

1. WinCDRのメインウインドウを表示します。
2. レコーダにメディアを挿入します。
3. [ツール]メニューから[VideoCD2.0の作成]コマンドを選択すると、[VideoCD2.0の作成]ダイアログが表示されます。
4. フォルダアイコンをクリックして[フォルダ選択]ダイアログを表示し、フォルダを指定してください。フォルダは、イメージ作成時に指定したフォルダです。
例) c:\windows¥My Documents¥Video_skyを指定する

5. [OK] ボタンをクリックすると、Video CDの作成が始まります。
6. [レコーディング] パネルが表示されますので設定を確認し、[実行] ボタンをクリックしてください。

Note 書き込み方式はディスクアットワンスのみです。

Note VideoCDを作成してもイメージはそのままハードディスクに残りますので、いつでも同じものを作ることができます。不要になったら、適宜削除してください。

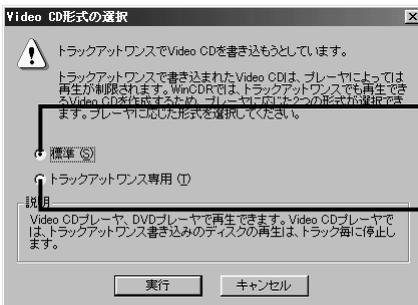
B.WinCDRの [VideoCD 1.0 の作成] を使用する

1. [ランチャタブ] の [CDの作成] から [VideoCD 1.0の作成] ボタンをクリックします。
2. エクスプローラあるいはデスクトップから、ウェルにデータをドラッグします。
3. レコーダに新規のメディア (CD) を挿入します。
4. 準備ができたなら [書き込み] ボタンをクリックしてください。
5. [レコーディング] パネルが表示されますので、必要な設定を行ってください。書き込み方式は [Disc at once] を選択します。
6. [書き込み完了] ダイアログが表示されたら終了です。

[VideoCD 1.0 の作成] を使用したVideo CD書き込み時のご注意

Video CDはディスクアットワンスで作成してください。トラックアットワンスで記録されたVideo CDは、プレーヤによっては再生が制限されます。

レコーダがディスクアットワンス対応でないなど、やむを得ずトラックアットワンスで作成する場合は、書き込み時に、[Video CD形式の選択] ダイアログが表示されます。再生するプレーヤに合わせて [標準] [トラックアットワンス] 専用のいずれかをチェックし、[実行] ボタンをクリックしてください。書き込みがスタートします。



DVDプレーヤでは、通常どおりの再生ができます。Video CDプレーヤでは、トラックごとに停止します。

Video CDプレーヤで、通常どおりの再生ができます。DVDプレーヤでは再生できません。

JukeboxDVDの作成

DVDメディアにオーディオデータを書き込み、長時間再生可能なJukebox DVDを作成することができます。作成したディスクは、DVDプレーヤで再生することができます。

Note この機能は、WinCDR7.0 SEではお使いになれません。

必要なもの

サウンドデータ

WAVEファイル、MP3ファイル

Note よりクオリティの高いJukeboxDVDを作成するには、16bit 48kHzでサンプリングされたWAVEファイルもしくはMP3ファイルをご用意ください。

重要： 市販の音楽 CD 等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

Note MP3 ファイルをメディアに書き込む際、MP3 が持つ圧縮は解凍されてしまいますので、メディアの容量をオーバーしないようご注意ください。

新規のメディア

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW

準備する

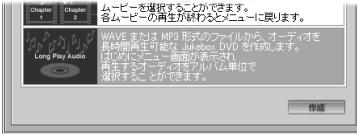
多数のWAVEファイルやMP3ファイルを、アルバムタイトルごとに分類しDVDに保存することができます。

約5分の曲をMP2で記録する場合約500曲、LPCMで記録する場合約70曲程度を記録することができます。

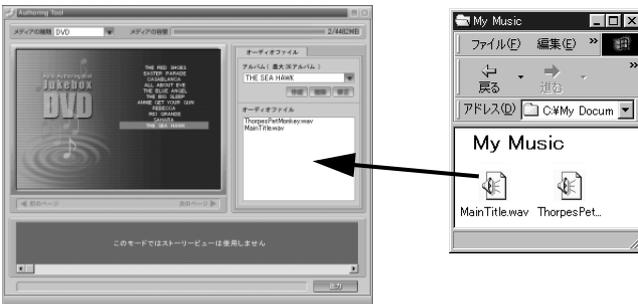
JukeboxDVDの作成を始める前に、タイトルごとにハードディスクにフォルダを作成し、そこにWAVEファイルやMP3ファイルを入れておくとオーサリング作業がスムーズに進みます。

JukeboxDVDを作る

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[Videoのオーサリング]ボタンをクリックします。
2. [プロジェクト]ダイアログが表示されます。
[ビデオの種類]で[DVD-Video]を選択し、[プロジェクトの作成]パネルから一番下の再生手順を選択します。



3. オーサリングウィンドウが表示されます。



4. アルバムを登録します。ウィンドウ右上のアルバムの下にある[作成]ボタンをクリックし、表示された[アルバム名入力画面]ダイアログでアルバム名を入力します。
5. アルバム右の をクリックしてアルバムを選択してから、書き込みたいオーディオデータ(WAVE、MP3)を、Windowsのデスクトップやエクスプローラから[オーディオファイル]エリアにドラッグして登録していきます。
6. アルバムにオーディオデータの登録が終わったら、同様にしてアルバムを作成し、オーディオデータを登録していきます。
7. オーサリング(アルバムとオーディオデータの登録)が終了したらDVDに書き込みます。あとの操作は、DVD-Videoの作成と同様に行います。

☛ p.157 「イメージを作成し、ディスクに書き込む - DVD-Video」を参照してください。

Note 作成したJukeboxDVDは、DVDプレーヤで再生します。DVDプレーヤによっては、早送り、巻き戻しができないものがあります。

Note データはCDに書き込むこともできます。この場合、miniDVD形式になりますので、書き込めるデータの容量は650MBまでです。再生はコンピュータ上でソフトウェアDVDが必要です。

フォトアルバムの作成

大量の画像データを収録し、スライドショー形式で次々再生するフォトアルバムを作成することができます。作成したディスクは、Video CDプレーヤか、Video CD対応のDVDプレーヤで再生することができます。

必要なもの

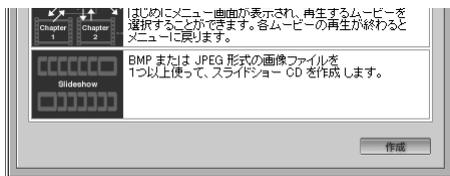
画像

BMP、JPEG

新規のメディア

CD-R、CD-RW

1. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[Videoのオーサリング]ボタンをクリックします。
2. [プロジェクト]ダイアログが表示されます。
[ビデオの種類]で[Video CD]を選択し、[プロジェクトの作成]パネルから一番下の再生手順を選択し、[作成]ボタンをクリックします。



3. オーサリングウィンドウが表示されます。
4. スライドショーパネルに画像データを表示したい順番に登録していきます。登録を取り消すには、ファイル名をクリックして選択し [Delete] キーを押します。



5. オーサリング(画像データの登録)が終了したらCDに書き込みます。あとの操作は、VideoCDの作成と同様に行います。

- ☛ p.162 「A.Authoring Toolを使用する」を参照してください。

Note データを書き込む際はCDを使用します。DVDは使用できません

第6部

その他の機能

WinGDR[®] 7.0

ディスクのコピー

WinCDRでは、CD-ROM/DVD-ROMをそのままコピーする機能があります。ハードディスクにイメージファイルを作成後、メディアに書き込む方法と、CD-ROMドライブ/DVD-ROMドライブなどに挿入したディスクから、レコーダに挿入したメディアに直接書き込む方法があります。

重要： CD-ROM/DVD-ROM で供給されるソフトウェアについて、保存または管理を目的として複製を作成する場合は、各ソフトウェアに付属の使用許諾条項などで、複製の作成が許諾されていることを必ずご確認ください。

重要： DVD-Videoなど著作権保護信号が書き込まれているDVDは、複製できません。

重要： コピー元のDVD-ROMによっては、コピーできないものがあります。

Note ディスクの種類は、ディスクのジャケットやパッケージなどを確認するか、レコーダに挿入し、WinCDRの [ツール] メニューの [ディスク情報] で調べることができます。

Note トラックアットワンスで書き込む場合、トラック間に付加情報が記録されるため、元のCDとまったく同じデータレイアウトにはなりません。元のCDと同じレイアウトにするには、ディスクアットワンスで書き込んでください。ディスクアットワンスで書き込みを行うには、レコーダがディスクアットワンスに対応している必要があります。

Note CD-ROMからDVDメディア、DVD-ROMからCDメディアにコピーすることはできません。

Note レコーダにより、コピー可能なCDの種類が若干異なります。

Note パケットライト方式で書き込まれたCD/DVDはコピーできません。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規のメディア
- コピーしたいCD-ROM/DVD-ROM

DVDメディアのご使用について

DVDメディアへの書き込みは、対応したレコーダが必要です。

DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みは、ディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

DVD+RWには追記することができます。追記禁止にすることはできません。

DVD-R for General ver2.0、DVD-RW ver.1.1、DVD+RW、DVD+Rのメディアをサポートしています。

- 音楽CDのコピーについては、p.59「ディスクのコピーで音楽CDを作成する」を参照してください。

コピー (R to R)

ディスクからハードディスクにデータを吸い上げ、そのデータ（イメージファイル）をメディアに書き込みます。CD-ROMドライブやDVD-ROMドライブがなく、レコーダだけの環境でもコピーが可能です。また、データを読み出すドライブと書き込むドライブが同じため、後述のROM to R方式に比べ、より安定した書き込みが行えます。

Note イメージファイルは [環境設定] ダイアログで指定した [イメージ作成] フォルダに作成されます。ハードディスクにディスクのデータと同等程度の空き容量が必要です。とくに、DVD-ROMをコピーする場合は、ハードディスクに十分な空きがあることをご確認ください。

1. レコーダにコピー元のディスクを挿入します。
2. [ランチャタブ] の [CDの作成] から [ディスクのコピー] ボタンをクリックします。
3. [ディスクのコピー] ダイアログが表示されますので、必要な設定を行います。読み込みドライブは、コピー先と同じレコーダを選択してください。

読み込みドライブの選択：
リストからコピー元のドライブを選択します。レコーダを選択してください。

コピー先のレコーダが表示されます。

書き込み手順：
テスト後に書き込み：
テスト書き込みが正常に終了した後、連続してメディアへの書き込みが行われます。

テストのみ：
データの転送やエンコードなどをシミュレートします。メディアへの書き込みが行われない以外は、実際の書き込みと同じ手順で行われます。

書き込みのみ：
テストを行わず、メディアに書き込みを開始します。

書き込み方法：
書き込み方法を設定します。[Disc at once] を推奨します。

追記禁止：
チェックしておく、クローズセッションした後、そのメディアへの追記ができなくなります (トラックアットワンス時のみ有効)。

- D : ドライブレター
A: B: C: のように、レコーダ、ドライブに振られます。
- 1 SCSIインターフェイスID
SCSIボードに割り振られている番号です。
 - 0 SCSI ID
SCSIレコーダ、ドライブに設定している番号です。
 - 0 ロジカルユニットナンバー
ひとつのSCSI IDに対する枝番号です。
 - 1 バスタイプ
1 :SCSI 2:ATAPI

Note 書き込み方法は [Disc at once] を推奨します。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rのコピーは、ディスクアットワンス書き込みのみです。追記することはできません。DVD+RWには、書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

- 設定終了後、[実行] ボタンをクリックすると、イメージファイルの作成が始まります。
- イメージファイルができると、次のダイアログが表示されます。レコーダからディスクを取り出し、新規メディアと交換してから [OK] をクリックしてください。書き込みがスタートします。



- コピーが終了すると [もう1枚作成しますか] と確認のダイアログが表示されます。[いいえ] ボタンをクリックしてください。

Note もう1枚作成する場合は、レコーダのメディアを入れ替えてから [OK] ボタンをクリックします。
- [CDのコピーが完了しました] あるいは [DVDのコピーが完了しました] というメッセージが表示されます。
- [ディスクのコピー] ダイアログに戻ります。[閉じる] ボタンをクリックすると、メインウインドウに戻ります。

コピー (ROM to R)

CD-ROMドライブあるいはDVD-ROMドライブにコピー元のCD-ROM/DVD-ROM、レコーダに新規メディアを挿入することにより、途中でメディアを入れ替える必要がありません。

また、この場合、転送方法にオンザフライ方式を選択することができます。

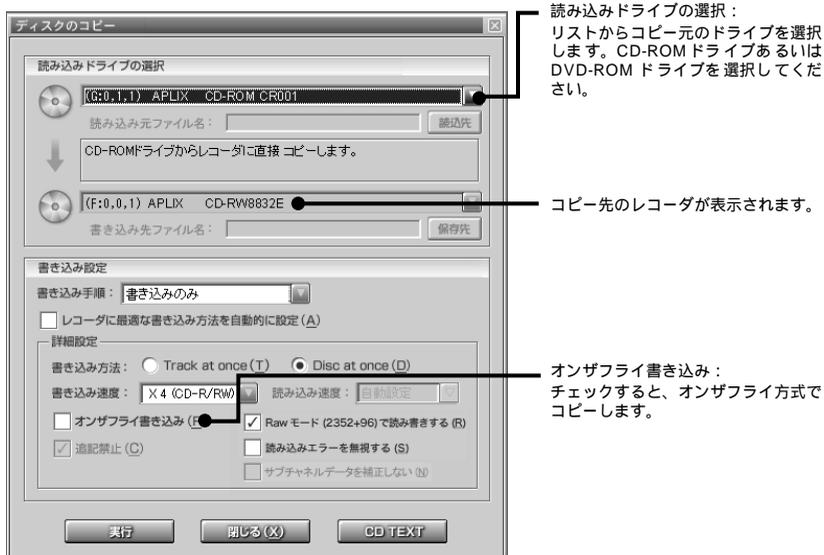
Note オンザフライ方式の場合、うまく書き込みが行えないことがあります。その場合は前述のR to Rで書き込んでください。

Note オンザフライ方式で書き込みを行う場合、ハードディスクにイメージファイルを作らないため、ハードディスクの空き容量が少ない場合などに利用できます。

1. CD-ROMドライブあるいはDVD-ROMドライブにコピー元のディスクを挿入します。
2. レコーダに新規のメディアを挿入します。
3. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[ディスクのコピー]ボタンをクリックします。
4. [ディスクのコピー]ダイアログが表示されますので、必要な設定を行います。

以下の設定を推奨します。

- ・ [ドライブの選択]: コピー元のディスクが挿入されている CD-ROM ドライブあるいは DVD-ROMドライブを選択 (必須)
- ・ 書き込み方法:[Disc at once] を選択



Note DVD-R/DVD-RW/DVD+R へのコピーは、ディスクアットワンス書き込みのみです。追記することはできません。
DVD+RWには、書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

5. 設定終了後、[実行]ボタンをクリックすると、コピーが始まります。

6. コピーが終了すると [もう1枚作成しますか] と確認のダイアログが表示されます。[いいえ] ボタンをクリックしてください。
 - Note** もう1枚作成する場合は、レコーダのメディアを入れ替えてから [OK] ボタンをクリックします。
7. [CDのコピーが完了しました] あるいは [DVDのコピーが完了しました] というメッセージが表示されます。
8. [ディスクのコピー] ダイアログに戻ります。[閉じる] ボタンをクリックすると、メインウインドウに戻ります。

C O L U M N

[Rawモード (2352+96) で読み書きする] オプション

オーディオ/データトラックを、1ブロックにつき、メインチャンネル2352バイトとサブチャンネル96バイトで、読み書きを行います。読み込み元 (オリジナル) CDを、そのまま、忠実に複製します。

レコーダがRawモード (2352+96) 書き込みに対応している場合、使用可能です。コピー元とコピー先が異なるドライブを指定する場合、両ドライブがRawモード (2352+96) 対応である必要があります。ドライブが、Rawモード (2352+96) の読み込みに対応しているか不明の場合は、1台のドライブでコピーしてください。

- Note** ドライブやコピー元のディスクによっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- Note** このモードはDVDメディアのコピーでは機能しません。
- Note** 書き込み方法が [Disc at once] で、オンザフライ書き込みがクリアされているときのみ、使用可能です。
- Note** すべてのディスクがコピーできることを保証するものではありません。
- Note** ドライブの性能により、コピーできない場合があります。

[読み込みエラーを無視する] オプション

コピー元ディスクのデータを読み込む際にエラーが発生すると、通常は処理が中断されますが、[読み込みエラーを無視する] をチェックしていると、エラー発生時も処理を続行します。

コピー元のディスクに傷や汚れがなくても読み込みエラーが発生するときは、チェックしてください。

- Note** Rawモード (2352+96) 対応のレコーダでなくても使用できます。
- Note** ドライブやコピー元のディスクによっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- Note** オンザフライ書き込みがクリアされているときのみ、使用可能です。
- Note** すべてのディスクがコピーできることを保証するものではありません。
- Note** ドライブの性能により、コピーできない場合があります。

[サブチャンネルデータを補正しない] オプション

[Rawモード (2352+96) で読み書きする] オプションがチェックされているときのみ選択可能です。チェックすると、サブチャンネルデータをそのまま読み書きします。

- Note** CD-ROMドライブは、読み込み元ドライブとして使用できません。
- Note** ドライブの性能によりサブチャンネルが読み込めない場合はメッセージが表示され、読み込みを中止します。
- Note** ドライブの性能により、できあがったディスクがマウントしない場合があります。

CDのテスト読み取り

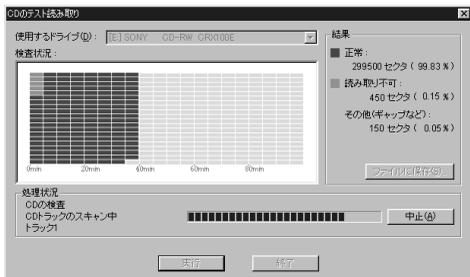
メインウィンドウで [ツール] - [CDのテスト読み取り] を選択すると、[CDのテスト読み取り] ダイアログが表示されます。テスト読み取りするCDをドライブに挿入し、[実行] ボタンをクリックすると、テスト読み取りを開始します。

重要： 通常は、テスト読み取りを行う必要はありません。

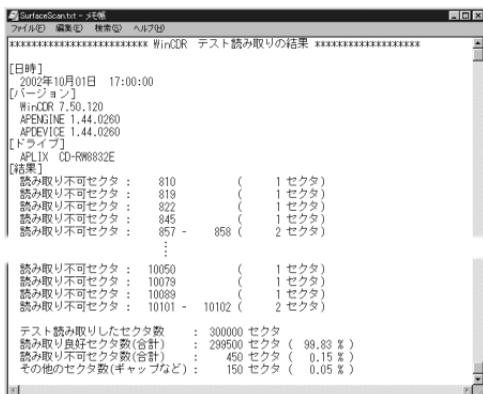
Rawモード (2352+96) 書き込み対応のレコーダで、特殊なディスクの状態を調べたい場合に使用します。

重要： テスト読み取りに要する時間は、お使いのドライブや読み取り対象とするCDにより、大幅に異なります。数分から、長い場合は数時間以上かかります。

重要： メディアの物理的な不良箇所を検出するものではありません。



テスト読み取りが終了すると[CDのテスト読み取りが終了しました]というメッセージが表示されます。テスト読み取りの結果を保存する場合は、[ファイルに保存] ボタンをクリックすると保存ダイアログが表示されますので、ファイル名を指定してください。ファイルはテキスト形式で保存されます。



テスト読み取りの日時、WinCDRのバージョン、使用したレコーダ、結果が保存されています。

読み取り不可のセクタが検出されたときは、セクタ番号も保存されます。

Mixed Mode CDの作成

WinCDRを使ってデータトラックとオーディオトラックを1枚のメディアに書き込む形式のCDです。

データトラックの後にオーディオトラックを追加してからクローズセッションしたCDです。データトラックにプログラムやデータを記録し、オーディオトラックにBGMとして再生できる音楽などが記録されます。CD-ROM形式のゲームソフトの多くはこのタイプのものです。

Note Mixed Mode CDを音楽CDプレーヤで再生すると、データトラックをオーディオトラックとして再生しようとしてしまうため、無音やノイズが再生されたり、オーディオ機器に損害を与えたりする場合があります。

Note データトラックのプログラムがオーディオトラックのデータを読み出し、BGMを再生しながらモニタに画像を表示するようなMixed Mode CDを作成するには、それぞれの専門的な知識が必要となります。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規のメディア
- データトラックに書き込むファイル
- オーディオトラックに書き込むファイル (WAVE、MP3、WMA)

オーディオトラックに書き込めるのは、以下の形式のファイルに限られます。

形式	サンプリングサイズ	サンプリングレート	チャンネル
WAVE	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)、 1ch (モノラル)
MP3	16ビット	44.1kHz	2ch (ステレオ)
WMA	16ビット、8ビット	44.1kHz、22.05kHz	2ch (ステレオ)

Note お使いのパッケージによっては、WMAファイルを使用できない場合があります。

Mixed Mode CDを作成する

1. レコーダに新規のメディアを挿入してください。
2. [ランチャタブ]の[CDの作成]で、[Mixed Mode CDの作成]を選択します。

各トラック（データトラックとサウンドトラック）に書き込むファイルは、左側のウェルでそれぞれのボリュームを選択してから配置します。

[ボリュームラベル]を選択し、データトラックをウェルに配置します。

[Audio]フォルダを選択し、サウンドデータをウェルに配置します。

Note データのボリュームを選択している状態で、サウンドデータをウェルに配置しても、オーディオトラックには書き込まれません。



Note 必要に応じ、データの配置、名前、ボリュームラベルを変更してください。ウェル上でこれらの操作を行っても、オリジナルデータに影響はありません。

Note サウンドデータの場合は、ウェル上のオーディオアイコンを右クリックして「トラック設定」を選択すると、1曲単位でトラック設定を行うことができます。デフォルトではプリギャップ2秒、ポストギャップ2秒になっています。

Note トラックアットワンスでの書き込みは、規格上プリギャップが2秒に固定されています。

3. 準備ができたなら[書き込み]ボタンをクリックしてください。
4. [レコーディング]パネルが表示されます。必要に応じて設定し[実行]ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。

利用

作成したCDにより使用方法は異なります。

重要： 音楽CDプレーヤでは、絶対に再生しないでください。

追記する

[Track at once] で、[追記禁止] がクリアされた状態で書き込みされたメディアは、追記することができます。

Mixed Mode CDに追記できるのは、[データトラック] と [オーディオトラック] です。

[データトラック] のみの追記はできますが、[オーディオトラック] のみの追記はできません。

- ☛ 追記に関して、詳しくはp.95 「追記する (CD-R/CD-RW/DVD+RW のみ) 」を参照してください。

ブータブルCD/DVD

WinCDRでは、起動ディスク(1.44MBの3.5インチフロッピーディスク)をもとに、コンピュータを起動させることが可能なブータブルCD/DVDを作成することができます。

ブータブルCD/DVD作成上の注意

ブータブルCD/DVD作成機能で作成されたCD/DVDから起動するには、コンピュータのBIOS(コンピュータ本体基本ソフト、および、SCSIインターフェイスカードが提供するCD-ROMアクセス用拡張BIOS)が、ブータブルCDに対応している必要があります。詳しくはコンピュータの取扱説明書などをご覧ください。コンピュータが対応している場合、BIOSの設定を変更することにより、CD-ROM/DVD-ROMから起動できます。

ブータブルCD/DVDから起動した場合、フロッピーディスク(A:)から起動した状態になっています。このときにCD-ROMあるいはDVD-ROMの一部をフロッピーディスクのイメージとしてシステムが使用しています。そのため、起動後にCD-ROM/DVD-ROMの交換はできません(CD-ROM/DVD-ROMを交換すると、起動ボリュームのA:が使用できなくなります)。

Note Windows2000/XP/NTは、OSがMS-DOS起動用フロッピーディスクの作成をサポートしていません。別途、MS-DOSをご用意ください。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規メディア
- 起動ディスク(1.44MBの3.5インチのみ)

起動ディスクを作成する

Windowsの起動ディスク作成機能を使って、起動ディスクを作成してください。

1. ブランクのフロッピーディスク（1.44MBの3.5インチフロッピーディスク）をフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を起動します。[起動ディスク]タブをクリックします。
3. [ディスクの作成]ボタンをクリックすると、起動ディスクの作成が始まります。画面の指示にしたがって起動ディスクを作成してください。

Note 2枚組み以上の起動ディスクからは作成できません。

Windows98 Second Editionの場合

Windows98 SEでは、Windowsの起動ディスク作成機能を使うと2枚組の起動ディスクが作成されます。ブータブルCD/DVDは2枚組の起動ディスクからは作成できないため、次の方法で起動ディスクを作成してください。

1. 前述の方法で、起動ディスクを作成します。ディスクは2枚組になります。
2. できあがった起動ディスクの1枚目の「Autoexec.bat」を、テキストエディタなどを使用して、次のように修正します。

```
:ERROR の次の行にgoto exit を挿入  
最終行に:exit を挿入
```

これで、1枚のディスクで起動が可能です。ブータブルCD/DVD作成には、この起動ディスクをご利用ください。

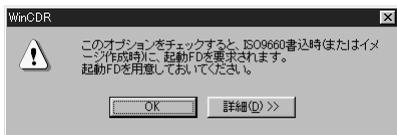
Note Windows2000/XP/NTは、OSがMS-DOS起動用フロッピーディスクの作成をサポートしていません。別途、MS-DOSをご用意ください。

ブータブルCD/DVDを作る

1. まず、CD/DVD の書き込み設定を行います。[設定] メニューから [データ設定] を選択してください。
2. [データ設定] ダイアログが表示されます。[ISO 9660/UDF] タブの [ブータブルCD/DVD を作成] をチェックしてください。



3. 次のダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。



4. 再度 [データ設定] ダイアログに戻ります。[OK] ボタンをクリックすると設定が終了します。
5. 先ほど作成した起動ディスクをフロッピーディスクドライブ、レコーダに新規のメディアを挿入します。
6. [ランチャタブ] の [CD の作成] から [データCD/DVD の作成] ボタンをクリックします。
7. エクスプローラあるいはデスクトップから、ウェルにデータをドラッグしてください。

Note コンピュータの起動に必要なデータはフロッピーディスクドライブに挿入した起動ディスクから自動的に書き込まれます。

Note その他に必要なファイルをウェルに配置します。

Note 必要に応じて、データの配置、名前、ボリュームラベルの変更を行ってください。ウェル上でデータの配置、名前の変更を行っても、オリジナルデータに影響はありません。

8. 準備ができれば [書き込み] ボタンをクリックしてください。
9. [レコーディング] パネルが表示されます。必要に応じて設定し、[実行] ボタンをクリックします。書き込みが始まります。

Note すべての作業が終わったら、必ずフロッピーディスクドライブから起動ディスクを抜いてください。

利用する

CD/DVDをCD-ROM/DVD-ROMドライブにセットし、コンピュータを起動します。

Note コンピュータのBIOSがブータブルCDに対応しており、BIOSの設定がCD-ROMから起動するようになっていると、CD/DVDからブートすることができます。

トラックイメージ

トラックイメージとは、メディアに書き込む実データをひとつのファイルにしたものです。WinCDRでは、ISO 9660形式のCD-ROM作成の際にISO 9660トラックイメージを保存することができる他、[ツール] メニューの [ISO9660イメージ作成] を利用して、ウェルに配置したデータをISO 9660トラックイメージとして保存することもできます。

ISO 9660に準拠しない独自のデータでも、トラックイメージを用意できれば、WinCDRでメディアに書き込むことは可能です。ただし、トラックイメージは元データの形式を問わずウェルに配置して書き込むことができってしまうため、そのトラックイメージの元となったデータが何であったかを把握せずにCDを作成してしまうと、まったく利用できないCDになってしまう可能性があるので注意が必要です。

Note 書き込みを始める前に [データ設定] ダイアログ-[トラックイメージ]パネルの [イメージタイプ] を、書き込むトラックイメージの種類に応じて変更してください。

チェック

- レコーダは正しく接続されていますか？
- WinCDR以外のソフトは終了していますか？
- スクリーンセーバーは切っていますか？
- 環境設定は済んでいますか？

必要なもの

- 新規のメディア
- トラックイメージ

トラックイメージを用意する

メディアに書き込むISO 9660トラックイメージをハードディスクに用意します。WinCDRでトラックイメージを作成する場合は以下の手順で作成してください。

Note ISO 9660トラックイメージの作成は、保存先（ハードディスクなど）に十分な空きがあることを確認してから行ってください。

1. エクスプローラあるいはデスクトップから、ウェルにISO 9660トラックイメージにしたいデータをドラッグします。

Note ウェルに配置されたデータは、ドラッグで順番を入れ替えられます。必要に応じて移動してください

Note ウェル上でデータの配置、名前の変更、削除を行っても、オリジナルデータに影響はありません。

2. [ツール] から [ISO9660トラックイメージ作成] ボタンをクリックします。
3. [名前を付けて保存] ダイアログが開きます。ファイル名を付けて、保存する場所を指定して [保存] ボタンをクリックしてください。ISO 9660トラックイメージが作成されます。



4. [ISO9660イメージ作成が完了しました] と表示されたら、[完了] ボタンをクリックしてください。

トラックイメージからCDを作成する

作成したトラックイメージ、あるいはあらかじめ用意したトラックイメージからCDを作成します。

1. レコーダに新規のメディアを挿入します。
2. [ランチャタブ]の[CDの作成]から[トラックイメージからCDの作成]ボタンをクリックします。
3. エクスプローラあるいはデスクトップから、ウェルにトラックイメージをドラッグします。
 - Note** ウェルに配置されたトラックイメージは、ドラッグして順番を入れ替えられます。必要に応じて移動してください。
 - Note** トラックイメージのファイル名は変更できません。
 - Note** ウェル上のトラックイメージアイコンを右クリックすると、1トラック単位でトラックイメージ設定を行うことができます。
 - Note** 複数のトラックイメージを配置する場合は、トラックイメージの内容をよくご理解の上で行ってください。
4. 準備ができたなら[書き込み]ボタンをクリックしてください。
5. [レコーディング]パネルが表示されますので、必要に応じて設定し、[実行]ボタンをクリックしてください。書き込みが始まります。

Note トラックイメージは、第2セッション以降に追記することはできません。トラックイメージは新品のメディアにのみ書き込めます。

利用

できあがったCDは、書き込むトラックイメージの種類により変わります。利用方法もそれに応じて異なります。

RWメディアの消去

RWメディアに書き込まれているデータを消去します。

Note 消去作業は中断できません。

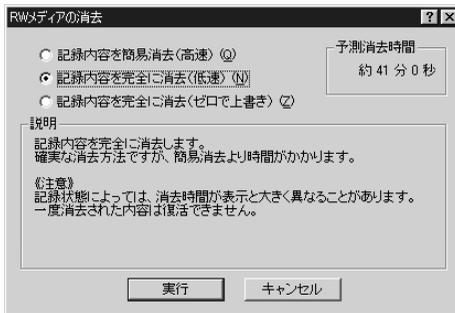
Note 一度消去したデータは復活できません。重要なデータを誤って消去しないよう、十分にご注意ください。

Note 1枚のCD-RW/DVD-RW/DVD+RWの消去可能回数は約1000回です。消去に繰り返し失敗するようであれば、新しいメディアをご利用ください。

1. CD-RW/DVD-RW/DVD+RWをレコーダに挿入して、[ランチャタブ]の[ツール]から[RWメディアの消去]を選択します。

Note 書き込み済みのメディアをレコーダに挿入すると、セッションのロードを確認するダイアログが表示されますが、大量のデータを書き込んだメディアはセッションのロードに時間を要します。メディアを消去する場合はセッションをロードする必要はありませんので、[いいえ]を選択することをお勧めします。

2. [RWメディアの消去]ダイアログが表示されます。消去方法を選択し、[実行]ボタンをクリックしてください。消去がスタートします。



記録内容を簡易消去（高速）: メディアに書き込まれているデータの目次部分を消去するなどの方でデータを消去するため、完全消去よりも高速な消去が可能です。消去に要する時間は、データの内容、メディアの種類、メディアの状態、レコーダにより異なります。また、消去動作の詳細はレコーダにより異なります。

記録内容を完全に消去（低速）: メディアに書き込まれているデータをすべて消去します。データを確実に消去したい場合に使用します。消去に要する時間は、データの内容、メディアの種類、メディアの状態、レコーダにより異なります。また、消去動作の詳細はレコーダによって異なります。

記録内容を完全に消去（ゼロで上書き）: DVD+RWメディア使用時にのみ表示されます。メディアの書き込み済みの領域をゼロで上書きして消去しますので、[記録内容を完全に消去（低速）]よりも、より確実に消去します。

Note [予測消去時間]に表示される時間はあくまでも目安です。データの内容、メディアの状態によっては、表示時間と実際の所要時間が大きく異なる場合もあります。

3. 消去が終了すると、終了を知らせるダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックして終了してください。

リペア

WinCDRは、書き込みに失敗したメディア（CD-R）でも、失敗部分を論理上（見かけ上）消去することにより、残った未使用領域を再利用可能にします。

また、追記（マルチセッション）の際に書き込みに失敗した場合は、失敗以前の正常なセッションをリペア機能によって読み出せるようにすることができます。

- Note** CD-Rをリペアするには、対応したレコーダが必要です。
- Note** ディスクアットワンスでの書き込みに失敗したCD-Rはリペアできません。
- Note** リペアされたメディアは、ISO 9660形式のデータ書き込みにのみ対応となります。
- Note** 書き込み失敗の箇所によってはリペアできない場合もあります。ご了承ください。
- Note** 正常に書き込まれたメディアもリペアできますが、以前に書き込まれたデータは読み込めなくなります。ご注意ください。

1. 書き込みに失敗したCD-Rをレコーダに挿入すると、以下のダイアログボックスが開きます。
[OK] をクリックしてください。



2. [ツール] メニューから [CD-Rのリペア] を選択すると、[CD-Rのリペア] ダイアログが表示されます。[次へ] ボタンをクリックしてください。



3. 再利用できるメディアの領域が表示されます。[次へ] ボタンをクリックすると、リペアがスタートします。



4. リペアが終了すると、メディアの空き容量、ボリューム名などの [CDステータス] が表示されます。[完了] ボタンをクリックしてください。



アドオンツールの利用

お使いのコンピュータに以下のアプリケーションがインストールされていると、[ランチャタブ]の[アドオンツール]のボタンがアクティブになり、WinCDRと連携して動きます。アプリケーションの操作については、アプリケーション付属のヘルプ、PDFマニュアルを参照してください。

Note これらのアプリケーションは、WinCDR 7.0には含まれません。

ArcSoft Video Impression™

既存のビデオ、アニメーション、イメージファイルを使って、ビデオファイルの編集や組み合わせを行うことができます。作成したデータはMPEG1形式で保存することができます。また、MPEGファイルを編集したらWinCDRに戻り、VideoCDを作成することができます。

ArcSoft Photo Impression™

スライドショー、フォトアルバム形式のCDが作成できます。また、画像のフォトタッチ機能も備えています。

DVDit!® LE

VideoCD形式のMPEG1ファイルやDVD形式のMPEG2ファイルからDVD形式のCDを作成することができます。

CDラベルプロダクション 2Light

WinCDRで作成したオリジナルCDに貼るラベルを、手軽に作成できます。

CD-R TITLE PRINTER

WinCDRのウェルに登録されたオーディオデータのCD TEXT 情報を元に、ラベル専用のプリンタでタイトルを印字します。

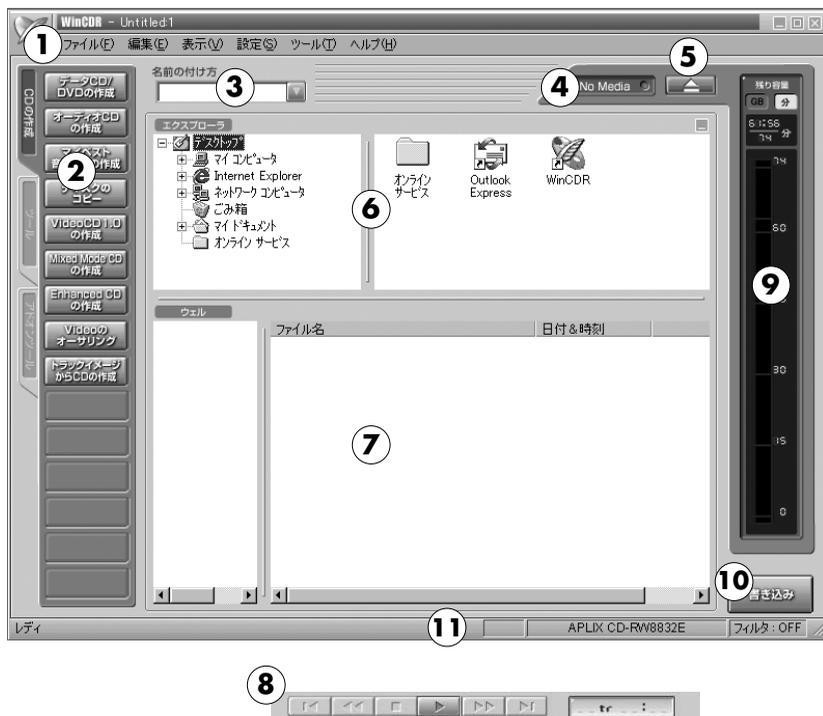
第7部

Appendix

WinGDR[®] 7.0

メインウィンドウ

ここでは、WinCDRのメインウィンドウに配置されているメニューやボタン、アイコン、その他の設定ダイアログなどについて説明します。



メニューバー

各メニューをクリックし、プルダウンメニューからコマンドを選択します。

[ファイル]メニュー

ファイル(F)	編集(E)	表示(V)	設定(S)
新規作成(N)			Ctrl+N
開く(O)...			Ctrl+O
上書き保存(S)			Ctrl+S
名前を付けて保存(S)...			
ディスクの読み込み(O)...			Ctrl+L
トラックイメージ読み込み(O)...			
書き込み(B)			Ctrl+W
イジェクト(E)			
最新のファイル			
アプリケーションの終了(X)			

最新のファイル

最近使用したファイルが4つまで表示されます。

アプリケーションの終了

WinCDRを終了します。

新規作成

新規にCD/DVDを作成する際に選択します。

開く

過去にウェルの状態を保存している場合、その状態を再びウェル上に呼び出します。

上書き保存

現在開いているウェルの状態を上書き保存します。

名前を付けて保存

新規で名前を付けてウェルの状態を保存します。

ディスクの読み込み

レコーダに挿入したメディアのデータを読み込んでウェルに表示します。

トラックイメージ読み込み

トラックイメージの追記が必要な場合にのみ選択します。

書き込み

メディアにデータを書き込みます。

イジェクト

レコーダに挿入されているメディアを排出します。

メインウィンドウが表示されているときは、レコーダのイジェクトボタンを押してもメディアは排出されません。

[編集] メニュー

編集(E)	表示(V)	設定(S)	ツール(T)
切り取り(T)			Ctrl+X
コピー(C)			Ctrl+C
貼り付け(P)			Ctrl+V
削除(D)			Del
曲・トラックを前(B)に移動			Ctrl+<
曲・トラックを後(R)に移動			Ctrl+>
フォルダを挿入(E)...			Ctrl+F
オーディオファイルを挿入(A)...			Ctrl+U
MPEGファイルを挿入(M)...			Ctrl+M
トラックイメージを挿入(I)...			Ctrl+I

□ 切り取り

ウエル上の選択したフォルダやファイルを切り取り、Windowsのクリップボードに保存します。

□ コピー

ウエル上の選択したフォルダやファイルをコピーし、Windowsのクリップボードに保存します。

□ 貼り付け

Windowsのクリップボードに保存されているフォルダやファイルをウエル上に貼り付けます。

□ 削除

ウエル上の選択したフォルダやファイルを削除します。

□ 曲・トラックを前に移動

ウエル上で選択されたWAVE、MP3、WMAファイル、トラックイメージの位置をひとつ前に移動します。

□ 曲・トラックを後ろに移動

ウエル上で選択されたWAVE、MP3、WMAファイル、トラックイメージの位置をひとつ後ろに移動します。

□ フォルダを挿入

CD-ROM/DVD-ROMメディアに書き込みたいデータを選択します。

□ オーディオファイルを挿入

メディアに書き込みたいオーディオデータ(WAVE、MP3、WMAファイル)を選択します。

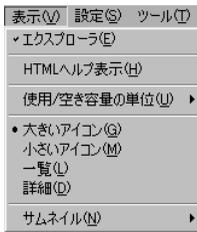
□ MPEGファイルを挿入

メディアに書き込みたいMPEGファイルを選択します。

□ トラックイメージを挿入

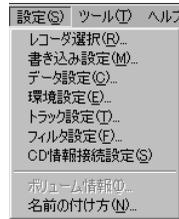
メディアに書き込みたいトラックイメージを選択します。

[表示] メニュー



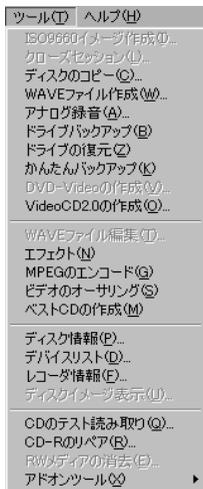
- エクスプローラ**
エクスプローラ領域の表示 / 非表示を切り替えます。
- HTMLヘルプ表示**
メインウィンドウ下部のHTMLヘルプの表示 / 非表示を切り替えます。
- 使用 / 空き容量の単位**
ディスクマップの表示単位をバイト / 時間で切り替えます。
- 大きいアイコン**
エクスプローラ、ウェル上のフォルダやファイルを大きいアイコンで表示します
- 小さいアイコン**
エクスプローラ、ウェル上のフォルダやファイルを小さいアイコンで表示します。
- 一覧**
エクスプローラ、ウェル上のフォルダやファイルを一覧で表示します。
- 詳細**
エクスプローラ、ウェル上のフォルダやファイルの詳細情報を一覧に付けて表示します。
- サムネイル**
ウェル上のグラフィックファイル (JPEG、BMP形式) をサムネイル表示します。毎回ファイルを開ける手間を省きます。QuickTime がインストールされている場合には GIF等QuickTime がサポートしている形式がサムネイル表示できます。

[設定] メニュー



- レコーダ選択**
[レコーダ選択] ダイアログを表示します。
- 書き込み設定**
[書き込み設定] ダイアログを表示します。
- データ設定**
[データ設定] ダイアログを表示します。
- 環境設定**
[環境設定] ダイアログを表示します。
- トラック設定**
ウェル上で選択されているWAVE、MP3、WMAファイルおよびトラックイメージアイコンの設定を変更します。
- フィルタ設定**
[フィルタ設定] ダイアログが開き、ウェル上に配置しようとしているファイルを拡張子で識別して、除外 / 選択することができます。
- CD情報接続設定**
インターネット上の曲情報データベースに接続するための設定をします。
- ボリューム情報**
ISO 9660形式のCD-ROMを作成する際、ボリューム名や日付 / 時刻などが設定できません。
- 名前の付け方**
メディアに書き込むフォルダやファイルの名前を付ける際の互換性を設定します。

[ツール] メニュー



□ ISO 9660 イメージ作成

ウェル上に登録されたフォルダやファイルをISO 9660トラックイメージファイルに変換して保存します。

□ クローズセッション

クローズセッションしていないメディアのクローズセッションを行います。

□ ディスクのコピー

CD-ROMや音楽CD、DVD-ROMなどを複製します。

重要： 市販の音楽CD等を、著作者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は著作権法上禁じられています。

重要： DVD-Video など著作権保護信号が書き込まれているDVDは、複製できません。

重要： CD-ROM/DVD-ROM で供給されるソフトウェアについて、保存または管理を目的として複製を作成する場合は、各ソフトウェアに付属の使用許諾条項などで、複製の作成が許諾されていることを必ずご確認ください。

□ WAVEファイル作成

音楽CDの曲データからWAVEファイルを作成します。

□ アナログ録音

[アナログ録音] ダイアログを表示します。アナログ音源から WAVE ファイルや音楽CDを作成することができます。

□ ドライブバックアップ

お使いの内蔵ハードディスク(パーティション)をバックアップして、CD/DVDに保存します。

□ ドライブの復元

ドライブバックアップで保存されたバックアップイメージをハードディスク上に復元します。

□ かんたんバックアップ

指定した条件で検索したファイルを、メディアにバックアップします。

□ DVD-Videoの作成

ハードディスク内の DVD イメージから、DVD-Videoを作成します。

□ Video CD 2.0の作成

ハードディスク内のVideoイメージのフォルダから、Video CDを作成します。

□ WAVEファイル編集

音楽CDから作成したWAVEファイルやアナログ録音機能から作成されたWAVEファイルを、トラックで分割したりノイズゲートなどの編集を加えることができます。

□ エフェクト

オーディオトラック全体にエコー、コーラス、リバーブなどの効果をかけます。

この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。

□ MPEGのエンコード

Media Encoderを起動します。

この機能は、WinCD7.0 SEでは、一部の機能のみお使いになれます。

この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。

ビデオのオーサリング

Authoring Toolを起動します。

この機能は、WinCDR 7.0 SEでは、一部の機能のみお使いになれます。

この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。

ベストCDの作成

複数の音楽CDから曲を集めてオリジナルの音楽CDを作ります。

重要：市販の音楽CD等を著作権者の許諾なく複製することは、個人的に楽しむなどの他は、著作権法上、禁じられています。

ディスク情報

メディアに現在書き込まれている情報を表示します。

デバイスリスト

接続されているデバイスを表示します。

レコーダ情報

レコーダの情報を表示します。

ディスクイメージ表示

ディスクイメージを表示します。

CDのテスト読み取り

ディスクの状態を調べます。

CD-Rのリペア

ISO 9660形式で書き込まれているデータのリペア（修復）を行います。また、書き込み途中でエラーの発生したCD-Rの残り領域を再利用できるようにします。

リペアしたCD-Rは、ISO 9660形式でのみ再利用できます。

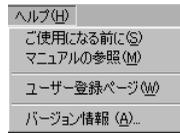
RWメディアの消去

書き込み済みのCD-RW/DVD-RW/DVD+RWのデータを一括消去します。

アドオンツール

アドオンとして使用可能なアプリケーションがインストールされている場合に使用できます。

[ヘルプ] メニュー



ご使用になる前に

WinCDRをインストール後、最初の起動時に表示される「WinCDRを快適にご利用いただくために」を表示します。

マニュアルの参照

PDF形式のマニュアルを別ウィンドウに表示します。

ユーザー登録ページ

株式会社アプックスのユーザー登録ページにアクセスします。

Note コンピュータに WWW ブラウザがインストールされ、インターネットに接続できる状態になっている必要があります。

バージョン情報

WinCDRのバージョン、登録ユーザー名、シリアル番号が表示されます。

ランチャタブ

各機能ごとに、ボタンを配置しています。タブを切り替え、ボタンをクリックして選択します。

CDの作成タブ

- データCD/DVDの作成
ファイルやフォルダを保存するときに選択します。ISO 9660 (CD)、UDF (DVD) で書き込みます。
- オーディオCDの作成
音楽CDを作成するときに選択します。
- マイベスト音楽CDの作成
音楽作成のウィザードを起動します。複数の音楽CDからオリジナルのベストCDを作成するときに選択します。
- ディスクのコピー
CD-ROM、DVD-ROMをコピーするときに選択します。クリックすると[ディスクのコピー]ダイアログが表示されます。
- VideoCD 1.0の作成
VideoCD 1.0 を作成するときに選択します。
- Mixed Mode CDの作成
Mixed Mode CDを作成するときに選択します。
- Videoのオーサリング
Authoring Toolを起動します。
この機能は、WinCDR7.0 SEでは一部の機能のみお使いになれます。
この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。
- トラックイメージからCDの作成
ハードディスクのトラックイメージからCDを作成するときに選択します。

ツールタブ

- MPEGのエンコード
Media Encoderを起動します。
この機能は、WinCDR 7.0 SEでは、一部の機能のみお使いになれます。
この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。
- WAVEファイルの作成
WAVEファイルを作成するときに選択します。クリックすると、WAVEファイル作成ダイアログが表示されます。
- かんたんバックアップ
かんたんバックアップを起動します。
- 波形編集
WAVEファイル編集を起動します。
- アナログ録音
アナログ録音を起動します。アナログ音源からWAVEファイルや音楽CDを作成することができます。
- ドライブバックアップ
ハードディスクをバックアップするときに選択します。
- ドライブの復元
ドライブバックアップでバックアップしたCD/DVDから、データをハードディスクに復元します。
- クローズセッション
CDのセッションを閉じます。
- RWメディア消去
CD-RW/DVD-RW/DVD+RW のデータを消去します。
- エフェクト
WAVEファイル全体にボリュームの変更、リバーブ、コーラスなどの効果をかけます。
この機能は、Windows NT 4.0ではお使いになれません。

アドオンツールタブ

Photo Impression

Photo Impressionを起動します。

お使いのマシンに、Photo Impression
がインストールされていないと使用でき
ません。

Video Impression

Video Impressionを起動します。

お使いのマシンに、Video Impression
がインストールされていないと使用でき
ません。

DVDit!

DVDit!LEを起動します。

お使いのマシンに、DVDit!LE がインス
トールされていないと使用できません。

CDラベルプロダクション2Light

CDラベルプロダクション2Lightを起動し
ます。

お使いのマシンに、CDラベルプロダク
ション2Lightがインストールされてい
ないと使用できません。

CD-R TITLE PRINTER

CD-R TITLE PRINTERを起動します。

お使いのマシンに、CD-R TITLE
PRINTERがインストールされてい
ないと使用できません。

名前の付け方

ISO 9660 Level1、ISO 9660 Level2、MS-DOS (Windows 3.1)、Windows NT3.5x、Windows、Joliet、UDF (DVD) から選択することができます。

ディスクの種類

レコーダに挿入されているメディアの種類を表示します。メディアが挿入されていないときは、「No Media」と表示されます。

イジェクト

レコーダに挿入されているメディアを排出します。メインウィンドウが表示されているときは、レコーダのイジェクトボタンを押してもメディアは排出されません。

エクスプローラ

ハードディスクにあるフォルダやファイルを表示します。左側の領域でボリュームやフォルダを選択すると、右側の領域にファイルやフォルダが表示されます。ここからメディアに記録するフォルダやファイルを選択して、下のウェルにドラッグして登録します。

ウェル

メディアに記録するフォルダやファイルをドラッグして登録する領域です。CD-ROM や DVD-ROM の作成の場合はフォルダやファイル、音楽CDの作成の場合はWAVEファイルやMP3ファイル、WMAファイルなどをドラッグします。

オーディオコントローラ

音楽CD、Enhanced CD、Mixed Mode CD を作成するとき、ウェルの下部に表示されます。ウェルに配置したオーディオトラックを再生します。

ディスクマップ

メディアの内容を分単位またはバイト単位で表します ([表示] メニューの [使用 / 空き容量の単位] で変更できます)。DVD のマップ表示はバイト単位のみです。

書き込みボタン

ウェルに登録したファイルを書き込みます。

ステータスバー

WinCDRのステータス(状態)を表示します。

ダイアログウインドウ

[レコーダ選択] ダイアログ

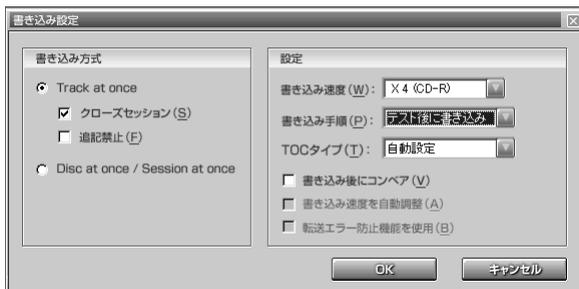
[設定]メニュー [レコーダ選択]



書き込みを行うレコーダを選択します。接続されているレコーダを選択して [OK] ボタンをクリックしてください。[仮想レコーダ] は、書き込みの練習を行うときに使用します。メディアに対して実際の書き込みは行われません。

[書き込み設定] ダイアログ

[設定]メニュー [書き込み設定]



Track at once

トラックアットワンスで書き込みを行うときに選択します。

クローズセッション

チェックしておく、書き込むトラック(データ)の最初にリードイン、最後にリードアウトというデータを付加して、クローズセッションします。

クローズセッションをしていないメディアは、一般のCD-ROMドライブでは読み出せません。

追記禁止

チェックしておく、クローズセッションした後、そのメディアに対しての追記ができなくなります。

[クローズセッション] をチェックしていない場合は選択できません。

Disc at once/Session at once

ディスクアットワンスまたはセッションアットワンスで書き込みを行うときに選択します。

[Disc at once/Session at once] が選択されているとき、セッションアットワンスで書き込まれるのは、Enhanced CDを作成するときのみです。それ以外の種類のCDを作成するときは、ディスクアットワンスで書き込まれます。

Note DVD-R/DVD-RW/DVD+Rへの書き込みはディスクアットワンスのみです。追記することはできません。

DVD+RWには、書き込み方式の指定はありません。追記禁止にすることはできません。

TOCタイプ

クローズセッションする際に、リードインに記録されるTOC(Table of Contents : トラックの情報)のタイプを選択します。

通常は [自動設定] を選択しておきます。

書き込み速度

書き込み速度を選択します。

書き込み手順

テスト後に書き込み

テストが正常に終了した場合、連続してメディアへの実際の書き込みが開始されます。

テストのみ

メディアに書き込みを行う前に、データの転送やエンコードなどをシミュレートします。メディアへの書き込みが行われない以外は実際の書き込みと同じ手順で行われます。

書き込みのみ

テストを行わず、メディアへの書き込みを開始します。

書き込み後にコンペア

ISO 9660形式のデータを書き込む際、書き込み前にハードディスクに生成されたイメージデータと、メディアに記録されたデータの比較を行います。データに差異があった場合は、[アラート]ダイアログでお知らせします。

以下の場合には選択できません。

[テストのみ]の場合

ISO 9660の[オンザフライ書き込み]の場合

[Disc at once]の場合

ISO 9660のイメージタイプに[CD-ROM Mode2]を選択している場合

転送エラー防止機能を使用

チェックすると、Buffer Under Run防止機能が働きます。

Note Buffer Under Run防止機能対応レコーダをお使いの場合に設定できます。

書き込み速度を自動調整

チェックすると、書き込み速度最適化機能が働きます。

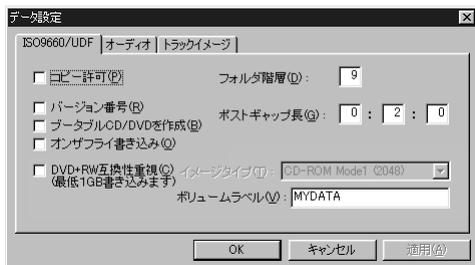
Note 書き込み速度最適化機能対応レコーダをお使いの場合に設定できます。

Note チェックを外した場合、メディアによって、書き込みに失敗する場合があります。

[データ設定] ダイアログ

[設定] メニュー [データ設定]

ISO 9660/UDFパネル



コピー許可

メディアに書き込むデータのデジタルコピーを許可するか否かを選択します。属性を指定するだけで、データにプロテクトをかけるものではありません。

バージョン番号

チェックすると、ファイル名にバージョン番号を付加します。通常はバージョン番号を除いた形で表示されますが、一部のOSではバージョン番号を付けたまま表示してしまうものがありますのでご注意ください。

ブータブルCD/DVDを作成

ブータブルCD/DVDを作成する際にチェックします。

オンザフライ書き込み

ISO 9660形式のCD-ROMを作成する際、イメージデータの作成を行わず、直接メディアにデータを書き込みます。イメージを作成しないので時間は短くなりますが、書き込むデータやシステムの状態によっては、データ転送が間に合わず、書き込みに失敗することがあります。

フォルダ階層

フォルダの階層制限を設定できます。デフォルトでは9階層になっています。9階層以上を読みこめないIOSがありますので、書き込むOS以外とのやり取りを行う場合には変更を加えてください。

ポストギャップ長

データトラックの末尾に挿入される領域の長さを指定します。指定された領域はゼロ (ヌルデータ) で埋められます。

ISO 9660のポストギャップ長には任意の長さを設定できますが、一般的にWinCDRのデフォルト値である2秒が採用されています。マスタリング工場などにディスクを出す場合でもこのままで通用します。特段の事情がない場合は、デフォルトのままでお使いください。

DVD+RW互換性重視

DVD+RWに1GBに満たないデータを書き込む際、データのみ書き込むかどうかを選択します。クリアすると実データのみ書き込みます。ドライブによっては、書き込んだデータを利用できない場合があります。

チェックすると、DVD規格に準じ、実データと、1GBに達するまでダミーデータを書き込みます。実データのみ書き込んだディスクを利用できない場合はチェックしてください。

□ イメージタイプ

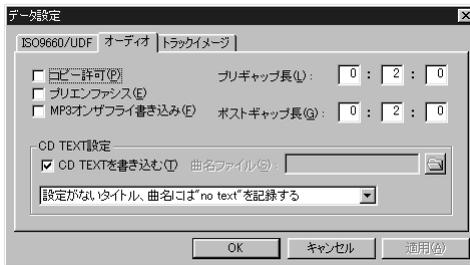
CD-ROM Mode1 (2048)、CD-ROM XA Mode2 (2336) から選択できます。ISO 9660 のイメージタイプは、CD-ROM Mode1 がもっとも普及しています。

特段の事情がない場合は、デフォルトのままでお使いください。

□ ボリュームラベル

ISO 9660/UDF ディスクの作成時にデフォルトで入力されるボリューム名を指定します。設定のデフォルトはMYDATAです。

オーディオパネル



□ コピー許可

メディアに書き込むデータのデジタルコピーを許可するか否かを選択します。

属性を指定するだけで、データにプロテクトをかけるものではありません。

□ プリエンファシス

プリエンファシスとは、オーディオの録音時に高域を強調する記録方式です。プリエンファシス付きのデータを書き込むときにチェックします。

□ MP3 オンザフライ書き込み

MP3 ファイルを CD にオンザフライで書き込む際にチェックします。

MP3 ファイルのデータはオーディオ CD の記録に使われている PCM データを圧縮して作られています。この MP3 オンザフライ指定で、解凍しながら書か、それとも MP3 ファイルをいったんハードディスクに PCM データファイルとして解凍してから書かかを選択します。

□ プリギャップ長

データトラックの先頭に挿入される無音領域の長さを指定します。

ディスクアットワンスで書き込みを行う場合のみ指定できます。

□ ポストギャップ長

データトラックの末尾に挿入される無音領域の長さを指定します。

□ CD TEXT 設定

お使いのレコーダが CD TEXT 対応機種の場合には曲名情報などを含むデータを同時にメディアに書き込むことができます。情報を、日本語 / 英語のどちらか一方を選択するか、または両方を

選択することができます。また、あらかじめ用意した曲名ファイルを利用して、CD TEXTを作ることもできます。

Note [書き込み設定] ダイアログで、ディスクアットワンスが選択されていないと表示されません。

Note レコーダがCD TEXTに対応していない場合は表示されません。

Note レコーダが日本語に対応していないければ日本語表示はできません。

トラックイメージパネル

トラックイメージパネルは、作成するCDの標準設定を変更します。ウェルにすでに配置した個々のトラックの設定変更は、[設定]-[トラック設定]を使用します。



コピー許可

メディアに書き込むデータのデジタルコピーを許可するか否かを選択します。属性を指定するだけで、データにプロテクトをかけるものではありません。

プリエンファシス

プリエンファシスとは、オーディオの録音時に高域を強調する記録方式です。プリエンファシス付きのデータを書き込むときにチェックします。

4ch

4chモードを使用する場合にチェックします。

データ

トラックがデータトラックの場合にチェックします。

プリギャップ長

データトラックの先頭に挿入される領域の長さを指定します。ディスクアットワンスで書き込みを行う場合のみ指定できます。

ポストギャップ長

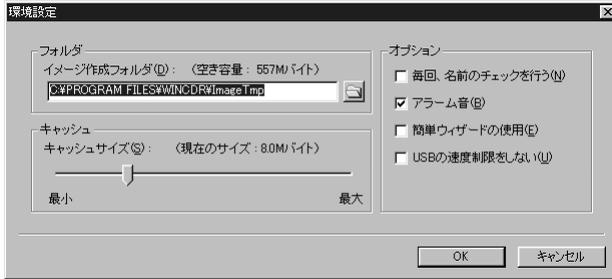
データトラックの末尾に挿入される領域の長さを指定します。

イメージタイプ

[CD-ROM Mode1][CD-DA][CD-ROM XA Mode2][CD-I]の4タイプから選択できます。

[環境設定] ダイアログ

[設定] メニュー [環境設定]



□ イメージ作成フォルダ

ISO 9660形式のCD-ROMを作成する際に作られるイメージデータや、CD-ROM/DVD-ROMをコピーする際に作成されるイメージデータが一時的に格納されます。また、WinCDRが作業中に生成する一時的なファイルも格納されます。

デフォルトではWinCDRをインストールしたフォルダが指定されています。1GB以上の空き容量があるボリュームのフォルダを指定してください。フォルダを変更する場合は右横のボタンをクリックします。

DVD-ROMを作成したりコピーする場合は、5GB以上の空きがあるドライブのフォルダを指定してください。

□ 毎回、名前のチェックを行う

チェックしておく、書き込むデータの名前が [名前の付け方] ダイアログでの設定に合致しているかを、ウェルにデータを配置するたびにチェックします。

クリアされていると、設定を変更したときや、メディアに書き込む時点でチェックします。

□ アラーム音

チェックしておく、書き込み準備の作業終了時、書き込み終了時、エラー発生時にアラーム音を鳴らします。

□ USBの速度制限をしない

USB2.0で接続している場合は、チェックすると、USBの速度制限が解除されます。

□ 簡単ウィザードの使用

チェックすると、ウィザード形式でCDの作成を開始する「簡単ウィザード」が使用できるようになります。簡単ウィザードは、チェックされている状態で、新しいCDを作成するとき（新規作成コマンド実行時や、WinCDRの起動時）に起動します。

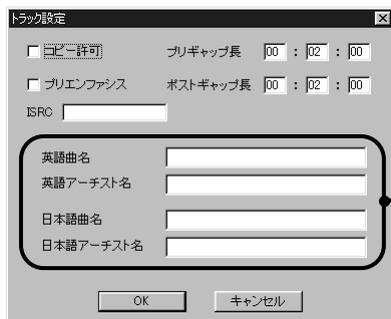
□ キャッシュサイズ

書き込み時のキャッシュサイズを設定します。

[トラック設定] ダイアログ

[設定] [トラック設定]

ウェルに配置されている個々のトラックに対しての設定を行います。ウェル上でトラックを選択し、右クリックして表示される「トラック設定」と同じ機能です。



[書き込み設定] ダイアログで [Disc at once] が選択されていないと、この部分は表示されません。

Note ウェル上でオーディオトラックを選択していないと、コマンドが選択できません。

Note [書き込み設定] ダイアログでディスクアットワンスを選択し、[データ設定]-[オーディオ] パネルで、[CD TEXTを書き込む] がチェックされていない場合、[トラック設定] ダイアログ下部のCD TEXTの情報入力部分が表示されません。

コピー許可

メディアに書き込むデータのデジタルコピーを許可するか否かを選択します。属性を指定するだけで、データにプロテクトをかけるものではありません。

プリエンファシス

プリエンファシスとは、オーディオの録音時に高域を強調する記録方式です。プリエンファシス付きのデータを書き込むときにチェックします。

ISRC

International Standard Recording Cordの略称で、オーディオCDのトラックごとに付ける曲コードを入力できます。文字数は半角12文字で、最初の5文字は大文字のA～Zまたは数字0～9、残り7文字は数字0～9を使用します。個人で楽しむCDの場合は必要ありません。

プリギャップ長

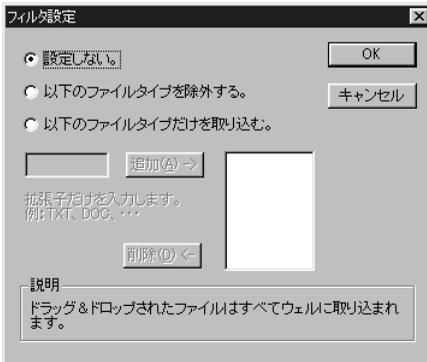
データトラックの先頭に挿入される領域です。デフォルトでは2秒に設定されています。ディスクアットワンスで書き込みを行う場合のみ指定できます。

ポストギャップ長

データトラックの末尾に挿入される領域です。デフォルトでは2秒に設定されています。

[フィルタ設定] ダイアログ

[設定] [フィルタ設定]



ISO 9660 (CD) /UDF (DVD) 書き込みの際に書き込まれる、ファイルの種類を制限することができます。[以下のファイルタイプを除外する。]にチェックし、[追加]ボタン左にあるテキストボックスに、ファイルの拡張子(txt、exe、dllなど)を入力して[追加]ボタンをクリックします。[OK]をクリックすると、入力した拡張子を含むファイルは、ウェルに配置するときに除外されます。[以下のファイルタイプだけを取り込む。]にチェックをすると、その拡張子を含むファイルだけが選別して配置されます。

Note ISO 9660形式のCD-ROM、UDF形式のDVD-ROM作成時のみ有効です。

Note 拡張子は複数指定できます。

[名前の付け方] ダイアログ

[設定] [名前の付け方]



ISO 9660/UDFで書き込みをしたメディアを利用する際、ISOやUDFの規格、OSの制限などにより、ファイル名の付け方に決まりがあります。これを守らなかった場合、名前が正しく表示されなかったり、データそのものが読み込めない場合があります。

メインウィンドウでファイルをウェルに配置するときなど、[名前の付け方] ダイアログで選択した規格に合致しないファイル名があると、[名前規則違反のファイル名] ダイアログが表示され、名前の修正を促されます。

Note DVD メディアがレコーダに挿入されている場合は、自動的に [名前の付け方] が UDF (DVD) に設定されます。変更することはできません。

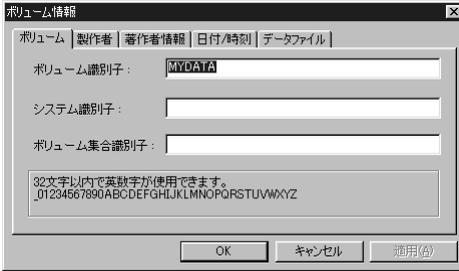
Note 次の文字は、ファイル名、フォルダ名に使用できません (すべて半角)。
 ¥ / : ; * ? " < > | ,

ボリューム情報

[設定] [ボリューム情報]

個人として楽しむCD-ROM/DVD-ROMを作成する場合は、ボリューム識別子(ディスクに付ける名前)以外は特に情報を編集する必要はありません。

ボリュームパネル



Note [ランチャタブ]の[CDの作成]から[データCD/DVDの作成]が選択されていないと、[ボリューム情報]コマンドが選択できません。

ボリューム識別子

ドライブに挿入した際に表示されるCD-ROM/DVD-ROMの名前です。

デフォルト : MYDATA

重要度 : 必須

システム識別子

システムファイルを使用するシステム名を記入します。

デフォルト : 空文字列(全バイトを空白文字(20)に設定)

重要度 : 任意

ボリューム集合識別子

ボリュームセット名を記入します。

デフォルト : 空文字列

重要度 : 任意

製作者パネル



❑ 出版者識別子

作成するCD-ROMの発行者の名称・氏名を入力します。

デフォルト : 空文字列

重要度 : 任意

❑ データ編集者識別子

CD-ROMの作成に用いた編集ソフトウェアの名前やメーカー名を記入します。

デフォルト : APLIX CORPORATION

重要度 : 任意

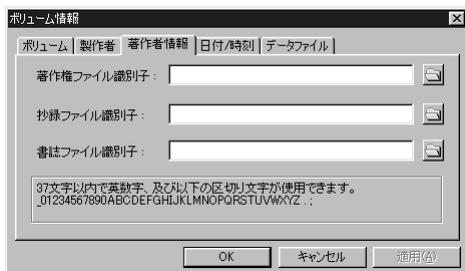
❑ 応用システム識別子

応用システム識別子は作成するCD-ROMのデータ記録方式の仕様の名前を入力します。

デフォルト : 空文字列

重要度 : 任意

著作者情報パネル



❑ 著作権ファイル識別子

著作権ファイル識別子は著作権に関する記述を含むファイル名を入力します。ボタンを押せばファイル選択ダイアログが現れます。このファイルは作成するCD-ROMのルートディレクトリに置かなければなりません。記入の際、ファイル名の終端はピリオド(.)で区切り、拡張子の後はセミコロン(;)で区切り、その後ろにバージョン番号を記入します。

デフォルト : 空文字列

重要度 : 任意

書式 : filename.(extension);version_number

例 : FILE1.;1、FILE1.TXT;1

□ 抄録ファイル識別子

抄録ファイル識別子は抄録に関する記述を含むファイルの名前を入力します。ボタンを押せばファイル選択ダイアログが現れます。このファイルは作成するCD-ROMのルートディレクトリに置かなければなりません。記入の際、ファイル名の終端はピリオド(.)で区切り、拡張子の後はセミコロン(;)で区切り、その後ろにバージョン番号を記入します。

デフォルト : 空文字列

重要度 : 任意

書式 : filename.(extension);version_number

例 : FILE1.;1、FILE1.TXT;1

□ 書誌ファイル識別子

書誌ファイル識別子は書誌レコードを含むファイルの名前を入力します。ボタンを押せばファイル選択ダイアログが現れます。このファイルは作成するCD-ROMのルートディレクトリに置かなければなりません。記入の際、ファイル名の終端はピリオド(.)で区切り、拡張子の後はセミコロン(;)で区切り、その後ろにバージョン番号を記入します。

デフォルト空文字列

重要度 : 任意

書式 : filename.(extension);version_number

例 : FILE1.;1、FILE1.TXT;1

日付/時刻パネル



ここで、「自動生成」というチェックボックスがチェックされていればホストマシンの時計から自動的に日時を取得して、「作成日時」と「更新日時」フィールドに記入します。

□ 作成日時

作成日時を入力します。

デフォルト : 自動生成

重要度 : 必須

□ 更新日時

CD-ROMの内容などに、最後に変更を加えた日時を入力します。

デフォルト : 自動生成

重要度 : 必須

□ 発効日時

このディスク上の情報が有効になる日時を入力します。

デフォルト : 全欄 0

重要度 : 任意

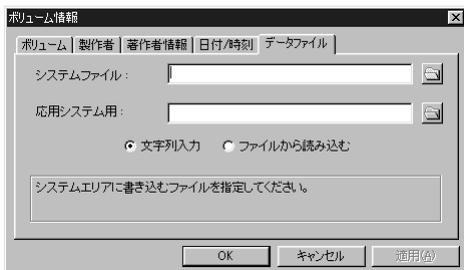
□ 失効日時

このディスクの有効期限を入力します。

デフォルト : 全欄 0

重要度 : 任意

データファイルパネル



□ システムファイル

「システムファイル」フィールドの横のボタンをクリックすると、ファイルオープンダイアログが開きます。記録するシステムファイルをフルパス(絶対パス名)で記入してください。指定したファイルの内容が、論理セクタ0 ~ 15 に格納されます。指定できるファイルの長さは32768バイトまでです。短い場合には余った部分に(00)が埋められ、長い場合にはエラーになります。

デフォルト : 無指定(全バイトを(00)に設定)

重要度 : 任意(ターゲットシステムによる)

□ 応用システム用

アプリケーションが使用する文字列を入力します。ラジオボタンで「文字列入力」を選択すると、カーソルが自動的に入力フィールドに移動しテキストカーソルになります。「ファイルから読み込み」を選択するとオープンボタンが使用可能になり、ファイルオープンダイアログを開くことができます。ファイル名を選択した場合は、そのファイルの内容が格納されます。

デフォルト : 無指定(全バイトを(00)に設定)

重要度 : 任意(ターゲットシステムによる)

困ったときは

1

マニュアルを読み直してみましょう。

2

このマニュアルのトラブルシューティングをご覧ください。

3

サポートサービス
webのセルフサポートを利用します。
<http://www.aplix.co.jp/cs/support/>

90日間無償電話/FAXサポートサービスが提供されている場合、お電話またはFAXによるサポートもご利用いただけます。

トラブルシューティング

ここでは、本製品を使用する際に陥りやすいトラブルと、想定される原因、その対処方法について解説しています。ユーザーサポートにご連絡をいただく前に、まずご確認ください。

一般的に以下の対処方法で改善されるトラブルもあります。まずはこれらの方法をお試しください。

- ・ インターフェイスが正常に動作しているか確認する。
- ・ インターフェイスのドライバが最新のものであるか確認する。
- ・ レコーダ以外の機器を取り外してみる。
- ・ 他社のレコーディングソフトウェアがインストールされている場合は、アンインストールしてみる。
- ・ コンピュータの省電力機能を切る。
- ・ ハードディスクに対してスキャンディスクとデフラグを行う。
- ・ レコーダの情報を添付のマニュアルやハードウェアメーカーのホームページで確認する。

弊社ホームページのトラブルシューティングもご参照ください。

URL <http://www.aplix.co.jp/cs/support/>

また、WinCDR（プログラム）の「ヘルプ」および「はじめにお読みください」の中にも情報がございますので、こちらもご参照ください。

書き込み前のトラブル

トラブル

インストール時にエラーが発生し、インストールが完了できない。

対処方法

下記対処1～対処6は、順にお試してください。

対処方法1：CD-ROMドライブを変更する

WinCDRのプログラムCDを挿入しているCD-ROMドライブに問題がある場合があります。他のドライブ（CD-ROMドライブ/レコーダ）が使用できる場合は、こちらでお試してください。

対処方法2：テンポラリファイルを削除する

インストール時、インストーラは特定のフォルダに一時ファイルを展開しますが、そこに既に同名のファイルが存在すると、正常に動作しない場合があります。

テンポラリフォルダの中身をすべて削除してから再度インストールを実行してください。

また、Windows 98/2000の場合には、[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[システムツール]-[ディスククリーンアップ]で削除することもできます。表示されるチェックボックスで、削除ファイルに[一時ファイル]を指定してください。

テンポラリフォルダの位置

Windows 98/Meの場合

C:¥Windows¥Temp

Windows NTの場合

C:¥WINNT¥Temp

C:¥temp

Windows 2000の場合

C:¥WINNT¥Temp

C:¥Documents and Settings¥(ログオンユーザー名)¥Local Settings¥Temp

Windows XPの場合

C:¥Windows¥Temp

C:¥Documents and Settings¥(ログオンユーザー名)¥Local Settings¥Temp

「C:¥Windows」または「C:¥WINNT」は標準のWindowsシステムファイルの保存フォルダです。システムによって異なる場合は、適宜別のフォルダを指定してください。

システムによっては該当するフォルダが隠しファイルに設定されている場合がございます。この場合は、エクスプローラの[表示]-[フォルダオプション]または[ツール]-[フォルダ

オプション]の[表示]タブから[すべてのファイルを表示する]のチェックボックスがチェックされているかご確認ください。

対処方法3：ハードディスクにインストールプログラムをコピーする

CD-ROMドライブのデータ転送に問題がある場合、ハードディスク上からセットアップを行うことで回避できる場合があります。WinCDRのプログラムCDの内容をすべてハードディスクにコピーし、ハードディスク内の「setup.exe」をダブルクリックしてインストーラを起動してください。

対処方法4：常駐ソフトを外す

常駐ソフトを起動していると、インストールに失敗することがあります。

[Shift]キーを押しながらWindowsを起動してスタートアップに登録されたソフトウェアの起動を止める、右下のタスクトレイに表示されたアイコンを右クリックして不要なソフトウェアをすべて終了する、などして、常駐ソフトウェアをすべて外してください。

確実に常駐ソフトウェアの起動を停止するには、下記の対処を行ってください。

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行] ダイアログが表示されます。「msconfig」と入力して[OK] ボタンをクリックします。
3. [システム設定ユーティリティ] が起動します。[スタートアップ] タブをクリックしてください。
4. 常駐ソフトのチェックを外します。ただし、下記のファイルはシステムに必要なファイルですので、チェックを外さないようご注意ください。

internat.exe
SystemTray
ScanRegistry
TaskMonitor
LoadPowerProfile (2 つ)
SchedulingAgent

対処方法5：デフラグ・スキャンディスクを実行する

ハードディスクが断片化またはエラー状態が発生している場合、インストールに失敗する可能性が考えられます。

Windows 98/Me

1. [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [スキャンディスク] を行い、ハードディスクをチェックしてください。
2. [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [スキャンディスク] を行い、ハードディスクの断片化を解消 (デフラグ) してからインストールし直してください。

Windows NT

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [スキャンディスク] を行い、ハードディスクをチェックしてからインストールし直してください。

(Windows NTにはOS標準のデフラグ機能はありません)

Windows 2000/XP

1. [マイ コンピュータ] から対象となるドライブ (通常はCドライブ) を右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ] を選択します。
2. [プロパティ] ダイアログでディスクのプロパティを開きます。
3. [ツール] タブを選択し [最適化] を選択しデフラグを行います。
4. [ツール] タブを選択し [エラーチェック] を選択しスキャンディスクを行います。

対処方法6 : CDの読み込みパフォーマンスの設定を確認する

Windows 98/Me環境で、CD-ROMの転送に問題がある場合に、CDの読み込みパフォーマンスを正しく設定することで問題を回避できる可能性があります。

1. [マイ コンピュータ] を右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ] を選択します。
2. [システムのプロパティ] ダイアログが表示されます。[パフォーマンス] タブをクリックし、[詳細設定] - [ファイルシステム] - [CD-ROM] タブを開きます。
3. 追加キャッシュサイズを最小、アクセス方法の最適化を「先読み無し」に設定してください。

トラブル

レコーダの自動検索ができない (WinCDR)

「使用可能なレコーダが接続されていません。Windowsからレコーダが認識されていることを確認してください。起動を中止します。」というメッセージが表示され、起動しない (WinCDR Lite)。

原因

Windows上から正常にレコーダが認識されていない可能性があります。

対処方法

まず、以下の点をご確認ください。

- ・レコーダの電源ケーブルが正しく接続され、電源が入っていること。
- ・レコーダとPCを接続するケーブルが正しく接続されていること。

次にWindows上でレコーダが正しく認識されていることを、以下の手順で確認してください。

Windows 98/Me

1. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ (R)] を選択します。
2. [システムのプロパティ] ダイアログが開いた後、[デバイスマネージャ] タブをクリックしてパネルを表示します。
3. [CD-ROM] をダブルクリックしてCD-ROMの一覧を表示します。

Windows NT

1. [スタート] メニューから [設定] - [コントロールパネル] を開きます。

2. [SCSIアダプタ]を開きます。
3. [デバイス]タブ内に表示されている各SCSIアダプタ左側の[+]印をクリックして接続しているデバイスの一覧を表示してください。

Windows 2000

1. [マイ コンピュータ]アイコンを右クリックすると表示されるメニューから[プロパティ]を選択してください。
2. [システムのプロパティ]が開きますので、[ハードウェア]タブをクリックしてください。
3. [デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
4. [DVD/CD-ROMドライブ]左側の[+]印をクリックして接続しているCD-ROMの一覧を表示してください。

Windows XP

1. [スタート]メニューをクリックし、その中から[マイ コンピュータ]を右クリックすると表示されるメニューから[プロパティ]を選択してください。
2. [システムのプロパティ]が開きますので、[ハードウェア]タブをクリックしてください。
3. [デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
4. [DVD/CD-ROMドライブ]左側の[+]印をクリックして接続しているCD-ROMの一覧を表示してください。

[CD-ROM]の一覧の中で、「CD-R」または「CD-RW」と表示されているデバイスがレコーダとなります。

[CD-ROM]の表示自体がない、または「CD-R」「CD-RW」と表示されているデバイスが存在しない場合は、Windows上でレコーダが正しく認識されていないことが考えられます。

Windows上でレコーダが正しく認識されない場合、WinCDRでレコーダを使用することができません。お使いのレコーダに付属のマニュアルを参照するなどして、Windows上でレコーダが正しく認識されたことを確認してからWinCDRを起動してお試しください。

トラブル

- ・ レコーダ選択画面で、ネットワーク上の他のマシンで共有設定されているレコーダを選択できない。
- ・ ディスクのコピーでネットワーク上の他のマシンで共有設定されているレコーダを選択できない。

原因

WinCDRは、マシンに接続されたレコーダやCD-ROM/DVD-ROMドライブを、インターフェイス(SCSI、IDE、USB、IEEE1394など)を経由して直接制御しています。

これに対し、Windowsのネットワーク機能である「ファイルの共有」は、マシンの「ドライブ」を、ネットワーク上の他のマシンから「ネットワークドライブ」として扱うための機能です。こ

のため、WinCDRIは、共有設定されたネットワークドライブ（レコーダ、CD-ROM/DVD-ROMドライブ）を直接制御することができず、レコーダ選択画面で選択することができません。

対処方法

レコーダ、CD-ROM/DVD-ROMドライブは、コンピュータに直接接続してください。

トラブル

下記の現象が起こる。

1. インストール時に、「標準で組み込まれていたものとは異なるASPIマネージャ (WINASPI) がインストールされています。」と表示された。
2. Windows をアップグレードインストールしたところ、「SCSI マネージャが初期化できません」というメッセージが出るようになった。
3. Windows上からは、正常にレコーダが認識されているが、レコーダの自動検索の際にレコーダが表示されない。
4. Windows上からは、正常にCD-ROMドライブが認識されているが、ディスクのコピーの際にコピー元のCD-ROMドライブが表示されない。

原因

1.

WINASPIのバージョンがWindows標準添付のものとは異なっているために表示されるダイアログです。

2. 3. 4.

WinCDRIは、ATAPI CDレコーダまたはCD-ROMドライブを使用する際、ATAPI対応のWINASPIを必要とします (Windows 標準添付のWINASPIはATAPI対応です)。

アプリケーションによっては、インストール時に WINASPI を入れ替えてしまうものがあり、Windows標準添付以外のWINASPIを使用した際に、上記のような現象が発生する場合があります。

また、他のアプリケーションがすでにASPIマネージャを利用している場合、WinCDRIで利用することができず、上記のような現象が発生する場合があります。競合を解消することで改善する場合もございますので、p.227 の競合に関するトラブルシューティングの記述を参照してください。

それでも解決しない場合は、下記対処をお試しください。

対処方法

Windows 98/Meの場合は、まずPCをセーフモードで起動してください。

セーフモードでPCを起動する手順

1. Windows の起動画面が表示される前に [F8] キーを押し続けます。

2. 起動メニュー画面が表示されますので、カーソルキーで [Safe Mode] を選択し、エンターキーを押します。

以下の手順で、Windowsのシステムディスクから、WINASPI (Winaspi.dll、Wnaspi32.dll、APIX.VXD)を再インストールしてください。

なお、以下の手順は、起動ドライブ (Windowsがインストールされているハードディスク) が C:、CD-ROMドライブが D:、フロッピーディスクドライブが A: として説明します。ドライブの割り当てが異なる場合は、適宜変更してください。また、カレントディレクトリはC:¥として説明します。

1. [スタート] メニューから [プログラム] - [MS-DOSプロンプト] を選択し、MS-DOSプロンプトを起動します。

2. 以下のように入力して、システムディスクから Winaspi.dll、Wnaspi32.dll、APIX.VXD を取り出します。

カレントディレクトリに移動します。

```
C:¥WINDOWS> cd ¥
```

A.システムディスクがCD-ROMの場合

システムディスクをCD-ROMドライブにセットします。

• Windows98

```
C:¥> extract /a /e D:¥win98¥win98_23.cab winaspi.dll
```

```
C:¥> extract /a /e D:¥win98¥win98_23.cab wnaspi32.dll
```

```
C:¥> extract /a /e D:¥win98¥win98_23.cab apix.vxd
```

• WindowsMe

```
C:¥> extract /a /e D:¥win9x¥win_19.cab winaspi.dll
```

```
C:¥> extract /a /e D:¥win9x¥win_19.cab wnaspi32.dll
```

```
C:¥> extract /a /e D:¥win9x¥win_24.cab apix.vxd
```

B.システムディスクが付属していない(プリインストールモデル)の場合

• Windows98

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_47.cab winaspi.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_47.cab wnaspi32.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_58.cab apix.vxd
```

• Windows98SecondEdition

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_54.cab winaspi.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_54.cab wnaspi32.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥cabs¥win98_67.cab apix.vxd
```

・ Windows Me

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥install¥win_19.cab winaspi.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥install¥win_19.cab wnaspi32.dll
```

```
C:¥> extract /a /e C:¥windows¥options¥install¥win_24.cab apix.vxd
```

次に、取り出した3つのファイルを所定のディレクトリに移動します。

```
C:¥> move winaspi.dll C:¥windows¥system
```

```
C:¥> move wnaspi32.dll C:¥windows¥system
```

```
C:¥> move apix.vxd C:¥windows¥system¥iosubsys
```

以上で再インストールは完了です。

また、Windows 98/Meの場合は、システムツールを使用して作業することもできます。

Windows 98の場合

1. Windows上で [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [ファイル名を指定して実行] ダイアログが開きますので、「 sfc 」と入力し [OK] ボタンをクリックしてください。
3. システムファイルチェッカーが起動します。 [インストールディスクからファイルを1つ抽出する] を選び [winaspi.dll] と入力し、 [開始] ボタンをクリックします。
4. [ファイルの抽出] ダイアログが表示されます。CD-ROMドライブにWindowsのCDを挿入し、復元元とファイルの保存先を次のように指定し [OK] をクリックしてください。
復元元：CD-ROMドライブの「 win98 」フォルダ (例 D:¥WIN98)
(WindowsのCDがない場合は、「 C:¥windows¥options¥install」、または、
" C:¥windows¥options¥cabs" を指定してください)
ファイルの保存先： C:¥WINDOWS¥SYSTEM
システムを上書きする前に、現在のシステムファイルを保存するか確認するメッセージが表示されます。必要な場合は保存先を指定してください。
5. 同様に、「 wnaspi32.dll 」も抽出します。手順1. から3. の操作を繰り返してください。手順2. では、「 wnaspi32.dll 」と入力します。
6. 同様に、「 apix.vxd 」を抽出します。手順2. では「 apix.vxd 」と入力し、手順3. ではファイルの保存先を「 C:¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS 」とします。

以上で、必要なファイルの抽出・再インストールは終了です。

Windows Meの場合

1. Windows上で [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [ファイル名を指定して実行] ダイアログが開きますので、「 msconfig 」と入力し [OK] ボタンをクリックしてください。
3. システム設定ユーティリティが起動しますので、 [ファイルの抽出] ボタンを押します。

4. [インストールディスクからファイルを1つ抽出する] ダイアログが表示されます。CD-ROMドライブにWindowsのCDを挿入し、復元元とファイルの保存先を次のように指定し [OK] をクリックしてください。

復元元：CD-ROMドライブの「win9x」フォルダ（例 D:¥WIN9x）

（WindowsのCDがない場合は、「C:¥windows¥options¥install」、または、「C:¥windows¥options¥cabs」を指定してください）

ファイルの保存先：C:¥WINDOWS¥SYSTEM

システムを上書きする前に、現在のシステムファイルを保存するか確認するメッセージが表示されます。必要な場合は保存先を指定してください。

5. 同様に、「wnaspi32.dll」も抽出します。手順1. から3. の操作を繰り返してください。手順2. では、「wnaspi32.dll」と入力します。
6. 同様に、「apix.vxd」を抽出します。手順2. では「apix.vxd」と入力し、手順3. ではファイルの保存先を「C:¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS」とします。

以上で、必要なファイルの抽出・再インストールは終了です。

Windows NT/2000/XPの場合

インストール時にASPIマネージャをインストールしなかった場合は、ASPIマネージャをインストールしてお試しください。

SCSIインターフェイスなどが専用のASPIマネージャを必要とする場合、再度SCSIインターフェイスに対応したASPIマネージャをインストールし直さなければならない可能性があります。お使いのSCSIインターフェイスに対応した最新のASPIマネージャがある場合は、そちらでお試しください。

トラブル

WinCDRが、実行時にアプリケーションエラーなどで終了したり、起動しなかったりする。

WinCDR実行中に、Windowsがフリーズしたり、青い画面が表示されて「例外エラー」が発生する。

原因

次の場合に、WinCDRが影響を受けて動作が不安定になる場合があります。

- ・レコーダ以外の周辺機器が、同一のインターフェイスに接続されている。
- ・WinCDR以外のアプリケーションが起動している。

対処方法

対処方法1：不要な周辺機器を外す

不要な周辺機器を外し、コンピュータにレコーダのみを接続してください。とくに、ストレージデバイス（MO、メモ리카ードリーダーなどのデータを記録するタイプの周辺機器）は、WinCDR使用時は取り外してください。また、可能であれば、コンピュータをネットワークから外してお試しください。

対処方法2：WinCDR以外のアプリケーションを起動/インストールしない
スタートアップに登録された常駐ソフト

Windows 起動時に [Shift] キーを押しながら起動すると、スタートアップに登録されたソフトウェアの起動を停止することができます。また、右下のタスクトレイに表示されたアイコンを右クリックして、常駐ソフトを終了することができます。

ただし、すべての常駐ソフトウェアが起動停止にならない場合がありますので、必要に応じて、起動アプリケーションを終了したり、システム設定ユーティリティの設定を行ってください。

システム設定ユーティリティを使って常駐ソフトを起動しない方法 (Windows 98/Me)

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行] ダイアログが表示されます。「msconfig」と入力して [OK] ボタンをクリックします。
3. [システム設定ユーティリティ] が起動します。[スタートアップ] タブをクリックしてください。
4. 常駐ソフトのチェックを外します。ただし、下記のファイルはシステムに必要なファイルですので、チェックを外さないようご注意ください。

internat.exe
SystemTray
ScanRegistry
TaskMonitor
LoadPowerProfile (2つ)
SchedulingAgent

対処方法3：他社製ライティングソフト、CDデバイス関連のアプリケーション

他社製のライティングソフトやCDデバイス関連のアプリケーション (仮想CDソフト、CDのアクセス速度を向上させるためのツールなど) がインストールされていると、それらのシステムファイルとの競合でエラーが発生する場合があります。インストールしている場合は、システムファイルも含めてアンインストールしてください。

● 詳細については、次のトラブルを参照してください。

トラブル

- ・ CD-R レコーダ関連ソフトや仮想CD-ROM作成ツールなどのアプリケーションをインストールした後にWinCDRやコンピュータの動作がおかしくなった。
- ・ CD-R レコーダ関連ソフトや仮想CD-ROM作成ツールなどのアプリケーションがインストールされているコンピュータにWinCDRをインストールしたら、WinCDRやコンピュータの動作がおかしい。

原因

WinCDRと、CD-Rレコーダ関連ソフトや仮想CD-ROM作成ツールなどが競合していることが考えられます。

対処方法

WinCDRと競合しているアプリケーションをアンインストールしてください

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を起動し、表示されているアプリケーションの一覧の中からWinCDRと競合することが考えられる、CD-Rレコーダ関連ソフトや仮想CD-ROM作成ツールなどのアプリケーションをアンインストールしてください。

WinCDRと競合する可能性のあるソフトウェア

- ・他社製プリマスタリングソフトウェア
- ・他社製パケットライティングソフトウェア
- ・他社製リーダーソフトウェア
- ・仮想CD-ROM作成ツール

WinCDRと競合しているアプリケーションのアンインストールを行ってもWinCDRが正常に動作しない場合、WinCDRが利用しているWindowsのシステムファイルが書き替えられている可能性があります。

ASPIマネージャを再インストールすることで改善する場合もございますので、p.223「下記の現象が起こる。」を参照してください。

トラブル

メディアプレイヤー7がインストールされた環境にWinCDRをインストールしたら、WinCDRやコンピュータの動作がおかしくなった。

WinCDRがインストールされた環境にメディアプレイヤー7をインストールしたら、WinCDRやコンピュータの動作がおかしくなった。

原因

メディアプレイヤー7には音楽CDの作成機能など、WinCDRと競合する機能が搭載されています。

また、Windows Meがプリインストールされたコンピュータの場合、購入時にすでにメディアプレイヤー7がインストールされている場合があります。

WinCDRと競合が発生する機能

- ・Adaptec CD 作成プラグイン
- ・Iomega ドライブサポート

対処方法

不具合が発生した場合、または既にメディアプレイヤー7がインストールされたコンピュータにWinCDRをインストールする際には、カスタムアンインストールを選択してWinCDRと競合が発生する機能をアンインストールしてください。

アンインストール手順

1. [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除] を起動します。
2. [インストールと削除] タブに一覧表示されたアプリケーションの中から [Windows Media Player 7] を選択し、[追加と削除] ボタンをクリックします。
3. Windows Mediaコンポーネントのセットアップが起動します。[Windows Media コンポーネントを削除する] のみにチェックが入っていることを確認して[次へ] ボタンをクリックします。
4. コンポーネントの一覧から [Adaptec CD 作成プラグイン] と [lomegaドライブサポート] を選択して[次へ] ボタンをクリックします。
5. もう一度[次へ] ボタンをクリックするとアンインストールが完了します。

既にWinCDRがインストールされたコンピュータにメディアプレイヤー7をインストールする場合は、標準インストールを行うと全機能がインストールされます。インストールの際に、WinCDRと競合が発生する機能をインストールしないように選択してください。

競合する機能をインストールしないためには、インストールの途中で「次のコンポーネントをインストールします。インストールしないコンポーネントはチェックボックスをオフにしてください」のメッセージが表示された際に、コンポーネントの一覧から [AdaptecCD作成プラグイン] と [lomegaドライブサポート] のチェックを外してインストールを行ってください。

トラブル

WinCDRがインストールされている環境でWindowsをアップグレードしたら、WinCDRが正常に動作しない。

原因

WinCDRはインストール時にWindowsのバージョンをチェックし、対応したファイルをインストールする処理を行っています。

WinCDRがインストールされたときと異なるバージョンのWindows上でWinCDRを動作させた場合、正常に動作しない場合があります。

対処方法

システムをアップデートする前にいったんWinCDRをアンインストールし、システムをアップデート後、再度、WinCDRをインストールしてください。

トラブル

WinCDRをAdaptec社製のSCSIボードで使用すると以下の症状が発生する。

- ・レコーダの自動検索ができない
- ・書き込み開始時、終了時、書き込み中に青色のエラー画面が表示される
- ・書き込み開始時、終了時、書き込み中にハングアップする

対処方法

Adaptec社製SCSIボード用の最新版のwinaspiおよび各インターフェイス用ドライバ(ミニポートドライバ)の修正版をインストールすることで改善する場合があります。

インターネット上の Adaptec 社ホームページから、Adaptec 社製 SCSI ボード用の最新版 winaspiおよび各インターフェイス用ドライバ(ミニポートドライバ)の修正版がダウンロードできます。

詳細に関してはAdaptec社にお問い合わせください。

URL <http://www.adaptec.co.jp/>

URL <http://www.adaptec.com/>

書き込み中のトラブル

トラブル

オンザフライ書き込みでたびたび失敗する。

原因

通常の書き込みの場合は、まずハードディスク上にトラックイメージが作成され、そこからメディアへの書き込みが行われますが、オンザフライ書き込みの場合は、このトラックイメージが作成されず、点する元データから直接メディアへの書き込みが行われます。そのため、コンピュータにかかる負荷が大きく、書き込むデータの存在するディレクトリ、種類、容量、コンピュータの状態などによってはうまくいかない場合があります。

また、とくに音楽CDの場合は、音楽データの抽出が難しい場合があります。

対処方法

設定等による対処

- ・ 書き込み速度を2倍速（×2）以上に設定している場合は、それ以下に設定する。
- ・ 他のアプリケーションを終了させる。
- ・ スクリーンセーバーが起動しないようにする。
- ・ ネットワークへのアクセス、ネットワークからのアクセスを止める。
- ・ コンピュータの省電力機能を切る。
- ・ メモリに常駐するソフトウェアを切って、Windowsを再起動する。

ハードウェアによる対処

- ・ 高速なCPU、SCSIボード、ハードディスクを使用する。
- ・ メモリを増設する（128MB以上推奨）

その他の対処方法

- ・ [デフラグ]を実行し、ハードディスクのフラグメンテーション（記録されているデータの断片化）を解消する。
- ・ ネットワーク上やMO、FD内のデータを書き込もうとしている場合は、データをハードディスクにコピーして、そこから書き込みを行う。
- ・ レコーダにコピー元のメディアを入れ、イメージファイルを作成する方法で書き込みを行う。
- ・ [オンザフライ]のチェックを外して書き込みを行う。

トラブル

CD-ROMドライブにコピー元のCDを入れて「ディスクのコピー」を実行した場合、以下の症状が発生する。

実行後そのままフリーズしたり「このCD-ROMドライブではオーディオの読み出しはできません」「トラックの読み込みに失敗しました」「コピー元ディスクを挿入してください」などのエラーメッセージが返される。

原因

書き込みを行うレコーダとは別のドライブ(主にCD-ROMドライブ)を読み込みに使用する場合、読み込みドライブが、次のような原因でCDメディアの読み込みに適していない場合があります。

- ・読み込みドライブの設定が、データ転送元として使用するための適切な設定がなされていない
- ・読み込みドライブが、データ転送元として使用するためのハードウェア的要件を満たしていない

対処方法

対処方法1：読み込みと書き込みを同じレコーダで行う。

- p.172 「コピー (R to R)」を参照してください。

対処方法2：DMA転送をオフにする。

Windows上で、読み込みドライブのプロパティからDMA転送をオフに設定します。

Windows98/Me

1. マイコンピュータを右クリックして「プロパティ」を選択します。
2. 「デバイスマネージャ」のタブを選択します。
3. CD-ROMのアイコンをダブルクリックして内蔵のCD-ROMドライブのアイコンをさらにダブルクリックします。
4. 「設定」のタブを選択します。
5. オプションの中の「DMA」のチェックを外してOKボタンを押します。
6. OSを再起動します。

Windows2000/XP

1. マイコンピュータを右クリックして「プロパティ」を選択します(Windows XPの場合、[スタート]メニューをクリックし、その中の[マイコンピュータ]を右クリックすると表示されるメニューから[プロパティ]を選択してください)
2. [システムのプロパティ]ダイアログが表示されますので、[ハードウェア]タブをクリックしてください。
3. [デバイスマネージャ]ボタンをクリックし、[デバイスマネージャ]ダイアログを表示します。
4. IDEインターフェイスの転送方式を変更します。[IDE ATA/ATAPIコントローラ]の左側の[+]印をクリックして接続されているデバイスの一覧を表示してください。
5. CD-ROMドライブが接続されているIDEチャンネル(プライマリ/セカンダリ)のアイコンをダブルクリックします。
6. プロパティダイアログが表示されますので、[詳細設定]タブを選択します。
7. CD-ROMドライブが接続されているデバイスの転送モードを[PIOのみ]に変更します。
8. OSを再起動します。

トラブル

以下のエラーメッセージが表示されて書き込みに失敗する。

- ・ データの転送が間に合いませんでした
- ・ Not Ready (Sense key [02])
- ・ Buffer Error
- ・ Buffer UnderRun
- ・ data over/under run

原因

コンピュータからレコーダにデータを転送する速度が、レコーダがメディアにデータを書き込む速度より遅く、レコーダ内のバッファ（データを溜めておくところ）が空になってしまった場合など、データの転送が正常に行えなかったために発生するエラーです。

対処方法

設定等による対処

- ・ 書き込み速度を2倍速（×2）以上に設定している場合は、それ以下に設定する。
- ・ 他のアプリケーションを終了させる。
- ・ スクリーンセーバーが起動しないようにする。
- ・ ネットワークへのアクセス、ネットワークからのアクセスを止める。
- ・ コンピュータの省電力機能を切る。
- ・ メモリに常駐するソフトウェアを切って、Windowsを再起動する。

ハードウェアによる対処

- ・ 高速なCPU、SCSIボード、ハードディスクを使用する。
- ・ メモリを増設する（128MB以上推奨）

その他の対処方法

- ・ [デフラグ]を実行し、ハードディスクのフラグメンテーション（記録されているデータの断片化）を解消する。
- ・ ネットワーク上やMO、FD内のデータを書き込もうとしている場合は、データをハードディスクにコピーして、そこから書き込みを行う。
- ・ レコーダにコピー元メディアを入れ、イメージファイルを作成する方法で書き込みを行う。
- ・ [オンザフライ]のチェックを外して書き込みを行う。
- ・ PC環境が不安定なことが原因で発生していることも考えられますので、p.226⁶ WinCDRが、実行時にアプリケーションエラーなどで終了したり、起動しなかったりする。」の項目を参照して対処を行ってください。

トラブル

エラーメッセージに関して

ハードウェアエラー

WinCDR使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合は、レコーダまたはメディアの不調、故障が原因です。

レコーダやレコーダを接続しているインターフェイスについて、設定方法や使用方法に問題がないことを確認してください。

それでも改善されない場合は、レコーダメーカーにエラーメッセージを伝えて、ご相談くださいますようお願い致します。

エラーメッセージ

- ・ レーザー出力の調整に失敗しました。
- ・ Hardware Error (Sense Key [04])
 - ・ Write Error
 - ・ No Seek Complete
 - ・ Media Load Mechanism Failed
 - ・ Power Calibration Error
 - ・ Write Error During At Once Recording
 - ・ Track following Error
 - ・ Tracking Servo Failure
 - ・ Focus Servo Failure
 - ・ Spindle Servo Failure

メディアのエラー

WinCDR使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合は、メディアまたはレコーダの不調が考えられます。

エラーメッセージ

- ・ Medium Error (Sense Key [03])
 - ・ 最後のトラックに障害があります
 - ・ PVDを読み取ることができませんでした。
- ・ メディアへの書き込み時に発生している場合

使用しているメディアや、メディアが対応している書き込み速度に問題がないことを確認してください。

レコーダによっては転送が間に合わない場合にこのエラーが発生する場合がありますので、「以下のエラーメッセージが表示されて書き込みに失敗する」の項目も確認してください。

ご使用のレコーダに適したメディアについてはレコーダメーカーにお問い合わせください。

追記に失敗したメディア、またはご使用のディスクが壊れている場合にも発生しますので、その場合は新しいディスクをご使用ください。

・コピー元CDからの読み込み時に発生している場合

読み込み元のCDにキズ、汚れ、ホコリがついていたり、コピーができない特殊なCDの場合にこのエラーが発生する場合がありますので、他のCDを使用した際に問題が発生するかを確認してください。

詳しくはp.239「CDからデータ読み取り中に、以下のエラーメッセージが表示される。」を参照してください。

レコーダやレコーダを接続しているインターフェイスについて、設定方法や使用方法に問題がないことを確認してください。

それでも改善されない場合は、レコーダメーカーにエラーメッセージを伝えて、ご相談くださいますようお願いいたします。

トラブル

インターフェイス関連のエラー

WinCDR使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合は、レコーダを接続しているインターフェイス (SCSI / IDE / USB / IEEE1394) 関連の不調が考えられます。

エラーメッセージ

- ・ エラー内容は不明です
- ・ SCSI I/O STATUS
- ・ Unit attension (SenseKey [06])
- ・ Abort (SenseKey [0B])
- ・ Miscompare (SenseKey [0E])
- ・ No Sence (SenseKey [00])

対処方法

- ・ 他の周辺機器の接続を外し、ケーブル長をできるだけ短くする。
- ・ インターフェイスや周辺機器の設定を確認し、正しく設定する。
- ・ インターフェイスの最新ドライバが提供されている場合は新しいドライバを使用する。またはOS標準のドライバを使用する。
- ・ インターフェイスに接続されるレコーダ以外の周辺機器のドライバをアンインストールする。(ドライバをアンインストールした周辺機器はドライバを再インストールしないと使用できなくなりますので注意が必要です)
- ・ MicrosoftからOSの不具合訂正としてインターフェイス関係の修正プログラムが提供されている場合は、それを使用する。(レコーダなどに添付する形で提供されている場合もあります)

トラブル

その他のエラー

WinCDR使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合は、インターフェイスを含むPCやレコーダの不調により、レコーダが正常動作しなかったことが考えられます。

エラーメッセージ

- ・Illegal Request (SenseKey [05])

対処方法

- ・ PC環境が不安定なことが原因で発生していることが考えられますので、p.226「WinCDRが、実行時にアプリケーションエラーなどで終了したり、起動しなかったりする。」の項目を参照して対処を行ってください。
- ・ レコーダへの転送が間に合わず、レコーダに正常なデータが届かなかったことが考えられますので、p.233「以下のエラーメッセージが表示されて書き込みに失敗する。」の項目を参照して対処を行ってください。
- ・ インターフェイスで不具合が発生したために、レコーダに正常なデータが届かなかったことが考えられますので、p.235「インターフェイス関連のエラー」の項目を参照して対処を行ってください。
- ・ 書き込みを行おうとしたメディアまたはレコーダの不調によってレコーダが正常に動作しなかったことが考えられますので、p.234「メディアのエラー」の項目を参照して対処を行ってください。

トラブル

ウェルにデータを配置中に「メモリが不足しています。」と表示される。

原因

コンピュータのメモリ不足が原因です。

対処方法

- ・ 他のアプリケーションを終了して、空きメモリを増やす。
- ・ 可能であればスワップ可能領域（ハードディスクの空き領域）を拡大する。
- ・ 問題がなければ小分けにして書き込む（追記）。
- ・ メモリを増設する（128MB以上推奨）。

トラブル

ボリュームラベルにアルファベットの小文字が使えない。

原因

ボリュームラベルに使える文字は、32文字以内で、_（アンダースコア）と数字の0～9、アルファベットの大文字のみと、ISO 9660の規格で定められています。

対処方法

規格にしたがって、ボリュームラベルを付けてください。

トラブル

WindowsのエクスプローラからWAVEファイルを複数まとめてドラッグすると、勝手に順番が入れ替わってしまう。

原因

ドラッグする際、ポインタを合わせた位置によって、ファイルの順番が替わります。

対処方法

Windowsのエクスプローラから複数のWAVEファイルを選択してドラッグするときは、必ず一番上のファイルにポインタをあわせて移動してください。

トラブル

サウンドデータが選択できない。

原因

サウンドデータの形式がAudio CDを作成するための仕様に合っていないときは、そのファイルを選択することはできません。

対処方法

サウンドデータを編集できるツールなどでデータ形式を変更してください。なおAudio CDに記録するサウンドデータは以下のとおりです。

WAVE形式

- ・ サンプルサイズ 16ビット、8ビット
- ・ サンプルレート 44.1kHz、22.05kHz
- ・ チャンネル 2チャンネル（ステレオ）、1チャンネル（モノラル）

MP3形式

- ・ サンプルサイズ 16ビット
- ・ サンプルレート 44.1kHz
- ・ チャンネル 2チャンネル

WMA形式

- ・ サンプルサイズ 16ビット, 8ビット
- ・ サンプルレート 44.1kHz, 22.05kHz
- ・ チャンネル 2チャンネル(ステレオ)

トラブル

MPEGファイルをウェルに配置できない。

原因

データの形式がビデオCDを作成するための仕様に合っていないときは、そのファイルを選択することはできません。

対処方法

編集ツールなどで、データ形式を変更してください。Media Encoderで再エンコードすることをお勧めします。

なお、WinCDRでビデオCDに記録できるデータは以下のとおりです。

規格	水平画素数	バックサイズ	方式	画像サイズ(横×縦)	フレームレート
MPEG準拠	352ピクセル	2324バイト	NTSC	352×240	29.97Hz
			FILM	352×240	23.976Hz
			PAL	352×288	25Hz

Authoring Toolを使用してビデオCDを作成する場合、PAL方式はサポートしていません。
 「画像サイズ」は縦の数値だけで「ライン数」または「ライン」と表現されている場合もあります。
 WinCDR7.0 SEでは、Media Encoderの一部の機能のみお使いになれます。

トラブル

追記した直後に追記分のデータを読み込むことができない。

原因

Windowsは追記する以前のメディアの状態を覚えており、追記が終了した時点ではメディアに対して変更があったことを認識していないことがあります。

対処方法

追記終了後、レコーダからメディアを取り出し、エクスプローラかマイコンピュータのツールバーにある[表示]から[最新の情報に更新する]を実行して、レコーダにメディアを再挿入してください。

トラブル

RWメディアのデータ消去にたびたび失敗する。

原因

書き込み・消去を1000回以上繰り返したメディアは、記録層が劣化し、正常に消去ができなくなってきました。

対処方法

こうしたメディアは寿命とお考えください。

WinCDR Liteでは、基本的にCD-RWの消去はありません。次の手順でRWメディアを消去するダイアログを呼び出すことができます。

1. メニュー画面で [音楽CDを作成する] を選択します。
2. [音楽CDから曲を読み出しますか] と尋ねられますので [いいえ] をクリックします。
3. 音楽CD作成のメインウィンドウが表示されますので、消去したいCD-RWをレコーダに挿入し、[書き込み] ボタンをクリックします。
4. [ほとんどのオーディオ機器ではRWディスクを再生できません。ディスクを交換しますか] と尋ねられますので [いいえ] をクリックします。
5. [このディスクは既書き込まれています。内容を消去しますか] と尋ねられますので、[はい] をクリックします。
6. [RWメディアの消去] ダイアログが表示されます。[実行] ボタンをクリックするとRWメディアの消去が始まります。

トラブル

CDからデータ読み取り中に、以下のエラーメッセージが表示される。

- ・ CDの汚れシステムパフォーマンスの低下などの可能性があります
- ・ PVDを読みとることができませんでした
- ・ 読み込みに失敗しました

原因

レコーダやCD-ROMからCDを読み込んだ際に、CDの内容が正確に読みとれなかった際に表示されるエラーメッセージです。

以下のような原因が考えられます。

メディアの読み込み速度の問題

- ・ 読み込み速度を高く設定した場合の問題

読み込んでいるメディアの問題

- ・ CDが汚れていたり、キズが付いているなどのCDの状態の問題
- ・ CD-R/CD-RWメディアの場合、うまく焼けていないなど、作成されたメディアの不具合

読み込みを行っているドライブの問題

- ・ ドライブのピックアップが汚れているなど、ドライブのハードウェア的な不具合

対処方法

メディアの読み込み速度の問題

- ・ 読み込み速度を落としてお試しください。

読み込んでいるメディアの問題

- ・ 他の状態の良いCDで読み込みを行った際に問題がない場合は、読み込んでいるCDに問題があることが考えられますので、CDの状態（汚れ、キズなど）をご確認ください。
- ・ CD-R/CD-RWメディアを使用している場合は、作成したレコーダで推奨されているメディアを使用するなど、作成されたメディアに問題がないことをご確認ください。

読み込みを行っているドライブの問題

- ・ CD-ROM ドライブを使用して読み込みを行っている場合は、CD-R/CD-RW レコーダからの読み込みで問題がないかをご確認ください。
- ・ 読み込んだCD側に問題がなく、かつCD-R/CD-RWレコーダからの読み込みで問題がある場合、読み込みを行ったドライブの問題が考えられます。読み込みに使用したレコーダのメーカーに、CDの読み込みがうまくできない旨をエラーメッセージと共に伝えてご相談くださいますようお願いいたします。

トラブル

ISO 9660でWindowsのフォルダを書きこもうとすると下記エラーメッセージが出た。

[作業状況] ISO 9660フォーマッタ (イメージジェネレータ): ファイル書き込み中
ファイルが開けません: [C:¥WINDOWS¥WIN386.SWP]

対処方法

上記エラーメッセージの中のWIN386.SWPはシステムが持っているスワップファイルで、システムが動作している間は書き込むことはできません。

ウエルにドラッグしてデータを選択した後、WIN386.SWPをDeleteキーでウエル上から削除していただくか別パーティションのシステムから起動して書き込んでください。

トラブル

「フォルダの階層が深すぎます」というダイアログが出る。

原因

規定のフォルダの階層を越えるデータをウエルにドラッグした際に表示されるエラーです。

- ・ ISO 9660の規格上、フォルダの階層は8階層までに制限されているため、[名前の付け方]で[ISO 9660 Level1]または[ISO 9660 Level2]を選択している場合は8階層を越えるデータを書き込むことはできません。
- ・ [名前の付け方]で[MS-DOS(Windows3.1)]または[Joliet]を選択している場合、8階層を越えてデータを書き込むことはできません。
- ・ OSの仕様により一定以上のフォルダの階層に書き込まれた情報が読み込めない場合があるため、WinCDRでは、デフォルトでフォルダの階層を9階層に制限しています。

対処方法

[名前の付け方]で[Windows]または[Windows NT 3.5x]を選択した場合には、書き込み可能なフォルダ階層をより深く設定することで対処が可能です。

[データ設定]ダイアログ- [ISO 9660設定]パネルで、[フォルダ階層]の上限を設定することができます。

- ☛ p.212 「[名前の付け方]ダイアログ」、p.206 「ISO 9660/UDFパネル」

トラブル

80分(700MB)メディアの対応について

対処方法

WinCDRは80分メディアに対応しています。

ただし、80分メディアに書き込みを行うには、対応しているレコーダが必要です。レコーダが80分メディア書き込みに対応しているかどうかは、レコーダメーカーにお問い合わせください。

エンコード中のトラブル

トラブル

エンコードでたびたび失敗する。

原因

コンピュータにかかる負荷が大きく、エンコードするデータの存在するディレクトリ、種類、容量、コンピュータの状態などによってはうまくいかない場合があります。

対処方法

設定等による対処

- ・ 他のアプリケーションを終了させる。
- ・ スクリーンセーバーが起動しないようにする。
- ・ ネットワークへのアクセス、ネットワークからのアクセスを止める。
- ・ コンピュータの省電力機能を切る。
- ・ メモリに常駐するソフトウェアを切って、Windowsを再起動する。

ハードウェアによる対処

- ・ 高速なCPU、SCSIボード、ハードディスクを使用する。
- ・ メモリを増設する（128MB以上推奨）。

その他の対処方法

- ・ [デフラグ]を実行し、ハードディスクのフラグメンテーション（記録されているデータの断片化）を解消する。
- ・ ネットワーク上やMO、FD内のデータを書き込もうとしている場合は、データをハードディスクにコピーして、そこから書き込みを行う。

トラブル

作業中に「メモリが不足しています。」と表示される。

原因

コンピュータのメモリ不足が原因です。

対処方法

- ・ 他のアプリケーションを終了して、空きメモリを増やす。
- ・ 可能であればスワップ領域（ハードディスクの空き領域）を拡大する。
- ・ メモリを増設する（128MB以上推奨）。

トラブル

エンコードできない。

原因

ソース（変換元）ファイルの形式が、Media Encoderがサポートする仕様に合っていません。

- ・音声ストリームの無いMPEG2はエンコードできません。
- ・音声フォーマットがMPEG1 Audio Layer II以外のフォーマットには対応しません。
- ・アスペクト比がシネマサイズ（16：9）のムービーはエンコードできません。

対処方法

「サポートしているファイルの仕様」を参照し、Media Encoderがサポートしている仕様のムービーファイルをご利用ください。

トラブル

出力されたファイルが0KBになる。

原因

ソース（変換元）ファイルの形式が、破損している可能性があります。

他社製の動画再生編集ソフトをインストールしている場合、Media Encoderのフィルタとコンフリクト（衝突）している可能性があります。

対処方法

破損しているソースファイルはエンコードできません。

他社製の動画再生編集ソフトをインストールしている場合は、アンインストールすると解消する場合があります。

作成したCDに関するトラブル

トラブル

曲間に無音部分ができてしまう (WinCDR)。

原因

WinCDRはAudio CDを作成する際、デフォルトではサウンドデータの前後に各2秒の無音部分 (プリギャップ、ポストギャップ) を付加します。

対処方法

[設定]メニューから[CDの設定]を選び、[オーディオ設定]パネルで、プリギャップとポストギャップを設定できます。これを各々00:00:00に指定すれば、曲間の無音部分はなくなります。ただし「プリギャップ」の設定は、ディスクアットワンスで書き込む場合にのみ行うことができます。

Note Audio CDからサウンドデータをWAVEファイルに変換して取り込んだ場合、元のディスク内のポストギャップ部分をサウンドデータの最後の部分として一緒に取り込んでしまうことがあります。この無音部分を削除するには、サウンドデータを編集できるツールを使用する必要があります。

トラブル

曲間に無音部分を入れたい (WinCDR Lite)。

対処方法

[トラック設定]ダイアログでプリギャップ長 (トラックの前に挿入される無音部分)、ポストギャップ長 (トラックの後ろに挿入される無音部分) の設定を変更することができます。[トラック設定]ダイアログは、音楽CD作成のメインウインドウで、オーディオトラックを選択し、右クリックすると表示されるメニューから [トラック設定] コマンドを選択すると表示されます。

トラブル

無音部分を完全に無くすと曲間にノイズが入ってしまう。

原因

Audio CD (CD-DA) の最小書き込み単位は2352バイトとなっていますが、無音部分をサウンド編集ツールで削除した際、最後のパートが2352バイトの正数倍になっていないと、WinCDRは、規格に適合させるため、不足部分に無音を挿入します。この急激なレベルの変動がノイズになります。

対処方法

市販のサウンド編集ツールでは、正確に2352バイト単位にデータを分割することができないので、ノイズが目立たないようにするには、信号レベルの低い部分でデータを分割する必要があります。

トラブル

「\$\$\$」が付いたファイルがメディアに書き込まれる。

原因

「\$\$\$」が付くファイルは、通常、アプリケーションが一時的に使用する作業用のファイルです。これらの作業用ファイルも、ウェルに登録すれば通常のファイルと同様、メディアに書き込まれます。

対処方法

作業フォルダと書き込むデータのあるフォルダを別々にするなどして、作業用のファイルをウェルに登録しないようにしてください。

トラブル

書き込まれたデータが読み出しできない。

書き込みは正常に終了したが、書き込み後そのCDを読み出そうとしたら何も表示されない。

レコーダにメディアを挿入してもマウントされない。

対処方法

以下の可能性があります。ご確認ください。

- ・ 「仮想レコーダ」の設定のままで実際の書き込みをしていない。
「レコーダ選択」でお使いのCD-R/RWレコーダを選択してください。
仮想レコーダ以外のレコーダが選択できない場合は、p.221 「レコーダの自動検索ができない (WinCDR)」を参照してください。
- ・ テスト書き込みのみで実際の書き込みをしていない。
「書き込み設定」または「レコーディングパネル」で、「テストのみ」以外を選択してください。
(WinCDR Liteでは、[書き込み設定]ダイアログは、[設定]ボタンをクリックし[レコーダ選択]ダイアログで[OK]ボタンをクリックすると表示されます)
- ・ CD-RW用メディアのデータをCD-ROMドライブやオーディオCDプレーヤで読み出した。
CD-RWメディアは、CD-RWレコーダがマルチリードタイプのCD-ROMドライブから読み込んでください。

- ・ 第2セッション以降のオーディオデータをオーディオCDプレーヤで読み出した。
追記書き込みはしないでください。追記してしまった場合はCD-ROMドライブから読み込んでください。オーディオCDプレーヤは第1セッションしか読めません。
- ・ クローズセッションされていない
[ツール] - [クローズセッション] を実行してください。
- ・ CD-R/CD-RWメディアの不良
他のメディアでもお試しください。レコーダメーカーの推奨メディアで確認されることをお勧めします。

トラブル

作成したCDが他のOSやシステムで読めない。

原因

他のOSやシステムで使用できないファイル名が付けられている可能性があります。

対処方法

メニューバーの [設定] から [名前の付け方] ダイアログを表示し、CDを使いたいターゲットOSにあわせた名前の付け方をチェックしてください。それにあわせてファイル名やフォルダ名を付けなおしてから、あらためて新規メディアに書き込みます。

(WinCDR Liteでは、あらかじめ [名前の付け方] が [Windows] として設定されています)
[設定] メニューから [環境設定] を選択し、[環境設定] ダイアログで、[毎回、名前のチェックを行う] にチェックをしておくと、書き込みの前に自動で名前のチェックが行われます。

また、OSによりファイル名 / フォルダ名に使用できない文字があります。他のOSで読む可能性があるときは、ご注意ください。

Windowsで読めない文字 ¥ / : , ; * ? < > |

Macintoshで読めない文字 :

Windows NT 3.5/3.5.1で不具合が発生

アルファベットの小文字

MS-DOS (Windows3.1) で不具合が発生

- ・ 8+3文字より長いファイル名や、8文字より長いフォルダ名
- ・ アルファベットの小文字

Macintoshで不具合が発生

31文字以上のファイル名

8階層を超えるフォルダを作成した。

トラブル

Video CDを作成しコンピュータでディスクの中を見ると、MPEGファイルが見当たらず、いくつかのフォルダができています。

原因

WinCDRIは、VideoCDの規格に準拠してVideoCDを作成します。MPEGファイルは「mpegav」フォルダ内に「.dat」として記録されます。フォルダやその他のファイルも、同様に規格に準じて作成されます。

対処方法

作成したVideoCDIはVideo CDプレーヤーで再生してください。

MPEGファイルをそのまま保存したい場合は、ISO 9660/UDFで書き込んでください。

トラブル

MP3のデータから音楽CDを作成すると、書き込むデータの量が約10倍に増えて思ったほど記録できない。

原因

MP3ファイルを音楽CDとして記録する場合、MP3形式からCDプレーヤーなどで読める音楽CDの形式にコンバートされます。この際、MP3が持つ圧縮は解凍されますので、ファイルの容量よりも多くの容量が必要です。

対処方法

MP3のデータから音楽CDを作成する場合は、ファイル容量ではなく曲の長さを基準に音楽CDに入る曲数を計算し、CDの容量をオーバーしないようにご注意ください。

MP3プレーヤーや、MP3対応のCDプレーヤー、パソコンなどでMP3を再生する場合は、ISO 9660形式でMP3ファイルのまま書き込んでください。

トラブル

「パケットライトで書かれたディスクです。」というメッセージが表示され、フォーマット済みのCD-R/CD-RWに書き込むことができない (WinCDRI)。

「このディスクには追記できません。」というメッセージが表示され、フォーマット済みのCD-Rに書き込むことができない (WinCDRI Lite)。

原因

ディスクがパケットライティング用にフォーマットされています。

対処方法

パケットライティング用にフォーマットされたディスクは使用することができません。新品のディスクをご用意ください。CD-RWメディアは、WinCDRの [ツール] - [RWメディアの消去] で、未フォーマットの状態に戻し使用することも可能です。

市販のメディアの中には、パケットライトフォーマット済みのものがあります。WinCDR でご使用になる場合は、フォーマットされていないメディアをご利用ください。

ドライブバックアップに関するFAQ

question

FAT16、FAT32とは？

Answer

FATはFile Allocation Tableの略で、ファイルシステムの種類です。Windows 98のハードディスクドライブは、主にFAT16またはFAT32でフォーマットされています。

ドライブバックアップは、バックアップ元とバックアップ先のドライブのFATを比較し、異なる場合、FATの変換を行っています。ただし、FAT32からFAT16への変換はサポートしていません。

FAT16	FAT16
FAT32	FAT32
FAT16	FAT32 ()
FAT32	FAT16 x
サポート	x 未サポート

システムバックアップの場合、オプションの「高度な設定」で「FAT32へ変換して復元する」をチェックする必要があります。

question

システムバックアップとは？

Answer

ドライブバックアップで、Windowsがインストールされているドライブをバックアップすることを、システムバックアップと呼んでいます。

question

ドライブバックアップ用起動ディスクとは？

Answer

ドライブバックアップ用起動ディスク作成で作成されるディスクで、Windows NT/2000/XP環境、またはシステムバックアップ時に必要になります。

ディスク内には、システムの起動に必要なファイルや、CD-ROMを認識するために必要なドライブがコピーされています。

question

ドライブバックアップで作成したCD/DVDから復元するには？

Answer

システムバックアップの場合

CD/DVDからシステムをブートすると、復元作業がはじまります。システムバックアップで使用した起動ディスクからのブートも可能です。

システムバックアップでない場合

[ツール] - [ドライブの復元] を実行します。

ドライブバックアップに関するトラブル

トラブル

システムバックアップで作成したCD/DVDからシステムを起動しようとしても、復元作業がはじまりません。

原因

原因1：BIOSの設定で、CD-ROMドライブからの起動が設定されていない。

CD/DVDから起動できるようにするには、BIOSの設定が必要です。設定方法はご使用のシステムのマニュアルをご覧ください。

原因2：1枚目のCD/DVDが挿入されていない。

CD/DVDが複数枚ある場合、1枚目のCD/DVDが挿入されているかどうか、ご確認ください。

原因3：CD-ROM/DVD-ROMドライブが認識されない。

1. ご使用のCD-ROM/DVD-ROMドライブがBOOTをサポートしているかどうか、ご確認ください。
2. 起動ディスクが、サポートされているデバイスかどうか、ご確認ください。サポート SCSICARDに関しては以下のとおりです。

Windows 98

- ・ Melco社製SCSICARD IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP /IFC-NSP
- ・ Windows 98の起動ディスクが対応している、Adaptec社製、Mylex (Buslogic)社製 SCSICARD

Windows Me

- ・ Melco社製SCSICARD IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP /IFC-NSP
- ・ Windows Meの起動ディスクが対応している、Adaptec社製、Mylex (Buslogic)社製 SCSICARD

Windows 2000/NT/XP

- ・ Melco社製SCSICARD IFC-USP/IFC-USP-M/IFC-USP-M2/IFC-DP /IFC-NSP

3. ATAPIとSCSICARDのCD-ROM/DVD-ROMドライブを両方接続している場合、ATAPIドライブにCD-ROM/DVD-ROMが挿入されているか、ご確認ください。Windows 98でSCSICARDから起動する場合、起動ディスクの作成中、ブートするCD-ROMの選択でSCSICARDを選択してください。

トラブル

バックアップイメージの読み出しテストでエラーが出てしまい、復元作業ができません。

原因

イメージを読み出すドライブとCD/DVDメディアの相性が悪く、読み出し中にエラーが発生しています。

対処方法

ドライブバックアップに使うメディアは、CD/DVDレコーダメーカー推奨品を使用してください。推奨のメディア以外を使用した場合、読み出しエラーの原因になることがあります。

トラブル

Windows 2000環境で、ドライブバックアップ時に下記のエラーが発生する。

- ・ドライブにディスクがありません。
- ・ディスクをドライブ¥Device¥Harddisk0¥DROに入れてください。

原因

お使いのWindows 2000環境にリムーバブルドライブ（MO、PD、メモリースティックなど）が接続されており、かつドライブ（レコーダ/リムーバブルドライブ）にメディアが挿入されていない場合に発生するエラーです。

対処方法

リムーバブルドライブの接続を外した状態でコンピュータを起動して作業を行っていただくか、リムーバブルドライブにメディアを挿入した状態で作業を行ってください。

トラブル

Windows 98/Me環境で、ドライブの復元時、復元元のイメージファイルを指定する際、次のエラーメッセージが表示され、復元元のイメージファイルを選択できない。

- ・デバイスの準備ができていません。
- ・ディスクを挿入してください。

原因

復元元のメディアを、WinCDRのレコーダ選択で選択しているレコーダに挿入しています。

対処方法

WinCDRのレコーダ選択で選択している以外のドライブ（CD-ROM/DVD-ROMドライブ、他のレコーダ）に、復元元のメディアを挿入してください。

接続されているドライブが選択レコーダのみの場合は、[設定]-[レコーダ選択]を選択し、表示される[レコーダ選択]ダイアログで、復元時のみ、仮想レコーダを選択してください。

サポートサービス

トラブルシューティングでも解決しなかったトラブルについては、サポートサービスをご利用ください。サポートサービスはサポートポリシーに基づいて提供されます。ご利用前に、以下の内容を注意深くご確認ください。

サポートポリシー

サポートポリシーとは、アプリケーション製品をご購入いただいたお客様に提供するサポートのサービス期間やその内容と、サービスを受ける際にご注意いただく事項を記述したものです。なお、株式会社アプリケーション（以下アプリケーション）は、本サポートポリシーの内容を、予告無く変更する場合があります。予めご了承ください。

[1] ユーザーサポートについて

- ・ アプリケーションのパッケージ製品を正規に購入し、ユーザー登録を完了されたお客様には、セルフサポートおよび90日間無償電話/FAXサポートサービスが提供されます。
- ・ 他社製品にバンドルされて出荷している製品、およびパソコンにプリインストールされて出荷している製品にはセルフサポートのみ提供されます（ただし、他社製品にバンドルされて出荷している一部の製品には、90日間無償電話/FAXサポートの適用対象となるものがあります。製品付属の注意書きなどをご確認ください）。

[2] 対象製品

対象製品は、日本国内で正式に販売され日本国内でユーザー登録が可能な弊社製品（アップグレード製品を含む）で、かつ、弊社がサポート対象製品として定めたものに限りです。ただし、他社製品にバンドルされた製品、もしくはパソコンにプリインストールされた製品に関する問題、および無償保証により提供するアップグレードプログラムをインストール（アップグレード）したことに起因する問題については、90日間無償電話/FAXサポートは提供されません。

[3] セルフサポート

お客様からのよくある質問、確認されているトラブルについて、症状や解決方法などの情報を、アプリケーションのウェブサイトよりアクセス可能なデータベースを通じて提供いたします。お客様は、インターネットのご利用によってのみテクニカルソリューションデータベースへアクセスすることが可能になります。

(3-1) セルフサポート提供期間

製品ごとのサポート提供期間（[6] ご参照）が終了した製品に関するデータベースは、お客様に予告無く削除される場合があります。

[4] 90日間無償電話/FAXサポートについて

- ・ 電話/FAXサポートは、弊社製品のインストール、基本的な操作、設定、様々な問題解決を行うために提供されます。よって、パソコンの操作方法や設定等といった弊社対象製品以外に関するご質問はお断りいたします。
- ・ 日本語でのご質問および回答に限りです。
- ・ お問い合わせの際には、登録済みのシリアルナンバーが必要です。

(4-1) 電話 / FAXサポート提供期間

サポート対象製品をご購入のお客様には、ユーザー登録完了後、最初にお電話またはFAXをいただいた日から90日間、以下の2種類の無償電話 / FAXサポートが提供されます(ただし、製品ごとのサポート提供期間([6]ご参照)内にいただいたご質問に限ります)。また、ユーザー登録を完了されていない場合、いかなるお問い合わせにもお答えできません。

(4-1-1) インストールに関する質問(インストールサポート)

- ・ 一台のパソコンへのインストールについてのご質問のみとさせていただきます(お客様が、サポート提供期間中にパソコンを買い換えられた(機種変更された)場合、サポート対象外となります)。
- ・ 対象製品のインストールが完了しない場合およびインストール作業により不具合が発生した場合の対応についてのご質問に限ります(対象製品をインストール後、正常動作状態であったにもかかわらず、他社製品をインストールしたことで発生した不具合は対象外となります)。
- ・ インストールに関するご質問については、最初にお電話またはFAXをいただいた日から90日間、回数の制限なくお問い合わせを受け付けます。

(4-1-2) 操作方法に関する質問(インシデントサポート)

- ・ 1パッケージにつき2インシデントまでの対応が含まれています。「インシデント」とは、お客様からお問い合わせいただいたご質問に含まれる「問題の件数」をいいます。「電話またはFAXの回数」ではありません。
- ・ 有償 / 無償に関わらず、インシデントの追加はできません。
- ・ 質問に複数の問題が含まれる場合は、問題ひとつあたり「1インシデント」となり、お問い合わせをいただいたひとつの問題に対して、有効な回答を提示した時点で1インシデントが消費されます。また、インシデントはアプリックスのサポートスタッフがお客様に通知をした上で消費されます。ただし、お問い合わせ内容が製品の不具合に起因するものとアプリックスが判断した場合には、インシデントは消費されません。
- ・ 最初にお電話またはFAXをいただいた日から90日間に、全てのインシデントが消費されなかった場合、残インシデントは全て破棄されます。

(4-2) 電話 / FAXサポート受付窓口

株式会社アプリックス CD/DVDユーザーサポート

TEL : 03-3207-6551 FAX : 03-3207-6624

(4-3) 受付時間

- ・ 受付時間は弊社ウェブ(<http://www.aplix.co.jp/>)にてご確認ください。

[5] その他の制限

- ・ ユーザー登録されている方と、お問い合わせいただいている方が異なる場合、サポートをお断りする場合があります。また、譲渡後の製品はサポート対象外となります。サポート対象製品が、使用許諾契約に定められている方法により譲渡された場合も同様です。
- ・ アプリックスから無償アップグレードプログラムが提供される場合があります。このプログラムはインターネットによるダウンロードによってのみ提供されます。
- ・ サポート対象製品発表時に販売されていないオペレーティングシステム(OS)あるいはサポート対象製品パッケージに記載されていないOS、または販売・記載されていたとしてもそのOSとご質問にかかるOSとのバージョンが異なる場合には、動作保証およびサポートはいたしません。

せん。万が一、お客様が非対応のOSに誤ってインストールされた場合であっても、発生した不具合についてはサポートできませんのでご了承ください。

- ・ 他社製品にバンドルされている弊社製品については、バンドルされた他社製品における動作のみが添付の使用許諾契約書に基づいて保証され、これ以外の動作保証はいたしません。動作保証環境で発生した不具合のサポートに関しては、弊社製品付属の注意書きなどをご覧ください。ただし、正規アップグレード製品をご購入の場合は新たにご購入いただいたパッケージ製品と同等のサポートサービスが提供されます。
- ・ サポートを提供する対象地域は日本国内とします。日本国以外の国もしくは地域からのお問い合わせは、サポートをお断りすることがあります。

[6] 製品ごとのサポート提供期間

アプリックス製品は以下の3つに分類されます。

最新のCATEGORY分類は弊社ウェブ (<http://www.aplix.co.jp/>) にてご確認ください。

CATEGORY-1

現在発売中の製品

CATEGORY-2

新製品が発表されたことにより、販売中止になった製品および開発中止製品

CATEGORY-3

既にサポート中止になった製品

- ・ 製品のサポート提供期間は、当該製品の販売開始から始まり、当該製品の販売中止または新バージョンの発表から1年間経過した時点で終了します。
- ・ 新製品はCATEGORY-1に分類されます。
- ・ 旧バージョン/販売中止製品は、製品ごとのサポート提供期間の終了時まで CATEGORY-2に分類されます。CATEGORY-2の製品は、CATEGORY-2 移行9ヶ月後(終了90日前)までに、アプリックスのウェブサイトにて告知を行ない、CATEGORY-2 移行1年後にCATEGORY-3へ分類されます。
- ・ CATEGORY-3に分類された製品はサポート対象外となります。

[7] メールによるお問い合わせについて

お客様のライセンス確認の都合上、いかなる窓口にもメールをいただいても、サポートに関する内容にはお答えできません。

[8] シリアルナンバーについて

ユーザーサポートを受けるためには、シリアルナンバーが必要です。また、お問い合わせをいただく際には、ユーザー登録が完了している必要があります。ユーザー登録が完了されていないお客様には、いかなる理由があってもシリアルナンバーの再発行はいたしません。万が一、シリアルナンバーを紛失された場合、サポートサービス/優待販売などが受けられなくなる場合がありますので、お客様自身で大切に保管してください。

[9] プログラムCD等の紛失について

プログラムCD-ROMおよびマニュアルなどは登録の有無に関わらず再発行いたしません。お客様自身で大切に保管してください。

サポートポリシーに関するQ&A

Question: インストールサポートは90日間であれば回数の制限なく問い合わせできるようにですが、パソコンを買い換えたときにサポートを受けられますか？

Answer: いいえ。最初にお問い合わせをいただいた環境において、インストールに関する対応が完了している場合、90日の期間中であっても、その後パソコンを買い換えられた場合は、インストールに関するお問い合わせをいただいてもサポート対象外となります。

Question: 「90日間無償電話/FAXサポート」の90日目に電話をしようとしたら、日曜日だったのでアプリックスのサポートがお休みでした。翌月曜日でもサポートを受けられますか？

Answer: はい。90日目がサポート休業日の場合、翌営業日まで有効です。

Question: 同じ内容を2回問い合わせた場合でもインシデントは消費されるのですか？

Answer: はい。最初にいただいたお問い合わせへの対応が終了している場合、新規問い合わせと同じ扱いになるためインシデントが消費されます。ただし、1回目のお問い合わせが完了していない場合は消費されません。

Question: 半年前に、「90日間無償電話/FAXサポート」でインストールのサポートを受けました。最近になって使い方がよく分からないところが出てきたので質問したいのですが、インシデントサポートを受けることはできますか？

Answer: いいえ。「90日間無償電話/FAXサポート」は、最初にお電話またはFAXをいただいた日から90日間有効です。90日の期間中に消費されなかったインシデントは全て無効となり、ご利用いただけません。

Question: USB接続のCD-Rレコーダ（外部接続のCD-Rレコーダ）を買ったときに付いてきた（バンドルされた）アプリックス製品を使用していますが、パソコンにもともと付いているCD-Rレコーダでうまく動きません。「90日間無償電話/FAXサポート」がついているようなのですが、パソコンにもともと付いているCD-Rレコーダに関する電話サポートは受けられますか？

Answer: いいえ。他社製品にバンドルされて出荷している製品は、バンドルされている他社製品における動作のみがサポートされますので、お客様の場合、アプリックス製品が付属しているUSB接続のCD-Rレコーダがサポート対象となります。ご利用のパソコンにもともと付いているCD-Rドライブは、サポートの対象にはなりません。

Question: IEEE1394接続のCD-Rレコーダ（外部接続のCD-Rレコーダ）を買ったときに付いてきた（バンドルされた）アプリクス製品を使用していますが、有償アップグレードを行った場合、アプリクス製品が付いていたレコーダ以外のレコーダについてサポートを受けられますか？

Answer: はい。ご使用になりたいレコーダが、製品の対応レコーダである場合は、正規にアップグレード版をご購入いただくことで、サポートポリシーに基づいたパッケージ製品と同等のサポートを受けることができますようになります。ただし、ご購入製品によりご注意いただく事項がございます。

他社製品にバンドルされて出荷している製品（外部接続のCD-Rレコーダ同梱品など）

・「無償アップグレードカード」などの無償アップグレード特典が付属していた場合は、アップグレード版をご購入いただいたことにはなりません。バンドルされた他社製品における動作のみがサポートされます。

パッケージ版

・「無償アップグレードシール」などの無償アップグレード特典が付属していた場合は、有償バージョンアップと同等のサポートを受けることができます。

Question: パッケージ版のアプリクス製品を使用しています。最初はうまく動いていたのですが、他社パッケージをインストールしてからアプリクス製品が動かなくなってしまうました。電話サポートは受けられますか？

Answer: いいえ。正常に動作している状態で、他社製品をインストールされたことにより動作不可になった場合、サポート対象外となります。最後にインストールされたソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

Question: 有償でも良いので、サポート期間の延長をしてもらいたいのですが、追加サポートを受けられますか？

Answer: いいえ。残念ながら、サポート期間の延長、インシデントの追加はできません。

Question: パッケージを友人に譲ろうと思っています。買ってからサポートに問い合わせたことは無いのですが、譲渡後にサポートを受けられますか？

Answer: いいえ。残念ながら、譲渡された場合サポートを受けることはできなくなります。また、譲渡を行うには、「譲られる方」と「譲り受ける方」双方のご署名を頂戴いたします。譲渡をご希望の方は、アプリクス販売まで、お問い合わせください。

Question: 「ユーザー登録ハガキ」を郵送したのですが、何日ぐらいで登録が完了するのでしょうか？インストールできなくて困っています。

Answer: 「ユーザー登録ハガキ」を郵送された場合、登録完了までに3週間ほどお時間をいただいています。お急ぎの場合は、ホームページからご登録ください。

Question:「ユーザー登録ハガキ」を出してから30日以上たつのに、ユーザー登録完了を通知するハガキが来ないためサポートに電話できないのですが、どうなっているのでしょうか？

Answer: アプリックスでは、ユーザー登録完了をお知らせするハガキなどを送付しておりません。ご了承ください。

Question: ホームページでユーザー登録したのですが、登録完了のメールは来ますか？

Answer: はい。正しく登録が完了した場合、登録完了のメールを送付しています。1日たってもメールが届かない場合は、「ユーザー登録内容の変更」にログインし、メールアドレスが正しく設定されているかどうかをご確認ください。また、変更画面にログインできない場合は、ユーザー登録が正しく完了していない可能性があります。この場合は改めてユーザー登録を行ってください。

Question: パソコンを買い換えたので、再インストールしようとしたのですが、シリアルナンバーを無くしてしまいました。再発行していただくことは可能ですか？

Answer: いいえ。ユーザー登録が行われていない場合、いかなる場合でもシリアルナンバーの再発行はできません。シリアルナンバーはお客様自身で大切に保管してください。

Question: マニュアルにコーヒーをこぼして汚してしまいました。マニュアルだけ購入できますか？

Answer: いいえ。マニュアルだけの販売はしておりません。

Question: 引っ越しの際にプログラムが入ったCD-ROMを紛失してしまったようです。CD-ROMを再発行していただくことはできますか？

Answer: いいえ。マニュアル、プログラムCD-ROMなどの再発行はできません。お客様自身で大切に保管してください。

Question: メールでの問い合わせはできますか？

Answer: いいえ。ライセンス/サポート対応履歴を確認させていただく都合上、メールでのサポートは行っていません。お電話またはFAXにてお問い合わせください。FAXでお問い合わせをいただく際には、「サポート質問用紙」に必要事項をもちろんご記入いただきますようお願いいたします。

SYMANTEC社NORTON Ghostのご使用について

「NORTON Ghost」は、単体でのご使用はできません。単体でのご使用をご希望のお客様向けに特別な販売価格をご用意いたしました。ご優待販売の詳細につきましては下記 URLをご参照ください。

ご案内・申込み窓口：<http://www.symantec.co.jp/aplix/>

お問い合わせ先：シマンテックカスタマーサービスセンター

受付時間：月～金 10:00～12:00、13:00～17:00

(土・日・祝日・年末年始を除く)

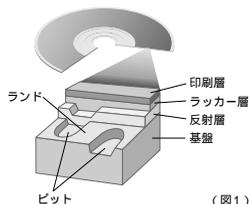
電話：03-3476-1156 FAX番号：03-3476-1159

CD-R/CD-RWの基礎

音楽CDがどのような構造になっているか? 普段、こんなことを考えながら音楽を聴くことはないでしょう。ですが、WinCDRを使う上で、CDまたはCD-R、CD-RWの構造を知っているということは大切なファクターであり、後々の疑問を解消してくれるきっかけにもなるはずです。ここでは、CDとはどのようなものなのかをみていきましょう。

構造を知る

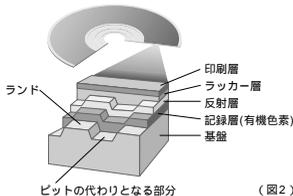
音楽CDとCD-ROMは、データの記録方式が異なるだけで、物理的には同じ構造です。タイトルなどが印刷された表面から順に、印刷層(シルク印刷)、ラッカー層、反射層(アルミ)、基盤(ポリカーボネイト)の4層で形成されています。基盤には“ピット”と呼ばれるくぼみがプレスされていて、くぼんでいない部分は“ランド”と呼ばれています(図1)。



(図1)

音楽CDプレーヤーやCD-ROMドライブはヘッドからレーザーを照射します。レーザーは反射層で反射され、基盤を透過してヘッドに戻りますが、ピットとランドの部分では戻ってくるレーザーの反射に変化が生じます。そこで、ピットとランドの境目が1、その他は0というデジタル信号が認識され、再生されるのです。

CDは工場ではプレスして作成されるので大量生産に適していますが、数量が少ないものには不向きです。「1枚からでもCDを作成したい」...こうした要望に応えてくれるのが、CD-Rです。



(図2)

CD-RはCD-ROMの基盤と反射層の間に、有機色素を使った記録層を追加しています(図2)。データを書き込む際にはレコーダのレーザー出力を上げて、記録層にピットの代わりとなる焦げ目をつくります。焦げた紙が元に戻らないように、CD-Rに一度書き込まれたデータも消去できません。このおかげで、CD-Rにはデータ改ざんの心配がありません。

CD-RWは、外見はCD-Rと大差ありませんが、CD-Rがライトワンス(Write Once : 1度だけ書き込める)であるのに対し、書き込み後の消去が可能なメディアであるという大きな特徴もっています。

CD-Rは有機色素の記録層にレーザーを照射してデータを書き込むため、一度書き込んだものは元に戻りません。しかしCD-RWでは、記録層にレーザーの強弱により非結晶状態(記録状態)、結晶状態(消去状態)を作り出す素材を用いることで、約1000回の書き込み・消去を可能としているのです。

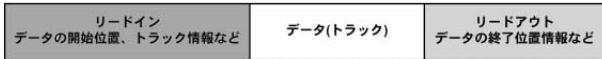
ただし、音楽CDやCD-ROM、CD-Rのレーザー反射率が約70%であるのに対し、CD-RWの反射率は20%程度と、かなり低くなっています。そのため、音楽CDプレーヤーやCD-ROMドライブから照射されるレーザーでは出力が弱すぎ、CD-RWに書き込まれているデータを読み込むことができません。CD-RWのデータを読み込むためには、CD-RW対応のCD-ROMドライブ、またはレコーダが必要となります。お持ちのドライブやレコーダについては、それぞれのマニュアル等で確認してください。

CD-Rへの記録方式

CD-Rへの記録方式は、“ディスクアットワンス”、“トラックアットワンス”、“パケットライト”の3種類に大きく分類することができます。WinCDRでは、主要な記録方式であるディスクアットワンスとトラックアットワンスに加え、セッションアットワンスもサポートしています。

ディスクアットワンス(Disc At Once)

データの開始位置等を示す“リードイン”書き込みたいデータ 終了位置等を示す“リードアウト”までを一度に書き込む方法です(図3)。データのつなぎ目がないので、大量生産される音楽CDやCD-ROMのマスター(原盤)を作製するときなどに用いられます。ただし、一枚のメディアに一度しか書き込みができない、すなわち、追記ができない方式なので、仮に650MBのメディアに1MBしか書き込んでいなかったとしても、それ以上の書き込みはできなくなります。



(図3) ディスクアットワンス

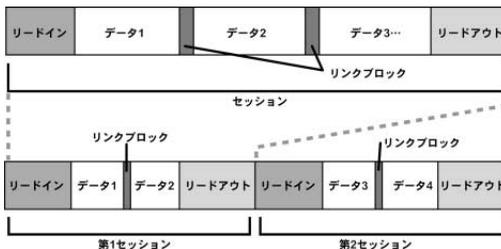
ディスクアットワンスはこのような場合に利用されます。

- ・大量生産する音楽CDやCD-ROMのマスター(原盤)を作成する場合
- ・元になるCDとまったく同じ複製を作成する場合
- ・後からデータを追加する必要のない(されたくない)CDを作成する場合

トラックアットワンス(Track At Once)

書き込む順序がディスクアットワンスと異なり、データ(トラックと言う場合もあります) リードイン リードアウトとなります。ただし、書き込みが始まる前にリードインの領域は確保されているため、並びはリードイン、データ、リードアウトとなり、ディスクアットワンスと同じです。トラック書き込み後にリードイン、リードアウトを書き込むことを、“クローズセッション”と言います(クローズセッションの際、データとデータの間につなぎ目=リンクブロックができるため、マスターの作成には利用できません)。

また、トラックアットワンスでは、セッションを閉じた後も新たなセッションを追記することができます。ただし、追記のたびに新たにリードインとリードアウトが必要となるため、書き込みたいデータの他に、約14MBのデータ領域が消費されます。トラックアットワンスでは、規格上、追記は99回まで可能ですが、45回繰り返し返せば、リードインとリードアウトだけで630MBも消費されてしまいます。追記を頻繁に行う場合は、このことを念頭においておく必要があります。



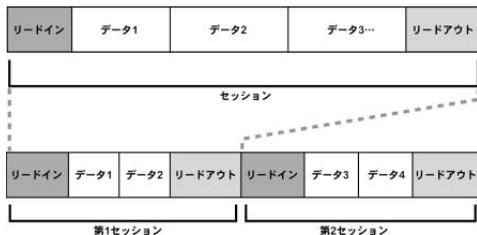
(図4) トラックアットワンスとマルチセッション

トラックアットワンスはこのような場合に利用されます。

- ・後からデータを追加する可能性のある（必要がある）CDを作成する場合。

セッションアットワンス(Session At Once)

メディアへ書き込んでいく順序は、ディスクアットワンスと同じく、リードイン データ(トラック) リードアウトとなります。トラックアットワンスで書き込んだCDは、トラック間にリンクブロックが入ってしまいます。セッションアットワンスは、トラック間にリンクブロックが発生しないため、曲間をゼロにすることもできます。トラックアットワンスとディスクアットワンスの利点を融合させた記録方式、それがセッションアットワンスです。



(図5) セッションアットワンスとマルチセッション

セッションアットワンスはこのような場合に利用されます。

- ・Enhanced CDを作成するとき

パケットライト(Packet Write)

トラックアットワンスがトラック(例えば音楽1曲)ごとに書き込む方法であるのに対し、トラックをさらに細かなデータの固まり(=パケット)に分けて書き込む方法です。WinCDRでサポートしているディスクアットワンスとトラックアットワンス、セッションアットワンスは、WinCDRのユーザインターフェイス(ソフトウェアの画面)を通しての書き込みとなりますが、パケットライトは、利用の前にメディアに独自のフォーマットをすることにより、Windowsのエクスプローラ上で、フロッピーディスクやハードディスクにデータを書き込むような操作感を実現しています。

ただし、専用ソフトウェアによる独自のフォーマットのため、CD-ROMドライブでデータを読むにはリードユーティリティが必要になります。また、音楽CDの作成もできません。

パケットライトはこのような場合に利用されます。

- ・保存のやり直しなど、何度もデータを更新したい場合
- ・フロッピーディスクやハードディスクのようにCD-Rを使いたい場合

用語集

aspi

Advanced SCSI Programming Interfaceの略。米アダプテック社が開発したSCSIの共通プログラミングインターフェイス。このインターフェイスを提供するSCSIボードのデバイスドライバをASPIマネージャと呼ぶ。ASPIマネージャが共通のプログラミングインターフェイスを提供することでSCSIボードの差異を吸収するため、ASPIマネージャがインストールされれば、仕様の異なるボードで同一のSCSI機器の利用が可能となる。

Audio CD

音楽CDを指す。CD-DAとも呼ばれる。

AVI

Audio Video Interleaveの略。Microsoft社のWindowsにおける標準的なムービーファイル形式。ムービーファイルの圧縮方式は基本的に決まっておらず、圧縮 / 伸張のCodecを追加することによって幅広い動画のフォーマットに対応することが可能となる。

CD Extra

* Enhanced CD参照

CD-DA

Compact Disc Digital Audioの略。音楽CDを指す。1982年にソニーとPhilipsによって規格化され、この規格は、規格書の表紙の色からRed Bookと呼ばれている。Red Bookでは1セクタの大きさは2352バイトと定められている。

CD-I

Compact Disc Interactiveの略。CD-ROMをホームユースのマルチメディア媒体として発展させたもので、1986年にソニーとPhilipsによって提案された規約。この規約はGreen Bookと呼ばれている。

オーディオデータの他に、画像（静止画、アニメ、CGなど）データ、文字などが記録されたCDで、Green Bookにより、ディスク

へのデータの記録方法、再生用プレーヤのCPUやOSまでを含めて定められている。1セクタの大きさは2336バイト。

CD-R

Compact Disc Recordableの略。CD-ROMの基盤の上に有機色素を使った記録層が追加されたもので、レコーダのヘッドからレーザーを照射して記録層に焦げ目をつくることにより、データを書き込んでいる。ただし、一度書き込んだ内容は消去できない。CD-Rにはグルーブという溝がプレスされており、レーザーはこの溝に沿って照射される。

規格については、1989年にソニーとPhilipsによって発行されたOrange Book Part に記されている。なお、Orange Book Part は1994年にバージョン2.0、1997年にバージョン3.0へとリニューアルされている。

CD-ROM

Compact Disc Read Only Memoryの略。1982年にソニーとPhilipsによって規格化された音楽CD（CD-DA）を拡張し、文字や画像などコンピュータで処理できるデジタルデータを記録できるようにしたもの。1983年に規格が提唱され、これはYellow Bookと呼ばれている。1セクタの大きさは、Mode1（エラー訂正コード有）の場合は2048バイト、Mode2（エラー訂正コード無）の場合は2336バイトとなっている。

CD-ROM XA

CD-ROM eXtended Architectureの略。データとリアルタイムデータ（ビデオ、オーディオなど）を混在させたもの。1セクタの大きさは2336バイト。

CD-RW

Compact Disc ReWritableの略。記録層にレーザーの強弱により非結晶状態（記録状態）、結晶状態（消去状態）を作り出す素材を用いることで、約1000回の書き込み・消去を可能にしたCD。CD-Rと違い、通常のCD-ROMドライブでは読み出せないが、CD-RWに対応したマルチリードタイプのドライブであれば読み出しが可能。

規格については、1989 年にソニーと Philipsによって発行されたOrange Book Part に記されている。

CD TEXT

音楽CDにアルバムタイトルや曲名、アーティスト名などの文字情報を追加したもの。記録できる文字数は、アルファベット(半角)で約3000文字、漢字(全角)で約1500文字。この範囲内であれば、最大8言語使用でき、日本語の利用も可能(使用できる文字に制限あり)。

音楽の再生のみであれば通常の音楽CDプレーヤでも可能だが、曲情報を表示するには対応するプレーヤが必要。

DVD-ROM

読み出し専用のDVD。「DVD-Video」や「DVD-Audio」も、物理的には同じメディアを使用する。記憶容量は1層片面で4.7GB、2層片面8.5GB、両面を使用した場合に最大で17GBとなる。

DVD-RW

書き換え可能なDVD規格のひとつ。書き換え可能回数は約1000回程度。

DVD-Video

動画圧縮にMPEG2を使用する。

再生には専用のプレーヤ(ハードウェア/ソフトウェア)が必要。

DVフォーマットのAVIムービー

IEEE1394規格のDV端子(FireWire/iLink端子)とDV機器(デジタルビデオカメラ/デジタルビデオデッキなど)の端子間で、動画のデジタル転送を行うことを目的としたDV形式で圧縮されたAVIのムービーフォーマット。他にDVフォーマットのQuickTimeムービーファイルもある。

El Torito

IBM社とPhoenix社が共同で考案した、コンピュータを起動させることのできるCD(=ブータブルCD)の規格。名称は、両社で会談がもたれたレストランの名前に由来している。

Enhanced CD

Mixed Mode CDは音楽CDプレーヤで再生しようとする、先頭のデータトラックが再生されてしまうため、ノイズが発生したりする問題があった。それを解消するためにオーディオトラックの後にデータトラックを追記したものがEnhanced CDである。音楽CDプレーヤに挿入すれば音楽CDとして認識され、CD-ROMドライブに挿入すればオーディオトラックを含むCD-ROMとして認識される。

CD Extraは、第1セッションにオーディオトラック、第2セッションにCD-ROM Mode2のデータトラックを記録したCDで、現在では一般的にEnhanced CDといえ、CD Extraを指すことが多い。

FAT

File Allocation Tableの略。Windowsで使われているファイルシステム。ハードディスクなどにファイルを保存するとき、どのファイルがどこに保存されているかを管理する。アロケーションブロックサイズの違いにより、FAT16とFAT32がある。FAT16では単一のボリュームサイズが最大2GBまでしか使用できない。

HFS

Hierarchical File Systemの略。MacOSで使用されているファイルシステム。ファイル名の文字種、制限などMacOSの制限に準じる。リソースフォーク、オリジナルアイコンなどの情報も保存される。

IEEE1394

米国Apple社と米国テキサスインスツルメンツ社が提唱したFireWire規格をベースとして、IEEEが標準化したシリアルインターフェイスの規格。SONYのiLINKも同じ規格。

ISO 9660

ISO(International Organization for Standardization:国際標準化機構)で定められたCD-ROMの標準的ファイルシステム。ファイル名の付け方、データの配置などの違いにより、Level1からLevel3に分けられる。

ISRC

International Standard Recording Cordの略。Audio CDのトラック(曲)ごとに付ける曲コードのこと。文字数は半角12文字で、最初の5文字は大文字のA~Zまたは数字0~9、残り7文字は数字0~9を使用する。

Joliet

マイクロソフト独自のファイルシステムで、64文字までのロングファイル名を付けられる。ロングファイル名に対応していないIOSでは、8.3形式のISO 9660互換ファイル名で表示されるようになっている。

Mixed Mode CD

データトラックの次に、オーディオトラックを書き込み、クローズセッションしたCD。CD-ROMタイプのゲームソフトなどで多く用いられる方式だが、先頭にデータトラックが書き込まれているため、音楽CDプレーヤーで再生しようとする、ノイズが再生される、無音が続く、あるいはオーディオ機器に損害を与えるなどの問題がある。

MPEG

Moving Picture Experts Groupの略。動画や音声をデジタル圧縮する技術。ISOの下部組織にあたる標準化団体の名称でもある。符号化方式に離散コサイン変換、予測符号化手法に「動き補償フレーム間予測」を採用している。

MP3

MPEG Audio Layer3の略称。MPEG規格において、オーディオ部分を規定したパートのうち、Layer3に分類されるアルゴリズム(手順)を利用して作成された音声圧縮ファイルのこと。MPEG Audioには3つのLayerがあり、各Layer間の主な違いは、圧縮時の音声品質。上位のレイヤほど、同じ圧縮率での音声品質が高くなる。CDクオリティ(44.1kHz, 16bitステレオ)の音声を聴感上の劣化がないように圧縮する場合、Layer1では約1/4、Layer-2では約1/6のサイズとなるが、Layer-3では約1/10。なお、MPEG-1とMPEG-2の双方に存在するが、圧縮方式はどちらも同じである。

NTFS

Windows NTで新たに導入されたファイルシステム。性能向上のためのスケジューリングと、信頼性向上のための即時書き込みを両立させている。セキュリティ情報はMS-DOSのFATよりも大幅に強化されており、各ファイルごとに操作や読み出し、書き込みなどができるユーザーやグループを細かく設定できるようになっている。また、ハードディスクに書き込んだデータの特徴を自動的に記録するため、データの復旧性が向上している。

Proxyサーバ

インターネットに接続する際、セキュリティを確保するために設置されるサーバ。Proxyとは「代理」を意味する。特に社内LANなどセキュリティ強化のためにファイアウォールと併用して使用される。またインターネット接続時に送られてくるHTMLデータ情報などをキャッシングすることにより何度も同じ情報を取得しないようにProxyサーバに保存しておき、クライアントのインターネット接続高速化やトラフィックの混雑を軽減する役目も持ち合わせる。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略。ハードディスクやCD-ROMドライブなどの機器をコンピュータに接続するシステムインターフェイスのひとつ。

SCSI ID

ハードディスクやCD-ROMドライブなどのSCSI機器を接続する際、個々の機器を識別するために付けられる番号。0~7で、空いている番号を使用する。

TOC

Table of Contentsの略。データ記録の際、リードインに書き込まれるデータで、ディスクのどこに、何が書き込まれているかが記されている。

UDF

Universal Disc Formatの略。OSTA (Optical Storage Technology

Association)によって提案された汎用のディスクファイルフォーマット。

DVDが採用している。また、バケットライント方式での書き込みにも利用される。

UFS

SunOSまたはSolarisOSで使用されているファイルシステム。ファイル名の文字種、制限など各OSの制限に準じる。

USB

ユニバーサル・シリアル・バスの略。キーボードやマウスなどさまざまな周辺機器を接続するために利用されている。最大転送レートが12Mbpsと低かったが、USB2.0規格の登場により最大480Mbpsまで転送が可能になった。

Video CD

動画や音声をデジタル圧縮したMPEG ファイルをCDに書き込んだもので、専用のビデオCDプレーヤのほか、CD-R対応のDVDプレーヤでも再生できる。

プレイバックコントロールなど、より一層インタラクティブ要素を拡張したVideo CD Ver.2.0も登場している。

WAVE

Windowsの標準的な音声ファイルのフォーマット。拡張子は.wav。

イメージファイル

メディアにデータを書き込む際、コンピュータのハードディスクなどに一時生成されるデータ。このイメージファイルからメディアへの書き込みが行われる。

ウェル

WinCDRのメインウィンドウの、フォルダやファイルを配置・編集する部分。

エンコード

データを一定の規則にしたがって符号化する、ハードおよびソフトを含むシステム。反対はデコード。

オンザフライ

メディアにデータを書き込む際、ハードディスクなどにイメージファイルを作成せずに、直接CD-Rに書き込む方法。イメージファイルを作成する方法に比べて、マシンパワーに依存する割合が高い。

書き込み速度

メディアにデータを書き込む速度。低速に設定するほど書き込み失敗の確率は低くなる。

キュー・シート

作成したCDの形式、内容等のデータが記されたもの。マスターディスクをプレス業者等に渡す際に添付する。

グループ

CD-R、CD-RWに刻まれているレーザの案内溝。グループに沿ってレーザが照射される。

クローズセッション

メディアに書き込んだデータの先頭にリードイン、後端にリードアウトを書き込むこと。クローズセッションが行われていないメディアはCD-ROMドライブで認識されない。

サブチャネル

セクタアドレス、セクタモードが記録された特別な領域。

通常のデータ、オーディオデータが記録されたメインチャネルに対して、サブチャネルと呼ぶ。

サンプリング

標本値定理に基づいてアナログ信号のレベルを一定時間ごとに計測し、データ化すること。

サンプリングレート

サンプリングを行う間隔時間で、秒を単位とする。また1秒間に行うサンプリングの回数をいうこともあり、Hzを単位とする。

シングルセッション

リードイン+データ+リードアウトで形成されるセッションが、メディアに1つしか書き込まれていない状態。

セッション

リードイン+データ+リードアウトの3つの組み合わせを指す。

セッションアットワンス

リードイン、データ、リードアウトの順にセッションを書き込み、なおかつ、セッションを追記できる書き込み方法。

ターミネータ

SCSI機器の、ケーブルに接続されていないコネクタに取り付ける終端抵抗。物理的に取り付けるものと、レコーダに内蔵されていて、スイッチを操作するだけのものがある。ターミネータを付けていないと、誤作動の確率が高くなる。

追記

メディアにデータを追加していくこと。クローズセッションしたメディアにあらたにセッションを書き込んでいく“セッションアットワンス”と、クローズセッションしていないメディアにあらたにトラック(データ)を書き込んでいく“トラックアットワンス”がある。

ディスクアットワンス

1枚のメディアに全データを一度に書き込む方法。データのつなぎ目がないので、大量生産される音楽CDのマスターを作製するときなどに用いられる。複数回の書き込みはできない。

デコード

符号化(エンコード)されたデータを、理解可能な元の状態に戻すこと。

デフォルト

ソフトウェアのインストール後の設定、ハードウェアの出荷時の設定等、何も手を加えていない状態を指す。

デフラグ

ハードディスク上のフラグメンテーション(データの断片化)を解消するためのツール。Windows95/NTに標準で装備されている。

トラック

メディアに書き込まれるデータを指す。

トラックアットワンス

トラック(データ)ごとに書き込んでいく方法。トラックとトラックの間にリンクブロックというエリアができるため、マスターとしては利用できないが、容量の範囲内で最大99トラックまで追記が可能。

トラックイメージ

メディアに書き込むトラック(データ)をひとまとまりのファイルにしたもの。

ノーマライズ

曲全体のピーク値の平均が50%に対して、ある一部分が40%しかない場合、この40%を平均の50%にすること。音量レベルを一律に平均化(最適化)すること。

バケットライト

小さなデータの固まり(=バケット)を単位として書き込む方法。ひとつひとつのデータが小さいため、メディアの容量を効率よく利用できる。

バッファ

レコーダに転送されてきたデータを一時貯えておく部分。

バッファアンダーラン

バッファへのデータ転送速度が、バッファからメディアへの書き込み速度より遅いため、バッファ内のデータが徐々に減り、書き込みができなくなってしまう現象。

バッファエラー

* バッファアンダーラン参照

ビット

CDの基盤に刻まれたくぼみを指す。ビットのある部分と、ない部分(ランド)ではレーザの透過率が異なり、CD-ROMドライブやプレーヤはこの違いを利用してデータを読み出している。

ファームウェア

ハードウェアに組み込まれて動作するプログラム。レコーダのファームウェアはレコーダメーカーで適宜バージョンアップされており、ファームウェアをアップデートすることによりエラーが解消されるケースもある。

ブータブルCD

コンピュータを起動させることのできるCD。ブータブルCDでコンピュータを起動させるには、コンピュータ側で起動ディスクとしてCD-ROMドライブを選択しておく必要がある。

フラグメンテーション

ハードディスク等に記録されているデータの断片化を指す。フラグメンテーションが大きいとデータのあるブロックを探すためにアクセスの速度が低下し、結果的にレコーダへのデータ転送速度が低下するので、メディアへの書き込み失敗の確率が高くなってしまふ。

ブリエンファシス

オーディオの録音時に高域を強調する記録方式。

ブリギャップ

Audio CDなどで、トラックの前に挿入される無音部分。

プリマスタリング

リードイン、リードアウト、エラー訂正コードなどを付加して、イメージファイルを作成する工程。

ポストギャップ

Audio CDなどで、トラックの後ろに挿入される無音部分。

ボリューム

ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROMなどを指す総称。ハードディスクをパーティションで区切った場合、区切られたひとつひとつのエリアもボリュームと呼ばれる。

マルチセッション

リードイン+データ+リードアウトで形成されるセッションが、メディアに複数(マルチ)書き込まれている状態。

メディア

CD-R、CD-RWなどのディスクの総称。

読み込み速度

WAVEファイルの作成やディスクをコピーする際、元のディスクからデータを読み込む速度。

ランド

CDの基盤上で、ピット(くぼみ)が刻まれていない部分を指す。ピット部分とランド部分ではレーザの透過率が異なり、CD-ROMドライブやプレーヤはこの違いを利用してデータを読み出している。

リードアウト

メディアに書き込まれたデータの後ろに記録される、データの終了位置情報。

リードイン

メディアに書き込まれたデータの前に記録される、データの開始位置情報。TOCなどもここに記録される。

リンクブロック

トラックアットワンスで書き込む場合、何度か追記ができるため、一度にディスクの情報を確定することができない。そのため、トラックとトラックの間にデータの開始位置を決定するつなぎ目が必要になる。これがリンクブロックである。

Index

Numerics

4ch208

A

Authoring Tool 14, 126, 148

C

CD TEXT の設定 207, 61
 CD-R TITLE PRINTER201
 CD-ROM 90
 CD-R のリペアコマンド199
 CD 情報接続設定コマンド197
 CD の作成タブ200
 CD のテスト読み取りコマンド199
 CD ラベルプロダクション 2Light ...201
 CD を丸ごとコピーする 58
 CD 情報のデータベースを利用する ... 62
 Chapter156
 CM をカットする135
 Cue Sheet 92

D

Disc at once 204, 261
 DVD+RW 互換性重視206
 DVDIt!201
 DVD-ROM 90
 DVD-Video 14
 DVD-Video に準拠しない MPEG2 ファイル133
 DVD-Video の作成151
 DVD-Video の作成コマンド198
 コマンド157
 DVD イメージ157
 DVD イメージから DVD-Video を作る .. 158

E

Enhanced CD の作成 70

H

HTML ヘルプ表示コマンド197

I

IN point135
 ISO 9660 90
 ISO 9660/UDF パネル206
 ISO 9660 イメージ作成コマンド ...198
 ISO 9660 トラックイメージ .97, 185

ISRC210

J

JukeboxDVD 14, 164

M

Media Encoder14, 124, 127
 miniDVD160
 Mixed Mode CD の作成177
 Mixed Mode CD の作成ボタン200
 MP3 オンザフライ書き込み207
 MP3 ファイル48
 MPEG2 の画質とビットレートの関係 132
 MPEG2 の再エンコード133
 MPEG のエンコード200
 MPEG のエンコードコマンド198
 MPEG ファイルの最大サイズ125
 MPEG ファイルを挿入コマンド196

O

OUT point135

P

Packet Write262
 Photo Impression201

R

R to R59
 ROM to R59
 RW メディア消去200
 RW メディアの消去 (WinCDR Lite) 239
 RW メディアの消去187
 RW メディアの消去コマンド199

S

Session at once 204, 262

T

TOC タイプ204
 Track at once204, 261

U

UDF 90
 USB の速度制限をしない209

V

VBR132
 VBR を使用する130

Video CD 14, 161
 VideoCD 1.0 の作成 200
 Video CD の作成 161
 Video CD2.0 の作成コマンド 198
 Video Impression 201
 Video のオーサリング 152, 200

W

WAVE ファイル 48
 WAVE ファイル作成コマンド 198
 WAVE ファイルにエフェクトをかける 82
 WAVE ファイルの作成 200, 54
 WAVE ファイル編集 79
 WAVE ファイル編集コマンド 198
 WAVE ファイルをトラックごとに分割する
 80
 WAVE ファイル作成ダイアログ 50, 54
 WinCDR Lite 36
 WinCDR Lite の起動 25, 36, 37
 WinCDR Lite の終了 25
 WinCDR のインストール 20
 WinCDR の起動 26
 WinCDR の終了 27

あ

アドオンツール 191
 アドオンツールコマンド 199
 アドオンツールタブ 201
 アナログ録音 74, 200
 アナログ録音コマンド 198
 アプリケーションの終了コマンド 195
 アラーム音 209

い

イジェクト 195, 202
 一覧コマンド 197
 イメージ作成フォルダ 209
 イメージタイプ 207, 208
 インポート 129

う

ウェル 30, 202
 ウェルの状態の保存 97
 上書き保存コマンド 195

え

エクスプローラ 30, 202
 エクスプローラコマンド 197
 エフェクト 86, 198, 200
 エンコード 14, 128

お

応用システム識別子 214

応用システム用 216
 大きいアイコンコマンド 197
 オーサリング 148
 オーサリング画面 153
 オーディオ CD の作成 200, 56
 オーディオコントローラ 202
 オーディオパネル 207
 オーディオファイルを挿入コマンド 196
 オリジナル CD の作成 38, 49
 音楽 CD の作成 13
 オンザフライ書き込み 99, 174, 206

か

解像度 130
 書き込み後にコンペア 205
 書き込みコマンド 195
 書き込み設定コマンド 197
 書き込み設定ダイアログ 204
 書き込み速度 204
 書き込み速度を自動調整 205
 書き込み手順 204
 書き込みボタン 202
 書き込む前の準備 32
 画質 130
 仮想レコーダ 203
 簡易モード 105
 環境設定コマンド 197
 環境設定ダイアログ 32, 209
 簡単ウィザードの使用 209
 かんたんバックアップ 16, 100, 200
 かんたんバックアップコマンド 198

き

起動ディスクの作成 113
 キャッシュサイズ 209
 曲・トラックを後ろに移動コマンド 196
 曲・トラックを前に移動コマンド 196
 曲名ファイルの使用 67
 切り取りコマンド 196

く

クローズセッション 78, 200, 204
 クローズセッションコマンド 198

け

検索条件 100

こ

更新日時 216
 更新ファイルを保存 100
 ご使用になる前にコマンド 199
 コピー 45, 196
 コピー許可 206, 207, 208, 210
 コピー (R to R) 172

コピー (ROM to R) 174

さ

最新のファイルコマンド 195
再生手順 156
削除コマンド 196
作成日時 215
サムネイルコマンド 197

し

システム識別子 213
システムバックアップ 110
システムファイル 216
失効日時 216
出版者識別子 214
出力アスペクト比 130
使用 / 空き容量の単位コマンド 197
詳細コマンド 197
抄録ファイル識別子 215
書誌ファイル識別子 215
新規作成コマンド 195

す

スタイル 153, 156
ステータスバー 202
ストーリーボード 153
スライドバー 136

せ

制限事項 125
製作者パネル 214
セッションアットワンス 204, 262
セッションを読み込む 95
設定 130
設定メニュー 197

た

ダイアログウインドウ 203

ち

小さいアイコンコマンド 197
著作権ファイル識別子 214
著作者情報パネル 214

つ

追記 44, 95, 98, 107, 179
追記禁止 92, 204
ツールタブ 200
ツールメニュー 198

て

ディスクアットワンス 204, 261
ディスクイメージ表示コマンド 199
ディスク情報コマンド 199
ディスクのコピー 170, 198, 200
ディスクの種類 202
ディスクの読み込みコマンド 195
ディスクマップ 202
データ 208
データ CD/DVD の作成 91, 200
データ設定コマンド 197
データの保存 16
データファイルパネル 216
データ編集者識別子 214
データ設定ダイアログ 206
テスト書き込み 99
デバイスリストコマンド 199
転送エラー防止機能を使用 205

と

ドライブの復元 119, 200
ドライブの復元コマンド 198
ドライブバックアップ ..16, 110, 200
ドライブバックアップコマンド 198
トラックアットワンス 204, 261
トラックイメージ 184
トラックイメージから CD を作成する
200, 186
トラックイメージパネル 208
トラックイメージ読み込みコマンド 195
トラックイメージを挿入コマンド 196
トラック情報の付加 65
トラック設定コマンド 197
トラック設定ダイアログ 210

な

名前の付け方 202
名前の付け方コマンド 197
名前の付け方ダイアログ 212
名前を付けて保存コマンド 195

に

入力アスペクト比 130

は

バージョン情報コマンド 199
バージョン番号 206
ハードディスクの空き容量 34, 150
波形編集 80, 200
パケットライト 262
発効日時 216
バッチエンコード処理 140
貼り付けコマンド 196

ひ

日付 / 時刻パネル	215
ビットレート	130
ビデオのオーサリングコマンド	199
表示メニュー	197
開くコマンド	195

ふ

ファイルの最大サイズ	125
ファイルの保存	90
ファイルメニュー	195
ファイル、フォルダの保存	42
フィールドオーダーを反転する	130
フィルタ設定コマンド	197
フィルタ設定ダイアログ	211
ブータブル CD/DVD を作成	206
ブータブル CD の作成	180
ブータブル DVD の作成	180
フォーマット	130
フォトアルバム	14
フォトアルバムの作成	166
フォルダ階層	206
フォルダを挿入コマンド	196
復元	119
復元モード	105
複数ソースムービーの編集	138
プリエンファシス	207, 208, 210
プリギャップ長	207, 208, 210

へ

ページ	156
ベスト CD の作成コマンド	199
ヘルプメニュー	199
編集メニュー	196

ほ

ホイールマウスオペレーション	136
ポストギャップ長	206, 207, 208, 210
ボリューム識別子	213
ボリューム集合識別子	213
ボリューム情報	213
ボリューム情報コマンド	197
ボリュームパネル	213
ボリュームラベル	207

ま

マーカー	80
毎回、名前のチェックを行う	209
マイベスト音楽 CD の作成	200
マニュアルの参照コマンド	199

む

ムービーのエンコード	128
ムービーの編集	124, 134
ムービーの連結	124, 139
ムービーファイルフォーマット	141

め

メインウィンドウ	30, 194
メディアの未使用領域	92
メニューバー	195

ゆ

ユーザー登録ページコマンド	199
---------------------	-----

よ

用語集	263
読み取り専用属性	43, 94

ら

ランチャタブ	30, 200
--------------	---------

り

リペア	189
利用	108

れ

レコーダ情報コマンド	199
レコーダ選択コマンド	197
レコーダ選択ダイアログ	203
レコーディングパネル	92